

資料 1-1

平成 29 年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会

法人本部

法人本部

1. 概況

運営面については、通所施設では、出席（通所）率をいかに上げるか、また入所施設では入所定員の確保をいかにしていくのかということを目標に運営をしてきましたが、あけぼの園は、出席率は当初の見込みよりやや減りましたが、日中一時支援の利用者が増えたことにより増収となりました。しかしながら、安定した経営を考えると児童発達支援の利用者数がここ数年減ってきているので、今後はいかに利用者数を増やしていくのが課題となっています。

すこやか園の児童発達支援事業は、グループ編成を見直し登園日を増やしたことや昨年度に見学対応の日数を増やしたことから年度当初から、利用可能枠がいっぱいになったことと、日中一時支援の利用者数とモニタリングの件数が増えたことにより、収入は昨年度より増収しました。すこやか園地域活動支援センターも新規利用者が2名増加し、昨年度に比べて延べ利用者数が132名増加しました。また、生活支援センターは、サービス等利用計画作成件数が増加し、増収となりました。

ソーレ平塚地域支援センターのケアセンターは、昨年度に比べ延べ利用人数は解約者が多かったこともあり減少しました。療育園の児童発達支援は、利用者が1名増え、延べ利用日数が増加したものの生活介護の延べ利用人数は減少しました。5月にパート職員を雇用したことにより職員配置加算と看護師配置加算をとることができましたが、増収には至りませんでした。地域活動センターのタイムケア事業は近年、登録者数は減少傾向にあります。欠席者が少なかったこともあり昨年度より利用者数は増えました。生活支援センターは、平塚市よりモニタリングの期間延長がなされたこと、利用者の死去や介護サービスへの移行により、サービス等利用計画作成件数は昨年度に比べてやや減少しました。

精陽学園は、昨年度に比べ平均在籍人数が目標としていた50名に届かない状況（48.6名）でした。これは、神奈川県、横浜市、川崎市との定員協定の枠の調整がうまくいかなかったこと、家庭から長期利用の希望者がいなかったこと、入所候補者は幼児が多く、年齢的、体力的に移行が難しかったこと、入所児童は男児が多く、新規で男児を受けるとは居室の関係で難しい等の理由により、定員の空きを埋められず減収となりました。

ソーレ平塚においては、体調不良による入院は昨年度に比べて延べ件数、延べ人数とも3割に減少し、平均入所者数は昨年度を上回りましたが、職員の退職により9月から夜間の職員配置体制において準夜勤務職員を配置することができず夜間職員配置加算をとることができなくなり、大きく減算することになりました。

職員採用においては、年度途中での欠員（保育士、生活支援員、看護師）補充ができない状態が一部の施設で続き、療育・支援、収入等に支障が出ている状況があり、インターネットでの求人、派遣、人材紹介等を活用して募集していますが良い人材が

見つからず苦慮しているところです。

計画相談支援については、年々相談件数が増え、かつ相談内容も多様化してきており、質の高いサービスを提供し、相談支援専門員の質を向上させ地域ネットワークを形成する等、他事業所等との連携がより必要になってきています。そこで、年度当初にすこやか園の常勤相談支援専門員を1名増員し、9月からすこやか園の相談支援専門員をあけぼの園と兼務とし、併せてすこやか園とあけぼの園においてインターネットを利用した情報共有サービス（クラウドサービス）の利用を開始し、どちらの事業所においても情報を得られるようにするとともに、個人情報等のデータをフラッシュメモリ等で持ち歩かなくてよいようにしました。また、ソーレ平塚生活支援センターとすこやか園生活支援センターの相談支援専門員が定期的に集まり情報共有を図り、相談支援事業を充実させるようにしました。

当法人では、年度当初の事業計画に示してある法人の基本理念を念頭に利用児者の安心と安全を守り、療育や支援等の各種サービスを提供することために各施設の実情に合わせて防犯設備を導入し、防犯備品を購入しました。また、未然に犯罪や災害から利用児者を守るよう防犯講習会や防災研修会を開催、もしくは職員を派遣しました。

各施設とも経年劣化に伴う建物や設備の補修工事や交換が増えており、今年度はあけぼの園と精陽学園の建て替えについて設計事務所と話し合いを持ちましたが、精陽学園の建て替えにあたり、都市計画法や市の条例による制約、施工方法、工期、建設費の問題等が出てきたため、今後も継続して検討していく予定です。

2. 平成 29 年度 経営目標

(1) 法人運営の見直し

これまで法人内の業務の執行については、本部である程度の素案を作り、それを法人経営会議に諮り決定してきましたが、今年度より組織改編で法人本部に本部長を置き、本部長の統括の下、法人内の各施設長及び法人本部課長に次の5項目をそれぞれ担当させ、施設単位ではなく各々の施設の垣根を超えた法人全般にわたる業務を担うことで適切な広い視野の中で法人運営を行うようにしました。

①職員採用・人材育成

職員採用は、現在、インターネット（求人サイト）・ハローワーク・県社協の人材センターによる就職相談会・折り込み広告を通して施設単位で行っていますが、上半期に立ち上げた検討委員会にて効果的な方法を検討した結果、法人ホームページを有効に活用できるとよいが現在のホームページは、使いづらい部分があるためホームページの整備が早急に必要であるという意見があがり、来年度は見直す予定です。

人材育成は、各施設の特성에応じた研修に加え、法人全体を横断的に考

え、階層別に必要な内容と職員のつながりを強められるような内容にしていく必要があり、職員採用と同様に検討委員会にて協議した結果、人事考課評価者が職員面接をする中で感じていること等を集約し、その中から階層ごとのテーマを設定して階層別研修を実施するという方向性が決まり、来年度はこれを基にした研修を実施する予定です。

②人事労務管理・法人内の情報システム管理

労務管理については、職員のメンタルヘルスの対応に当該施設長とともに社会保険労務士のアドバイスを受けながら、復職のプロセスを検討し、就業規則の復職の規程に就業上の配慮項目を追加し、復職後の対応をより明確にしました。また、車両事故防止のためのドライバーチェック、ドライブレコーダーによる運転チェックを実施しました。

法人内の情報システムの管理については、あけぼの園とすこやか園の相談員兼務に伴い、2施設間で情報共有するためクラウドサービスの利用を開始しました。また、前年度に導入したソーレ平塚の情報共有システムの設定を修正し、同システムをソーレ平塚地域支援センターに導入するために職員への説明と精陽学園での同システム導入に向けて業者に見積り依頼を行いました。

来年度の法人ホームページの再整備に向けて業者と打ち合わせをし、見積もりを取りました

③コンプライアンスの徹底・規定の整備

法令遵守の周知・徹底のため、「社会福祉法人至泉会コンプライアンス規程」を定めました。

また、就業規則の復職規程に就業上の配慮項目を追加し、復職後の対応をより明確にしました。

④大規模修繕・建て替え計画

精陽学園の建て替えを行うために設計事務所、行政、地域関係者との協議を始めましたが、都市計画法等の法律、施工方法や工期等の課題を解決しなければならず、今後も継続して検討していきます。

ソーレ平塚では、大規模修繕の検討を行い、冷温水発生器、給湯・暖房ボイラー、LED照明の交換及び、外壁塗装、屋上の防水塗装を計画し、平成30年度に実施する予定にしています。

あけぼの園は、現状の施設が当面利用できる状態であり、法人全体の事業展開の中で建て替えの必要性を検討することにしました

⑤財務規律の強化

八木時雄税理士による会計業務の月次巡回監査を実施しました。また、平成29年7月4日に施設管理者を対象に「法人会計に関する研修会」を行い、社会福祉法人会計の計算書類の読み方・財務分析について、平成28

年度決算を過去3年間の経営状況と比較し活動状況を分析して、人件費の割合の変化から経営のスリム化を検討し、今後の法人経営に役立てるようにはしました。

(2) 法人組織の改編

①本部機能の強化

法人本部に本部長を置き、業務執行の統括責任者として先述した法人運営の見直しを進めました。

②相談支援体制の強化

これまで相談支援事業は、あけぼの園、ソーレ平塚生活支援センター、すこやか園生活支援センターの3施設で独立して行ってきましたが、今後、年々増える相談件数に対応し、各施設の相談支援事業を充実させるためには、安定した人材確保と人材育成が求められます。このためには日常的な人材交流とそれが可能な環境設定が必須であると考え、まず今年度は、すこやか園の常勤相談支援専門員を1名増員し、9月からすこやか園の相談支援専門員をあけぼの園と兼務としました。そして、ソーレ平塚生活支援センターとすこやか園生活支援センターの相談支援専門員が定期的に集い、情報共有（クラウドサービスの利用も含む）とスキルアップを図り、将来の一体化に備えました。

また、今年度は、将来、法人内相談支援事業所を一体化することを視野に入れ、ソーレ平塚地域支援センターを通所支援課と相談支援課の二課制とする組織改編も併せて行いましたが、これにより相談支援事業をより円滑に、かつスピーディーに行うことができるようになりました。

(3) 労務管理

ストレスチェックは、今年度も本来少人数の事業所は対象になりませんが、あけぼの園とすこやか園も含め、法人内の全施設を対象として実施しました。また、昨年度と同様にあけぼの園とすこやか園においても、精陽学園とソーレ平塚で委託契約している産業医にお願いして、8月及び2月に訪問していただき、ストレスチェックの結果診断、職員健康診断の結果診断、職場の安全衛生管理指導をしていただきました。

職員が私傷病欠勤から復職するときに法人、施設としてどのような配慮や具体的な復職プログラムを作成したらよいのか等、中原社会保険労務士のアドバイスを受け検討し、それを基に規程の改正をしました。

(4) 利用定員の確保、並びに職員の欠員補充を行い安定した経営を行う。

通所・入所施設とも利用児・者数をいかに増やしていくかということと職員の欠員をいかになくすかということが課題となっています。

今年度、すこやか園は、契約者を増やすために前年度に見学者の対応を増やし、今年度のグループ編成を見直し登園日を増やしたことで延べ利用人数が増

えましたが、他施設もこのような工夫をすることで今後も利用者の獲得につながるようにします。

ソーレ平塚では、定員は満床だったものの欠員だった職員の補充がままならず加算をとることができなくなりました。また、職員の欠員による過重労働も問題となっています。したがって、他施設も含めて職員採用をどのようにしていくのか今年度立ち上げた「職員採用・人材育成についての検討委員会」において今後も検討していきます。

(5) 各施設の防災対策等の危機管理並びにリスク管理の充実

各施設で事業計画に則り防災訓練を実施すると共に、法人としては、中原社会保険労務士を招き総括安全衛生委員会を9月と3月に開催し、各施設の熱中症・感染症対策、安全衛生状況、労災状況、ストレスチェック実施状況を確認しました。

防犯については、法人内の事業所でどのような対策をしたらよいのか検討しました。また、警察署と情報を共有し、防犯講習会を施設内で開催し、実際にどのような対応をしたらよいのかを学びました。

防災については、施設ごとに日ごろから地域との関わりを大切にして、地域の自治会や防災組織と連携をとるように努め、災害時に地域で孤立しないようにしています。

(6) 情報の公開、社会貢献活動の実施

今年度も法人機関紙「しせん（第4号）」を発行し、各施設の現況ならびに法人の事業報告及び決算報告を掲載しました。また、法人と全国経営協のHPに法人の事業報告ならびに決算報告、監事監査報告、現況報告を掲載しました。

社会貢献活動は、保護観察対象者の社会貢献活動の受け入れを7月31日、8月28日、12月22日に延べ4名受け入れました（ソーレ平塚、およびソーレ平塚地域支援センター）。

2. 評議員会開催状況及び主な議題

(1) 平成29年6月17日（土） 場所：ソーレ平塚

① 規程の変更について

- ・ 経理規程
- ・ 評議員選任・解任委員会細則
- ・ 定款細則

② 平成28年度 事業報告について

③ 平成28年度 決算報告について

④ 監事監査報告

⑤ ソーレ平塚ケアセンターの車両の購入について

⑥ 評議・役員（理事及び監事）の報酬等に関する規程について

- ⑦任期満了に伴う役員の改選について
 - ⑧評議員の退任に伴う新評議員の就任について
 - ⑨その他
- (2) 平成 29 年 11 月 11 日 (土) 場所：すこやか園
- ①平成 29 年度 資金収支補正予算について
 - ②平成 29 年度 上半期事業報告について
 - ③神奈川県指導監査・実地指導の結果(報告)について
- (3) 平成 30 年 3 月 17 日 (土) 場所：秦野市立北公民館
- ①規程の制定、変更について(報告)
 - ・コンプライアンス規程
 - ・就業規則の変更
 - ・準職員就業規則の変更
 - ・経理規程の変更
 - ②平成 29 年度 資金収支補正予算について
 - ③平成 30 年度 事業計画について
 - ④平成 30 年度 資金収支予算について

3. 理事会開催状況及び主な議題

- (1) 平成 29 年 6 月 2 日 (金) 場所：ソーレ平塚
- ①規程の変更について
 - ・経理規程
 - ・評議員選任・解任委員会細則
 - ・定款細則
 - ②平成 28 年度 事業報告について
 - ③平成 28 年度 決算報告について
 - ④監事監査報告について
 - ⑤任期満了に伴う役員の改選について
 - ⑥評議員の退任、新評議員の推薦について
 - ⑦ソーレ平塚ケアセンターの車両の購入について
 - ⑧理事長並びに常務理事の業務執行状況(報告)について
 - ⑨評議員会の開催(日時、場所、議題等)について
 - ⑩その他
- (2) 平成 29 年 6 月 17 日 (土) 場所：ソーレ平塚
- ①理事長ならびに常務理事の選任について
 - ②監事退任に伴う新評議員選任・解任委員の選任について
 - ③その他

(3) 平成 29 年 11 月 2 日 (木) 場所：ソーレ平塚

- ①ソーレ平塚の厨房機器の入れ替えについて
- ②すこやか園の車両購入について
- ③法人の自動車保険について
- ④ソーレ平塚の清掃委託契約について
- ⑤平成 29 年度上半期事業報告について
- ⑥平成 29 年度 資金収支補正予算について
- ⑦規程の変更について
 - ・給与規程・細則
- ⑧評議員会の開催(日時、場所、議題等)について
- ⑨その他
- ⑩理事長並びに常務理事の業務執行状況(報告)について
- ⑪神奈川県指導監査・実地指導の結果(報告)について
- ⑫その他(報告)

(4) 平成 30 年 3 月 2 日 (金) 場所：ソーレ平塚

- ①規程の制定、変更について
 - ・コンプライアンス規程
 - ・就業規則の変更
 - ・準職員就業規則の変更
 - ・経理規程の変更
- ②平成 29 年度 資金収支補正予算について
- ③平成 30 年度 事業計画について
- ④平成 30 年度 資金収支予算について
- ⑤評議員会の開催(日時、場所、議題等)について
- ⑥その他
- ⑦理事長並びに常務理事の業務執行状況(報告)について
- ⑧その他(報告)

4. 評議員選任・解任委員会の開催状況

実施日：平成 29 年 6 月 2 日 (金) 場所：ソーレ平塚
内 容：平成 29 年 6 月 17 日からの評議員選任について

5. 監事監査の実施

実施日：平成 29 年 5 月 30 日 (火) 場所：ソーレ平塚
内 容：平成 28 年度事業報告及び決算の監査

6. 内部監査の実施

実施日：平成29年11月30日（木） 場所：あけぼの園

内 容：園児への療育・支援、あけぼの園の請求事務等の監査

7. 外部表彰の推薦と法人内表彰の実施

(1) 法人内表彰

①法人永年勤続表彰

実施日：平成29年4月4日（木）

対象者：18名

内 容：勤続7年、10年、15年、20年、30年の職員の表彰

②法人特別表彰

氏 名：米満 妙子 氏（すこやか園）

内 容：アルバイト看護師として、多年にわたりすこやか園に通所する園児、
利用者の健康管理に務めたことを賞し、顕彰した

(2) 外部表彰

①神奈川県社会福祉関係者等表彰（県知事表彰）

内 容：永年勤続者表彰（15年以上表彰40歳以上）

氏 名：島田 哲 氏（ソーレ平塚地域支援センター）

勝山 靖史 氏（ソーレ平塚）

②神奈川県社会福祉協議会

内 容：永年勤続者表彰（15年以上表彰）

氏 名：峯本 敦史 氏（精陽学園）

堀 裕質歌 氏（ソーレ平塚）

③日本知的障害福祉者協会

内 容：知的障害者福祉事業功労者表彰（20年以上表彰）

氏 名：伊藤 美晴 氏（あけぼの園）

④全国身体障害者施設協議会

内 容：永年勤続者表彰（15年以上表彰）

氏 名：堀 裕質歌 氏（ソーレ平塚）

⑤全国関東・甲信越地区身体障害者施設協議会

内 容：永年勤続者表彰（10年以上表彰）

氏 名：勝山 靖史 氏（ソーレ平塚）

中川 淑子 氏（ソーレ平塚）

青木 智矢 氏（ソーレ平塚）

⑥平塚市社会福祉協議会

内 容：社会福祉功労者顕彰（感謝）

氏名：竹中 留美子 氏

多年にわたりボランティアとして精陽学園の園児の衣類に名前付けを行い、施設への貢献が大きいことから推薦した。

8. 債務の返済状況

(1) 元金

(単位 円)

借入先	借入総額	借入残高 (H29. 4. 1)	償還金	借入残高 (H30. 3. 31. 現在)
神奈川県 社会福祉協議会	10,000,000	2,500,000	500,000	2,000,000
独立行政法人 福祉医療機構	286,000,000	14,300,000	14,300,000	0
合計	296,000,000	16,800,000	14,800,000	2,000,000

(2) 利子

(単位 円)

借入先	償還金利子 (H29 年度)	償還金	償還金利子残高 (H30.3.31 現在)
独立行政法人 福祉医療機構	328,900	328,900	0

9. 会議・委員会・職員研修会の開催

(1) 法人経営会議

実施日：毎月1回

内容：法人の課題等の検討他

(2) 法人施設運営会議

実施日：毎月1回

内容：各施設の運営状況等の報告他

(3) 事務員会議

実施日：平成29年7月27日(木)、

場所：ソーレ平塚

内容：交通費の清算方法について

(4) 総括安全衛生委員会

①実施日：平成29年9月4日(月)

場所：ソーレ平塚

内容：各施設の熱中症対策、感染症予防対策、感染症の発生状況、その他の安全衛生について

労災事故の発生状況について
防犯対策について
ストレスチェックの実施状況について
うつ病からの復帰プロセスについて

②実施日：平成 29 年 3 月 22 日（木）

場 所：精陽学園

内 容：各施設の感染症予防対策、感染症の発生状況、その他の安全衛生について

労災事故の発生状況について
あけぼの園の防災設備・備品・職場内環境の点検
ストレスチェックの実施状況について

(5) 表彰・懲戒委員会

実施日：平成 30 年 1 月 18 日（木）

場 所：ソーレ平塚

内 容：永年勤続表彰、次年度の外部表彰推薦について

(6) 法人機関紙編集委員会

実施日：平成 29 年 5 月 10 日（水）、平成 29 年 7 月 5 日（水）

場 所：ソーレ平塚

内 容：法人機関紙「しせん」第 4 号の発行および発行に向けての打合せ

(7) 社会保険労務士との打ち合わせの実施

実施日：不定期

場 所：ソーレ平塚

内 容：社会保険、就業規則、労災、労務管理等の相談

(7) 税理士による会計指導の実施

定例打ち合わせ

実施日：月 1 回及び決算時期

場 所：ソーレ平塚

内 容：社会福祉法人会計の指導、月次巡回監査、決算業務指導
TKC 経理ソフト導入による委託契約

(8) 社会福祉法人会計研修

実施日：平成 29 年 7 月 4 日（火）

場 所：すこやか園

内 容：八木時雄税理士を講師に招き、理事長、施設長、副施設長を対象に
社会福祉法人会計の計算書類、財務諸表の見方を学び経営に生かせるよ
うにした。

(9) 法人新採用（1 年目）職員研修

実施日：平成 30 年 3 月 14 日（水）

場 所：ソーレ平塚

内 容：法人全体の理念の理解、不適切なかかわりをしないため、虐待防止についての再確認をする、組織の一員としての立場と役割の理解、仕事上の悩みや課題の共有を通して自己の成長を促し、療育や支援の向上につなげる、人が人を支援することの意味を考える

10. その他

(1) 寄付金 3件…210,000円

(2) その他の会議、研修等への参加状況（法人関係）

実施日	内容	会場	参加者
平成29年4月3日	法人辞令交付式	ソーレ平塚	理事長他
平成29年4月3日	法人新採用職員リエンション	ソーレ平塚	理事長他
平成29年4月4日	法人永年勤続表彰式	ソーレ平塚	理事長他
平成29年4月13日他	JSY ネット事務局打ち合わせ	ソーレ平塚	常務理事
平成29年4月28日	県福祉施設事業所団体説明会	県民ホール	理事長他
平成29年5月1日	法人辞令交付式	ソーレ平塚	理事長他
平成29年5月13日	第1回法人就職説明会	すこやか園	常務理事他
平成29年6月22日	経営者部会総会	ホテルロッドジャパン	理事長
平成29年6月29日	平塚地区4法人就職相談会	平塚プレジール	常務理事
平成29年7月15日	平塚地区福祉のしごとフェア	平塚ラスカ	常務理事
平成29年7月16日	寿徳会夏祭り	はだの松寿苑	理事長他
平成29年7月21日	法人職員交流ボーリング大会	伊勢原ボウル	理事長他
平成29年7月26日	経営者部会研修会	県社会福祉会館	理事長
平成29年8月28日他	経営者部会社福改革フォローアップセミナー	ホテルロッドジャパン	常務理事
平成29年8月29日	JSY ネット職員研修会	ソーレ平塚	理事長他
平成29年9月28日	福祉新聞フォーラム	東京ビッグサイト	常務理事
平成29年10月5日	介護事業所・新規事業所労務管理セミナー	神奈川県労務安全協会	本部課長
平成29年10月28日	福祉人材センター就職相談会	横浜文化体育館	常務理事
平成29年11月24日他	県民間知的施設協同会事務研修部会	保土ヶ谷区社協	本部課長他
平成29年11月28日	適正な労働時間及び過重労働の防止に係るセミナー	平塚地方合同庁舎	本部課長
平成29年12月9日	伊勢原市ふれあい福祉まつり	すこやか園	理事長他
平成29年12月22日他	経営協社会福祉法人の経営労務管理研修	厚木文化会館	理事長他
平成30年1月30日	経営協福祉法人の経営労務管理セミナー	ホテルJALシティ田町東京	理事長
平成30年2月4日	経営協会計実務者決算講座	東京ファッションビル	本部課長
平成30年3月7日	JSY ネット定例会	ソーレ平塚	理事長他

資料 1-2

平成 29 年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会

あけぼの園

I 児童発達支援事業

1. 概況

療育内容を見直して2年目の今年度は、療育の柱として、子どもたちに『見通しをたたせる』ことと、『達成感を持たせる』ことを職員間で検討して療育を進めてきました。支援はクラスを中心とし、クラスの子どもたちの状態を見て、どのようなことが提供できると良いかについてクラスごとに考え、支援を行いました。

また、保護者への連絡には従来の連絡網体制を廃止し、業者によるメール配信サービスの利用を開始して、緊急を要するものを中心に使用しました。

9月上旬に原因不明の高熱を伴う感染症が流行したため、平塚保健福祉事務所秦野センターに報告をし、助言を受けました。この時の助言や感染状況について、適宜、メール配信サービスを用いて保護者に伝えることができました。

職員の状況としては、年度当初より2名の職員が上半期に退職することが分かっていたため、それを見越して新規採用を行い、療育の安定を図りました。

2. 運営目標の取り組みについて

(1) 療育支援では、子どもたちに『見通しをたたせる』ことと、『達成感を持たせる』ことを大切にしました。園児個々にマークを準備し、棚、かご、椅子、下駄箱に貼り、他にも部屋のマークや日課表を用いる等、見て分かる支援を通して、子ども自身に分かること、自分で行って「できた」という達成感を持てることを支援の共通認識事項としました。具体的な支援の場はクラス（クラス単位）とし、クラスの子どもたちにとってより良い方法をクラスごとに考えアプローチしました。より良く支援を行えるよう環境設定や働きかけを行い、合わない場合は見直し、新たな方法を子どもたちに提示しました。その際、目先のことにとらわれるのではなく、子どもたちの言動の背景、障害特性や性格を捉え直し、修正を行いました。また、児童精神科医や作業療法士に支援の場を見てもらいアドバイスを受けたものを職員が良く理解したうえで、療育に取り入れました。

日々の療育終了後にクラス職員で一日を振り返りました。また、月1回、クラス会議を行い、クラス内の懸案事項や支援の確認、見直しを行いました。個別支援計画作成・見直しのための支援調整会議では、保護者のニーズを確認し、子どもたちの状態や発達を考察して個別支援計画を立案しました。

(2) 保護者に対しては、4月中旬の保護者勉強会において『あけぼの園の療育で大切にすること』をテーマとして話をし、療育について保護者に理解を得る働きかけをしました。また、昨年度に引き続き、予約なしで療育支援を公開し、現状を理解してもらえるようにしました。個別支援日や面談日に加え、必要があれば面談や電話でのやりとりをする等、保護者との共通認識や保護者の不安解消に努めました。

3. 利用児の状況について

今年度は在籍児 30 名で開始しましたが、5 月と 7 月に 1 名ずつ新たに園児を迎え、32 名の在籍で今年度の受け入れを終了しました。開園日数が 244 日、延べ利用人数が 6,600 名、平均一日利用人数が 27 名でした。園児は 2 歳児から年長児までおり、年中児・年長児が全園児の 65.6%を占めました。園児は 2 市 2 町（秦野市、伊勢原市、二宮町、松田町）から登園してきました。（表 1-1~4）

今年度の卒園児は年長児 13 名、年中児 2 名でした。進路としては特別支援学校 5 名、特別支援学級 8 名、保育所 1 名、転居(転園)1 名となっています。

4. 支援内容について

(1) 日々の支援について

今年度からクラスを中心とした支援にしました。1 クラスの園児を 10~11 名、職員を 3 名のクラス担任と専任の補助職員 1 名の 4 名体制としました。療育内容は、運動、感覚・感触、造形、楽器、玩具等とし、季節感も意識できる内容としました。療育内容の中で静と動を組み合わせることで、園児がより集中し意欲を持って参加できるようにし、また園児自身が分かるよう見て分かる支援を多く用い、がんばって取り組んで達成感を持てるようスモールステップの課題設定としました。

給食については、きざみ食やアレルギー食を必要な園児に対して提供しました。また、食事時間が楽しいと思う中で食具の操作性が高まり積み重なっていくアプローチをしました。

(2) 個別支援、個別面談

個別支援は、個別支援計画を基にした内容で行いました。ひとりにつき 1 回 45 分、年 6 回行いました。個別面談は個別支援計画の立案に関しての内容で、ひとりにつき半期に 2 回、合計 4 回行いました。上記以外の個別面談は必要に応じて行いました。

(3) 委託職員による個別支援について

①理学療法士の支援について

理学療法の対象となる園児 5 名、延べ 20 名が支援を受けました。

②児童精神科医による助言指導

1 日あたり 3 名、全園児の保護者が児童精神科医に子どもの様子を見てもらい、助言を受けました。

(4) クラス懇談会、クラス保育参加

クラス懇談会を午後に実施しました。これは、『クラス職員は全員懇談会に出席してほしい』という保護者の声に対しての対応で、安全面を考えて緩やかに過ごす午後に他クラスの職員が当該クラスに入って園児に対応することで前後期に 1 回ずつ懇談

会を行いました。

クラス保育参加は1クラスあたり年3回行いました。1回目を母親、2回目を父親中心に行い、療育に参加して知ってもらう機会としました。3回目は遠足的要素で実施しました。

(5) 保護者勉強会・保護者講演会

保護者勉強会については『あけぼの園の療育で大切にすること』(4月)と『就学の流れについて』(5月)をテーマに行い、延べ40名の参加がありました。

保護者講演会は2月に行いました。うめだあけぼの学園副園長であり、作業療法士の酒井康年氏を迎えて、『それって感覚のトラブルが原因かもー感覚のトラブルと子どもの成長発達についてー』というテーマで講演をしていただき、23名の保護者が出席しました。

(6) 行事等

①なつまつり

7月の第5土曜日の午後に行いました。「おぼけ」をテーマにお化け屋敷、すいか割り等のイベントを行いました。育泉会(父親の保護者会)のお父さん方がかき氷やヨーヨー釣りのお店を出して協力してくれました。

②おはなしころりん

秦野市のボランティアサークル『おはなしころりん』が来園し、歌遊び、手遊び等を通して園児と楽しい時間を過ごしてくれました。前期に2回、後期に1回実施しました。

③誕生会

月1回、誕生月の園児に対して行いました。

④内科検診、歯科検診

前後期に1回ずつ行いました。内科検診は嘱託医が実施し、歯科検診は秦野伊勢原歯科医師会の協力を得ました。

⑤身体測定

隔月実施で、年6回行いました。身長計と体重計を運んで、各クラスで行いました。

⑥家庭訪問

新入園児を対象に5月に行いました。

⑦幼稚園等との交流

・秦野市立北幼稚園との交流

年長児を中心に1回あたり約5名の園児が幼稚園に1時間訪問して交流を図りました。幼稚園を訪問しての交流を年5回、幼稚園児にあけぼの園に来てもらう交流を2回行いました。

・その他

秦野市の居住地交流、伊勢原市の発達サポート事業に園児が参加しました。

5. 組織

組織図については、表 2-5、職員構成および実績については、表 2-6 を参照願います。

6. 会議・研修

(1) 園内会議

今年度は療育方法の再変更に伴い、年度開始初日の職員会議にて、療育目標の確認を全職員で行いました。また、法人の研修体系についても確認しました。

療育会議、クラス会議（4、5月は未実施）において、各部門等の懸案の検討や確認を月1回、個別支援計画立案のための支援調整会議を1ケースにつき前後期に1回ずつ行いました。

月1回の給食会議では、委託業者の職員と園児により良い給食を提供できるよう協議をしました。次年度入園予定の園児数名が食形態に配慮が必要であったため、新年度より円滑に給食が提供できるよう打ち合わせました。

また、委員会や係、行事の打ち合わせを必要に応じて実施しました。

(2) 研修

①内部研修

ケース会議を年6回、園内職員による勉強会を年3回、外部講師による研修を年2回行いました。

外部講師の研修については、作業療法士より『不器用について』のテーマで、また、産業医からは、『緊急時の対処』のテーマで講義をしてもらいました。嘱託医の児童精神科医より、療育支援の場を見て保護者の相談にのってもらうことを園児1名につき年1回行っていることが、職員の研修的要素となりました。作業療法士にも療育支援の場に年2回入ってもらい、職員へアドバイスをしてもらいました。

また、保護者講演会に6名の職員が出席し、後日、出席した職員から他職員へ伝達講習を実施しました。

②外部研修

『子どもの発達』『障害と対応』『職員の精神衛生』『救命救急』『安全運転』『事務』等、幅広い分野へ職員が出席しました（表 2-1-①）。

7. 衛生・安全・防災

(1) 衛生面

9月上旬に、高熱で休む園児が1クラスに複数名出たことを皮切りに、高熱で欠席する園児が多数現れ、園全体に広がったため、平塚保健福祉事務所秦野センターより医師と看護師が状況確認のため来園し、原因不明の感染症であるとの判断でした。終息するまでの2週間、毎日園内の感染状況を報告し、助言を受けました。

感染症予防のため、日常的におもちゃ類や手すり等、また療育室や送迎バス内の消毒をこまめに実施しています。

厨房では年2回、害虫駆除を行いました。

(2) 安全面

日々の支援の中で、事故につながりそうな出来事をヒヤリハット報告書に、事故が起こった場合は事故報告書に記載すると共に、日々の帰りの打ち合わせにおいて職員間で共有を図りました。

防犯については充実を図るために、防犯研修に職員が出席しました(表2-1-①)。

(3) 防災面

今年度早々に消火器訓練を行いました。月1回の避難訓練では、火災の想定をこれまでの園内に園児がいることに加え、朝の送迎中、あるいは屋外支援をしていた時等、想定を増やして訓練を行いました。その結果、複数のクラスやグループ(クラスを複数に分けてグループ化したもの)が園外にいた時には連絡の周知に時間がかかるという課題が顕在化したため対応を検討し、連絡の有無にかかわらず、園舎が燃えていた場合の集合場所を定めることにしました。

8. 関係機関との連携

(1) 相談支援事業所について

サービス等利用計画作成に関して、ほとんどの園児が当園の相談支援事業所を利用していますが、他事業所を利用している園児については保護者の了解のもと連携を図り、見学の要請に応えました。

(2) 就学について

次年度の就学児に対して、各市・町の教育委員会と学校併せて12機関から見学や情報交換の要請等を受けて、適宜対応しました。また、職員1名が秦野市の就学指導委員会に出席しました。

前年度就学した子どもの学校から要請があった場合、保護者の了解を得たうえで、引継ぎを行いました。また、保護者、学校・教育委員会、幼稚園の了解を得られたケースについて、夏休み前を中心に学校見学や幼稚園見学を合計5回行いました。

(3) 幼稚園、保育園について

秦野市立北幼稚園に、年長・年中児を中心とした園児が順番に交流に行きました。また、秦野市の公立幼稚園の居住地交流システムを用いて、保護者が同伴し、職員の

付き添いのもと月1回1時間公立幼稚園へ交流に行きました。伊勢原市については、発達サポート事業を利用して、園児（保護者が希望する園児）が3ヶ月間保育園と交流しました。

これらの事業への参加を通して、次年度の進路を考える上で、保護者の参考となりました。

(5) 当園への入園希望児について

次年度に当園への入園を視野に入れた保護者に対して、対象児と保護者がクラスに入っている個別見学を行いました。今年度はこれまでと実施方法を変えた市・町が複数あり、見学人数が増えました。

(6) その他

今年度職員が秦野市の自立支援協議会こども部会、就学指導委員会、および社会福祉協議会施設部会で委員を担いました。

また、児童発達支援の圏域児童通所連絡会へ出席し、各施設の状況や問題点等を認識することができました。

ボランティアとして、秦野市北地区民生委員児童委員協議会の方が運動会やクリスマス会で協力してくれました。また月1回、2名の方たちが順番に来園して園児と関わりを持ってくれました。秦野市のボランティア団体『おはなしころりん』は手遊びうた等の催しを行ってくれました。

9. その他

(1) 指導監査・実地指導について

平成29年8月31日に神奈川県障害福祉課の実地指導・指導監査を受けましたが、指摘事項はありませんでした。

(2) 実習生・他機関見学者

東海大学医学部の学生4名が、9月末の1週間と10月初旬の1週間に2名ずつに分かれ、クラスに入り実習を行いました。

6月に伊勢原市子ども家庭相談課職員2名、7月に秦野市子育て支援センター職員18名が見学に来ました。

(3) 広報活動

ホームページを毎月更新しました。

機関紙『80センチ』を9月に発行しました。

(4) 修繕等

施設の老朽化に伴うものが多く、以下を行いました。

① 交換・購入

分電盤・ブレーカー、コンセント、職員室エアコン、外門ドアシリンダー、窓ガ

ラス交換（8枚）、厨房大型冷蔵庫

② 修繕・検査

厨房水漏れ修繕、漏電検査、電気設備・消防設備の定期点検

(5) 職員の健康管理

年1回の健康診断、インフルエンザの予防接種を実施しました。

産業医によるストレスチェックの実施、および職場環境改善等の助言を受けました。

また、職員健康診断結果を基にした助言も受けました。

県障害福祉課の現地指導・監査の助言により、職員は毎日始業前にラジオ体操を実施するようにしました。

(6) その他

①寄付金 10件 総額 295,352円

Ⅱ 日中一時支援事業

1. 概況

これまで休止していましたが、新年度から在籍児 16 名で『あけぼの園日中一時支援事業ほのぼの』を再開しました。さらに、新入園児に対し 7 月に説明会を行い、10 月から受け入れを開始しました。

他の日中一時支援事業所を利用する児童が多く、毎月の利用がある児童は限られていましたが、他事業所との関係等で、利用日数を増やしたり、新たに契約・利用を開始したケースもありました。

2. 運営目標の取り組みについて

児童が安全に楽しく過ごせるように、療育後の家庭での様子の聞き取りを行うと共に、クラス職員から子どもの状況を聞き、支援を行いました。また、子どもの対応等で懸案が出た場合は、速やかにクラス職員とやりとりをし、より良い対応を考え支援に当たり、統一した関わりが出来るよう配慮しました。

利用日が限定され変更のきかない場合を除き、子ども同士の相性を考えた予定表を立て、支援にあたりました。

3. 利用状況

今年度、開所日数 211 日、延べ 470 名、一日平均 2.2 名の利用がありました。下半期は新入園児の利用開始や概要にあるような理由から、上半期に比べ利用数が増えました。

4. 内容

(1) 『日中一時支援事業』のマスコット（クマのぬいぐるみ）を作り、児童に分かりやすいように部屋に置きました。視覚刺激が有効な児童に対しては、マスコットの写真カードを提示することで、日中一時支援事業の教室への移動がスムーズになるよう支援しました。また、療育活動で使用しているスケジュール表を用い、統一した関わりが出来るよう環境整備しました。

(2) 療育終了後、午後 2 時より保育を開始し、午後 3 時頃をおやつの時間としました。おやつ時間を挟んで、前半はおもちゃを使った教室での『静の活動』、後半をホールや屋上、戸外での『動の活動』とし、めりはりのある活動を設定しました。また、体力があり落ち着かない児童に対しては、戸外活動を増やす等、個別に対応出来るようにしました。

(3) ボールプールマット、ハンモックチェア等の遊具の導入により、室内遊びの充実を図りました。

Ⅲ 障害児相談支援・指定特定相談支援事業

1. 概況

当園の相談支援専門員が11月末に退職することが、年度当初から分かっていたため、9月より、すこやか園生活支援センターの職員があげぼの園の相談支援事業を兼務することになりました。9月から11月にかけて引き継ぎを兼ねたモニタリングの面接と事業所訪問を2名の職員で行い、前任者が退職するまでに業務を円滑に後任者へ引き継ぐことができました。

2. 運営目標についての取り組み

(1) 関係機関との連携について

①相談支援専門員の変更については、すこやか園生活支援センター、当園の相談支援専門員2名が関係機関を訪問し報告しました。また、保護者の中には相談員変更に伴い、事業所を変更したいという保護者がいたため、該当の関係機関と変更について調整をしました。

②サービス利用が複雑化している利用者に対しては、基幹相談支援センターへ協力を依頼し、家族を含めたケース共有を通して課題の整理を行いました。また、行政、関係事業所に声を掛け、ケース会議を開催し、家族を交えて課題の共有や支援の方向性を確認する機会をつくりました。

(2) 法人内の相談支援事業の連携強化について

すこやか園生活支援センターの職員が当園の相談支援事業を兼務するにあたって、業務の効率化を図るため、12月よりインターネットを利用して情報を共有するサービス（クラウドサービス）の利用を始めました。また、すこやか園生活支援センターとの業務の統一化が図れるよう、集計や記録様式などを見直し、できる範囲での統一化を行いました。今後も、法人内の相談支援事業所間での会議を通して、業務の統一化や連携強化を図っていきます。

3. 利用状況

契約数は39名で、サービス等利用計画作成を45件、モニタリング報告書の作成を94件行いました。また、当園の児童発達支援事業を終了後も放課後等デイサービスなどの福祉サービスを利用するため、相談支援を継続する方が8名いました。

資料1 利用者の状況

表1-1

居住地区別園児の状況

	秦野	伊勢原	二宮	松田	計
男	21	2	1	0	24
女	6	1	0	1	8
計	27	3	1	1	32

表1-2

年齢別園児数

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
男	2	6	7	9	24
女	0	3	1	4	8
計	2	9	8	13	32

表1-3

市町別年度内入退園状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
秦野	入所	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
伊勢原	入所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
二宮	入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
松田	入所	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
入所計		9	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	11
退所計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15

表1-4

年度内退園園児の退所先

就学による卒園			その他				計
特別支援学校入学	小学校入学	その他	保育園入園	幼稚園入園	転居	その他	
5	8	0	1	0	1	0	15

表1-5

介護度 (全国知的障害児通園施設実態調査による分類)

	1	2	3	4	5	計
食事	食べられないため食べさせてもらう	手づかみでは食べるがスプーンは使えない	手づかみやスプーンで食べる	スプーンやにぎりばしで食べる	箸を使って食べられる	
人	0	0	20	7	3	32
排泄	オムツを必要とする段階	大小便とも時間を決めてつれていく(失敗可)	大小便とも予告できる(失敗可)	大小便ともほぼ自立するが、後処理不完全	大小便とも自立	
人	1	15	4	9	1	32
着脱衣	すべて解除が必要(協力動作なし)	介助すれば協力しようとする	かんたんなものは自分で脱げる	着脱はほぼできるが、ボタンかけ等は困難	着脱ができ、ボタンかけ等も自分でできる	
人	0	8	15	6	3	32
移動	自力移動ほとんど不能	何らかの自力移動可能	独歩不能なるもつたい歩き可	独歩可能なるも危なかしい	歩行可能または不自由さはあるが皆と同様に歩ける	
人	0	0	1	2	29	32
言語	話せないし相手の言うことも分からない	話すことはできないが相手の言うことは分かる	身ぶりや声で表現しようとする	単語程度で意思交換可能	大体のことは言葉で通じあえる	
人	3	1	11	8	9	32
対人物関係	無関心、呼ばれても反応を示さない	呼ばれば反応を示す。特定の人や物には一応関心がもてる	人や物に関心をもち、表情や動作に表す	一方的なから人や物に対して働きかけ、初歩的な関係がもてる	友だちの世話したり今日遊んで遊んだりもする	
人	0	4	13	9	6	32

表1-6

障害の状況

てんかん	1	聴覚障害	0
肢体不自由、運動発達障害	1	ダウン症候群	6
自閉スペクトラム症	10	その他：内部障害(循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・代謝)	1
視覚障害(盲・弱視)	0		

複数回答あり

表1-7

児童発達支援利用状況

(単位 人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年度	開園日数	21	21	23	22	18	21	22	21	19	18	20	18	244
	初日在籍数	30	31	31	32	32	32	32	32	32	32	32	32	380
	延べ利用人数	534	595	641	593	476	595	606	578	536	454	523	469	6,600
平成28年度	開園日数	20	20	23	21	18	21	21	21	19	19	21	19	243
	初日在籍数	30	32	33	33	34	34	33	33	33	33	33	33	394
	延べ利用人数	530	539	670	593	499	606	580	584	474	484	584	533	6,676

表1-8

日中一時支援利用状況

日中一時支援(幼児)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用契約者数	16	16	16	16	16	17	18	18	19	20	21	21	—
開設日数	15	20	21	16	17	18	19	20	17	17	18	13	211
利用者延べ人数	29	34	34	28	40	29	42	45	48	43	48	50	470

資料2 施設運営の状況

表2-1-①

職員園外研修

月日	内容	場所	受講者
4/20	新任福祉施設等職員合同研修	県社会福祉会館	高梨
6/9	伊勢原市相談支援部会福祉事業所見学ツアー	ソーレ平塚、つくし、クロスワーク伊勢原	木村
6/26	乳幼児期の発達障害のアセスメントと支援	ひらつか市民活動センター	木村
7/3	いざというときに役に立つ福祉施設職員のための救命救急と防犯対策講習	秦野市保健福祉センター	柴山
7/4	法人計算書類研修会	すこやか園	園長、伊藤
7/13	障害者の個人情報とプライバシー	県社会福祉会館	伊藤
7/24	強度行動障害対策研修 ー応用行動分析学の基礎理論とその応用ー	県立中井やまゆり園	武藤
7/25	安全運転管理者講習会	大井町生涯学習センター	園長
9/16	発達障がい基礎格 ～絵カードを使った視覚支援とコミュニケーション～	港勤労福祉会館	稲毛、宮川、高梨
10/5	介護事業場・新規事業場労務管理セミナー	神奈川労務安全衛生協会	山田
11/9	アングラ・マネジメントを学ぶ	平塚市民センター	稲毛、村上、安藤
11/24	事務研修部会	保土ヶ谷社会福祉協議会	山田
12/15	自閉症スペクトラム症当事者が求める支援	神奈川県立子ども自立生活支援センター	武藤
1/26	児童発達支援管理責任者研修	サンピア川崎	稲毛
2/2	ペアレントトレーニングの活用 ー発達障害のお子さんに関わる支援者のためにー	アイクロス湘南	村上
2/16・17	全国施設管理者等研修会 ー重い障害のある子ども達への支援ー	はまぎんホール	園長
2/20	事務職担当研修	ソーレ平塚	山田
2/27・28	児童発達支援管理責任者研修	平塚市労働会館	稲毛
3/12	事務研修部会	かながわ県民センター	山田
3/14	法人新採用職員研修会	ソーレ平塚	今井、高梨

表2-1-②

職員施設見学

月日	場所	職員
7/7	秦野養護学校	安藤、柴山、宮川、高梨、伊藤
7/10	秦野養護学校	石毛、村上、木村

表 2 - 2
防災訓練

月日	訓練	出火想定場所	内容
4/21	火災	職員室	消防本部への火災発生模擬通報訓練・避難経路を経て南空地へ避難・避難誘導、点呼・出火場所への模擬消火訓練 ※同日午後、消火器訓練を実施（消火器4本を消防署から借用）。
5/16	火災	職員室	避難経路を経て北園庭へ避難、点呼
6/14	火災	職員室	消防本部への火災発生模擬通報訓練・避難経路を経て南空地へ避難・避難誘導、点呼・出火場所への模擬消火訓練
7/11	火災	職員室	消防本部への火災発生模擬通報訓練・避難経路を経て南空地へ避難・避難誘導、点呼・出火場所への模擬消火訓練
8/8	火災	1階倉庫	消防本部への火災発生模擬通報訓練・避難経路を経て玄関前に避難・避難誘導、点呼・出火場所への模擬消火訓練
9/13	火災	厨房	消防本部への火災発生模擬通報訓練・避難経路を経て南空地に避難・避難誘導、点呼・出火場所への模擬消火訓練
10/17	火災・地震	厨房	消防本部への火災発生模擬通報訓練・避難経路を経て玄関前に避難・避難誘導、点呼・出火場所への模擬消火訓練
11/15	火災	厨房	登園便のバス運行の際の火災を想定してのバスへの対処方法の連絡、消防本部への火災発生通報模擬訓練、出火場所への模擬消火訓練
12/19	火災	職員室	消防本部への火災発生通報訓練・避難経路を経て南空地へ避難・避難誘導、点呼・出火場所への模擬消火訓練
1/25	火災	職員室	消防本部への火災発生模擬通報訓練・避難経路を経て南空地へ避難・避難誘導、点呼・出火場所への模擬消火訓練 ※1/23に予定していたが、雪のために延期。
2/15	火災	職員室	消防本部への火災発生模擬通報訓練・避難経路を経て南空地へ避難・避難誘導、点呼・出火場所への模擬消火訓練（警報機故障でベルがならない）
3/13	引取		非常災害を想定し、親に一般交通機関を利用しての園児の迎えを依頼（マチコミを利用）
3/14	火災	厨房	消防本部への火災発生模擬通報訓練・避難経路を経て南空地へ避難・避難誘導、点呼・出火場所への模擬消火訓練

表 2 - 3

行事

月日	事業項目	付 記
4/4	入園のつどい	全園児（30名）出席
4/5	法人永年勤続表彰	出席者：木村 開催場所：ソーレ平塚
4/13	保護者勉強会	テーマ：あけぼの園の療育で大切にすること
4/24、25、27	個別支援日	24日：たんぼぼクラス、25日：あじさいクラス、27日：なでしこクラス
5/13	内科検診	
5/15～26	家庭訪問	対象：新入園児および昨年度途中入園児
5/23	北幼交流	
5/25	保護者勉強会	テーマ：就学のながれについて

月日	事業項目	付 記
5/29～31	個別支援日	29日：あじさいクラス、30日：なでしこクラス、31日：たんぼぼクラス
6/5、7、8	クラス懇談会	5日：たんぼぼクラス、7日あじさいクラス、8日：なでしこクラス
6/15	歯科検診	
6/20	北幼交流（秦野市北幼稚園との交流）	
6/27、28、29	クラス保育参加	27日：たんぼぼクラス、28日：あじさいクラス、29日：なでしこクラス
7/12～14	個別支援日	12日：たんぼぼクラス、13日：あじさいクラス、14日：なでしこクラス
7/20	おはなしころりん	
7/29	なつまつり	
8/1、3、4	面談日	3日：たんぼぼクラス、4日：あじさいクラス、1日：なでしこクラス
9/14	おはなしころりん	
9/19、21、25	面談日	19日：たんぼぼクラス、21日：あじさいクラス、25日：なでしこクラス
9/26	おいもほり	
10/7	運動会	場所：秦野市立北小学校体育館
10/18	北幼交流	
10/24、26、27	個別支援日	27日：たんぼぼクラス、24日あじさいクラス、26日：なでしこクラス
10/31	ハロウィン	
11/16	歯科検診	
12/5～7	個別支援日	7日：たんぼぼクラス、6日：あじさいクラス、5日：なでしこクラス
12/12	北幼交流	
12/15	クリスマス会	
1/16～18	個別支援日	16日：たんぼぼクラス、17日：あじさいクラス、18日：なでしこクラス
2/1	おはなしころりん	
2/1	豆まき	
2/6～8	面談日	7日：たんぼぼクラス、6日：あじさいクラス、8日：なでしこクラス
2/15	北幼交流	
2/20～22	クラス保育参加	22日：たんぼぼクラス、21日：あじさいクラス、20日：なでしこクラス 行先：藤沢市湘南台文化センター子ども館
2/24	保護者講演会	場所：秦野市立北公民館
3/1	次年度についての保護者説明会	
3/3	新入園児説明会	
3/6～8	クラス懇談会	6日：たんぼぼクラス、8日：あじさいクラス、7日：なでしこクラス
3/16	卒園児親子遠足	行先：戸川公園
3/23	卒園式	
3/26	在園児面談日	卒園児は日にちを定めず、3月中に実施。
※10/8、9	北地区福祉ふれあいまつり	園児作品掲示
10/14、15	まきの木まつり	園児作品掲示

※誕生会 …毎月1回実施。

表2-4

外部会議

月日	会議名	場所	出席者
4/4	法人新採用説明会	ソーレ平塚	宮川、山崎（と）、高梨、北村、山崎（ゆ）
4/11	事業所説明会	鶴見公会堂	山田
4/11	法人施設運営会議	あけぼの園	園長、(伊藤)
4/20	法人経営会議	ソーレ平塚	園長
4/21	伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会 第1回相談支援部会	伊勢原市役所	木村
4/26	県障害施設団体説明会	神奈川県民ホール	園長
4/26	第1回 秦野市相談支援事業所等連絡会	秦野市保健福祉センター	木村
5/2	法人施設運営会議	精陽学園	園長
5/10	法人機関誌編集委員会	ソーレ平塚	稲毛
5/22	サポートセンター秦野総会	秦野市保健センター	園長
5/24	秦野市子ども部会	秦野市役所	木村
5/25	第2回 秦野市相談支援事業所等連絡会	秦野市保健福祉センター	木村
5/26	あけぼの園相談支援体制会議	ソーレ平塚	園長、伊藤
5/29	法人経営会議	ソーレ平塚	園長
5/30	法人幹事監査	ソーレ平塚	園長、山田
6/2	法人理事会	ソーレ平塚	園長、伊藤
6/6	法人施設運営会議	ソーレ平塚	園長
6/15	法人経営会議	ソーレ平塚	園長
6/17	法人評議員会	ソーレ平塚	園長、伊藤
7/4	秦野市社会福祉協議会施設部会	秦野市保健センター	園長
7/4	全国知的障害関係施設長会議	東京国際フォーラム	山田
7/4	法人施設運営会議	すこやか園	園長
7/5	法人機関紙編集委員会	ソーレ平塚	稲毛
7/5	全国知的障害関係施設長会議	東京国際フォーラム	園長
7/14	通所事業所連絡会	すこやか園	園長
7/18	伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会 第4回相談支援部会	伊勢原市役所	木村
7/20	法人経営会議	ソーレ平塚	園長
7/22	第4回 秦野市相談支援事業所等連絡会 サービス管理責任者児童発達支援管理責任者ネットワーク合同会議	秦野市保健福祉センター	木村
7/27	法人事務員会議	ソーレ平塚	山田
8/1	法人施設運営会議	あけぼの園	園長、(伊藤)
8/23	第5回 秦野市相談支援事業所等連絡会 サービス管理責任者児童発達支援管理責任者ネットワーク合同会議	秦野市保健福祉センター	木村
8/24	法人経営会議	ソーレ平塚	園長
8/29	JSYネット	ソーレ平塚	園長、武藤
9/4	総括安全衛生委員会	ソーレ平塚	園長
9/5	法人施設運営会議	精陽学園	園長
9/17	秦野市こども部会	秦野市保健福祉センター	園長
9/21	法人経営会議	ソーレ平塚	園長

月日	会議名	場所	出席者
9/27	第6回 秦野市相談支援事業所等連絡会 サービス管理責任者児童発達支援管理責任者ネットワーク合同会議	秦野市保健福祉センター	木村、津野
10/3	法人施設運営会議	ソーレ平塚	園長
10/5	秦野市就学支援委員会	秦野市役所	伊藤
10/11	法人人材育成についての打ち合わせ会	ソーレ平塚	園長、伊藤
10/27	伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会 第7回相談支援部会	伊勢原市役所	木村、津野
10/30	法人経営会議	ソーレ平塚	園長
11/2	法人理事会	ソーレ平塚	園長
11/2	秦野市就学支援委員会	秦野市役所	伊藤
11/7	法人施設運営会議	すこやか園	園長
11/8	秦野市こども部会	秦野市福祉センター	園長
11/8	秦野市社会福祉協議会施設部会	秦野市役所	園長
11/10	年末調整説明会	秦野市文化会館	山田
11/11	法人評議員会	すこやか園	園長、伊藤
11/14	秦野市社会福祉協議会施設部会		園長
11/17	通所事業所連絡会	わらべの杜	園長
11/16	法人経営会議	ソーレ平塚	園長
11/22	第8回 秦野市相談支援事業所等連絡会 サービス管理責任者児童発達支援管理責任者ネットワーク合同会議	秦野市保健福祉センター	木村
11/30	法人内部監査	あけぼの園	園長、山田
12/5	法人施設運営会議	あけぼの園	園長、(伊藤)
12/20	第9回 秦野市相談支援事業所等連絡会 サービス管理責任者児童発達支援管理責任者ネットワーク合同会議	秦野市保健福祉センター	津野
12/21	法人経営会議	ソーレ平塚	園長
1/5	法人施設運営会議	精陽学園	園長
1/11	秦野市就学支援委員会	秦野市役所	園長
1/17	秦野市こども部会	秦野市保健福祉センター	園長
1/18	法人表彰懲戒委員会	ソーレ平塚	園長、伊藤
1/24	法人経営会議	ソーレ平塚	園長
2/6	法人施設運営会議	ソーレ平塚	園長
2/9	秦野市施設部会	秦野市保健福祉センター	園長
2/20	通所事業所連絡会	松風園	園長
2/26	法人経営会議	ソーレ平塚	園長
3/2	法人理事会	ソーレ平塚	園長、伊藤
3/6	法人施設運営会議	すこやか園	園長
3/7	秦野市子ども部会	秦野市役所	園長
3/7	JSYネット定例会	ソーレ平塚	園長

月日	会議名	場所	出席者
3/14	伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会 第12回相談支援部会	伊勢原市役所	津野
3/16	法人経営会議	ソーレ平塚	園長
3/17	法人評議員会	秦野市立北公民館	園長、伊藤、山田
3/22	総括安全衛生委員会	精陽学園	園長

表2-5 組織図

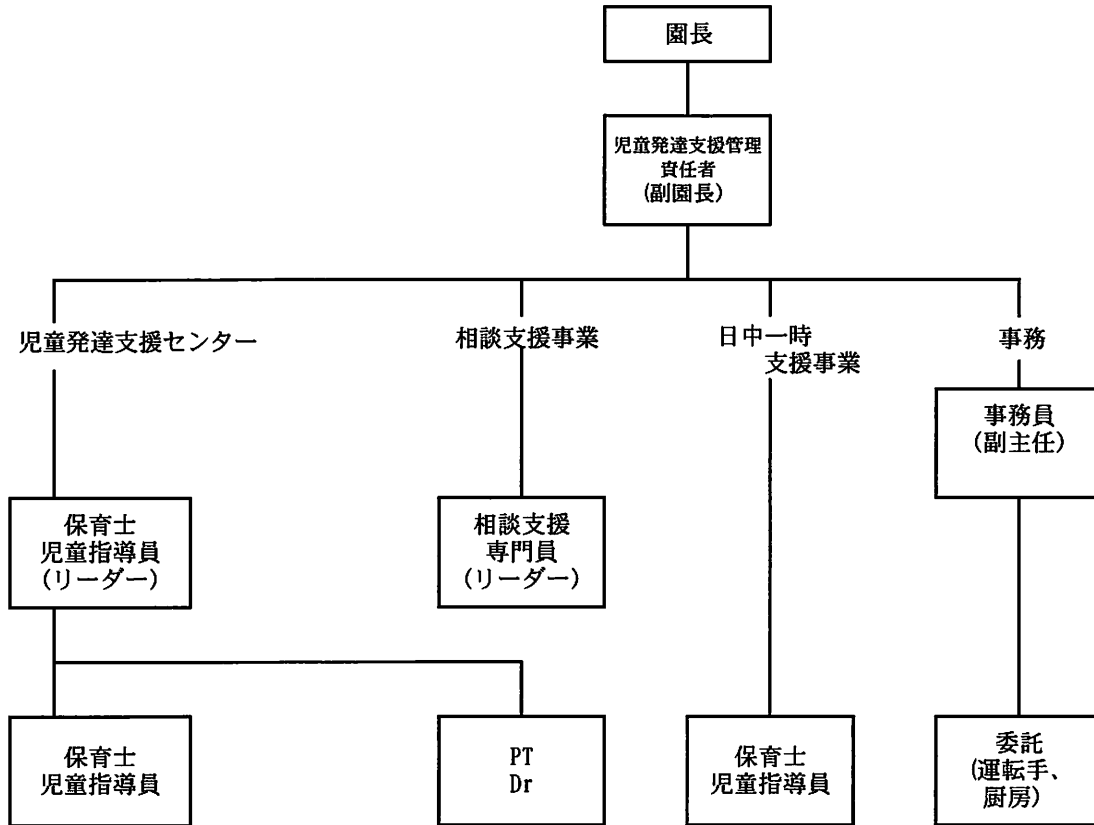


表2-6

職員構成および実績

職 種	平成29年4月1日～平成30年3月31日									平成30年4月1日現在		
	法人内異動・兼務			採用			退職			常勤	非常勤	委託
	転入	兼務	転出	常勤	非常勤	委託	常勤	非常勤	委託			
園長 (管理者)											1	
副園長 児童発達支援 管理責任者										1		
児童指導員							1			7	3	
保育士							1			3	2	
相談支援専門員		1 すこやか園 と兼務					1			1		
理学療法士												1
小児科医師												1
精神科医												1
産業医									1			1
事務員										1		
合計	0	1	0	0	0	0	3	0	0	13	6	4

資料 1-3

平成 29 年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会

精 陽 学 園

精陽学園

I 福祉型障害児入所施設

1. 概況

措置入所、契約入所（児童及び成人サービス）、緊急一時保護入所の平均在籍人数は、月48.6人となりました。目標である平均50人を下回る理由としては、一般就労した児童に措置停止を行い、その間の受け入れが出来なかった事、家庭から長期の入所希望児童が上がらなかった事、定員協定の枠による調整が難しかった事等が上げられます。この平均人数の中には、原則的に2か月以内の緊急一時保護も含まれておりますが、保護者からの入所同意が得られない、児童福祉法28条における裁判申し立てを行う等の理由により、ここ数年長期化してしまう傾向がありました。長期化した場合、学校教育が受けられない、衣類やお小遣い等を支給できない、通院の付き添いが出来ない、施設側としても措置と同等の収入が得られない等の課題が生じています。児童の人権や教育権を考えると、長期化した場合は、他の児童と同じ生活を行えるよう制度的な見直しが必要ではないかと考えています。定員協定では、県内全域における各児童相談所との相談が必要であり、時間をかけて調整を行わなければなりません。【参考資料 P13～14 参照】

職員体制は、あけぼの園から1名の異動があり、ソーレ平塚へ1名が異動しました。常勤4名、非常勤7名の採用を行い、退職は、常勤3名、非常勤2名でした。1名が産休・育休制度を利用しています。現場の保育士・児童指導員の採用には時間がかかり、良い人材の確保が継続的に課題になりました。洗濯業務は、いきがい事業団の体制の見直しにより、委託から直接雇用（アルバイト）に変更しました。【参考資料 P16 参照】

児童の療育については、感染症の対応に追われました。溶連菌、マイコプラズマ肺炎、インフルエンザB型等が発症し、日中の過ごす場所の制限、食事の座席の見直し、居室の床の修繕、物品の保管方法、大型空気加湿清浄機の導入の検討等、対策を講じました。複数の通学先があり、日常的に外部との関わりも多いこと、居室が多床室なこともあり、感染の拡大を防ぐことが困難な状況でした。

2. 運営課題

(1) 平成29年度 運営目標の結果

①利用児童の受け入れと高等部卒業生の地域移行

入所児童は5名です。入所経路としては、家庭、一時保護所、医療機関、肢体不

自由児施設、乳児院となっています。入所理由は、身体的虐待、ネグレクト、父子家庭による介護困難、兄からの性虐待、母親の入院となっています。

退所は、5名です。加齢児の退所先は、一般就労先の社員寮、母親の母国（フィリピン）への移行支援、障害者支援施設（身障系）2名となっています。就職した方には、2か月間の措置停止を行い就労状況の確認を行いました。同時に未成年後見人を選任し、金銭管理面等の支援を依頼しました。国外へ移行した方は、幼少期から行き来をしており、タガログ語も堪能なことから実現しました。

高校3年生3人の進路では、進学希望の1名は、2年制専門学校へ進学しました。学校から2駅の手いす対応ができる学生寮と契約し、2級建築士を目指しています。就職希望の1名は、団体職員（非常勤）の採用が決まっており、グループホームへの入居日の関係で措置延長となり、4月から入居までの期間、当園から通勤することになりました。もう1名は、障害者支援施設（身障系）への待機となっています。

緊急一時保護の受け入れは、4名延べ649日となり、昨年度2名340日から倍増しています。入所を前提とした2名の利用児童が長期化していることが原因としてあげられます。1名は1年間在籍し、家庭引き取りを行いました。

入所候補児童は、幼児の希望が多く、年齢、体力的な厳しさから入所時期を調整している状況もあります。神奈川県38名、横浜市9名、川崎市3名の定員協定があり、定員を超える際には割愛の手続きが必要となり、相模原市、横須賀市を含めて、神奈川県中央児童相談所との調整を行いました。【参考資料 P13～14 参照】

②個別支援計画の推進と療育の実践

個別支援計画書は、本人、家族の意向をしっかりと確認し、確認の取れない場合は、本人の状況をより配慮して考えることにより策定しました。本人の思いを取り入れ、具体的で実現可能な内容になるよう配慮し、クラス中心に日々の生活の中で実践していきました。

ケース会議については、進路・進学について、課題への対応について、家族支援について等、個別の状況に応じてカンファレンスを開催しました。移行支援については、児童相談所、福祉事務所、相談支援事業所、学校等の関係機関が参加し、一人当たり複数回の会議を開催し、施設見学を実施しました。【参考資料 P24～26 参照】

③早期発見、早期対応の健康管理

子ども達の健康面では、保育士、児童指導員と看護師、栄養士、理学療法士の連携により、一人ひとりの症状や状態の変化を確認し、早い時点での対応を心掛けるとともに、回復後のフォロー、リハビリ体制の充実に配慮しました。通院件数は、日々平均3名以上となっており、通院付き添いの調整が課題となっています。入院は、11名延べ100日でした（昨年度7名88日）。入院の理由は、原因不明の

貧血、マイコプラズマ肺炎、感染性肺炎等の病気によるものと、脚長差があるための成長抑制手術、側彎症に伴う脊椎固定手術によるものでした。今後とも身体機能改善のための手術は予定されています。

感染症の対応については、早期発見、早期対応、手洗いうがいの徹底、消毒液の使用、清掃の強化等の対策を講じてきましたが、溶連菌の感染が4月下旬から9月上旬まで断続的に起こり続ける状態がありました。7月末から8月にかけては、マイコプラズマ肺炎、感染性肺炎に罹患した児童が4名おり入院しました。1月22日から30日の期間、インフルエンザB型が発症し、男子児童中心に16名が罹患しました。感染の拡大を防ぐために、特別支援学校を3日間自主休校することを判断し、以降の感染者を防ぐことが出来ました。【参考資料 P17～19 参照】

④人権と権利擁護

子ども会の活動としては、夏休みの過ごし方、外遊びの注意事項、食事の時間への意識掛け、スマホ、タブレット、ゲーム機等の使い方、秋まつりの役割、自立配膳等話し合いを行うとともに、会の進行や意見を述べる事、人の話を聞く事等のコミュニケーションを学ぶ場になっています。

虐待防止対策については、職員間で不適切な関わりや困ったことがあるかを振り返り、子どもが情緒不安定の時や実年齢と精神年齢に差がある子どもへの注意の仕方等の課題を取りまとめました。身体拘束については、個別支援計画と連動して行い、見直しを行っています。

⑤家族支援と関係機関との連携

入所児童の家族との関わりについては、進路相談、家族の状況確認、兄弟姉妹との関係維持、定期的な面談、心理判定、性教育、在留資格の更新等、児童相談所と連携を取りながら進めてきました。

平塚養護学校、城島小学校、大住中学校との業務連絡会を開催し、情報交換を行いました。【参考資料 P20 参照】

⑥子ども達にとって住みやすい環境に向けた取り組み

築35年が経過し、老朽化が進んでいます。さらに多床室によりプライベート空間がもてないこと、トイレ、洗面所等の狭さ、感染症による隔離対応の困難さ等の解消を考えると建て替えが必要になります。「法人施設再整備準備事務局」を立ち上げ、設計事務所、行政、地域関係者との協議を始めました。建て替えの時期としては、5年以内を目標としましたが、空いている敷地面積が少ないので、生活しながら建て替えるには年数と経費が掛かり、現実的ではないことがわかりました。土地の拡張は、都市計画法の隣接道路幅の問題があり、許可が得られない見込みです。別の場所に仮住まいをして建て替えるか、新たな土地を探して建て替えるか等、土地の問題を

解決していかなくてはなりません。また、国庫補助（施設整備補助金）を受けるには半年の工期で完成させなくてはならず、施工方法にも課題があります。必要経費も含めて、継続して検討していきます。

⑦行政への働きかけ

日本肢体不自由児療護施設連絡協議会として、厚労省「第2回障害福祉サービス等報酬改定検討チーム」のヒアリングに出席し、意見を述べてきました。また、昨年に引き続き、障害者政策総合研究事業「障害児入所施設の質の向上を検証するための研究会」に委員として参加し、タイムスタディ調査に協力しました。総会（東京都世田谷区）では、規約の変更、表彰規定の創設、国への要望内容の検討等を行いました。

県知的障害福祉協会児童発達支援部会では、県内全域（14施設）の福祉型障害児入所施設が加盟し、高校生以上、加齢児を含めた移行対象者リストを作成し、行政機関に働きかけるデータを作成しました。県身体障害施設協会企画政策委員会において、神奈川県及び市町村（政令指定都市、中核市を除く）に対して、移行支援の対応強化を要望書に盛り込み、提出しました。

3. 事業内容

(1) 生活

①児童の成長、発達に応じた支援

一人ひとりの発達に合わせた療育を行う上で、担当が中心として作成する個別支援計画及び、理学療法士、看護師、栄養士、主治医、児童相談所（心理判定）、カウンセラー、学校の先生との情報交換、家族との面談に加え、本人の希望を元に生活を考えられています。また、必要に応じて適宜カンファレンスを行い、方針の決定、情報の共有化を図りました。【参考資料 P24～26 参照】

②理学療法士による機能訓練

子どもの今の生活を見つめ、また将来の生活を見据えることで、必要な支援やそのために工夫できることを保育士等と情報を共有し、実施できるようにしました。また、一人ひとりの身体機能を評価し、必要に応じて個別プログラムの実施、補装具等の作成、また学校の先生に協力して頂き、運動を行うことで、運動機能の維持や向上、日常生活動作の改善を図りました。更に、歩容の改善を目的とした手術、股関節亜脱臼を改善するための手術等、必要に応じて主治医と相談し、手術目的を分かりやすく保護者や職員に伝えて頂き、手術後のフォローも務めました。子ども自身への障がいへの理解や受容に対してもアプローチを行い、自らの興味関心、生活の幅を広げられるようにしました。

嘱託医(整形外科)は、月に1回来園され、初診2件、補装具作成53件、手帳の意見書作成3件、整形外科的相談1件、定期受診22件、手術関連相談5件を行っていただきました。入所児童49名に対し、一人あたり年1回から4回、延べ85名の健診を受けました。

(2) 健康管理

一人ひとりの基礎疾患、障がい特性、病状の変化に細心の注意を払い、保育士等との情報交換を元に一步先を見越した対応を心掛けました。定期通院、緊急通院等においても病院側との交渉を念頭に置き、最善の対応ができるようにしました。家族との連携も日頃から丁寧に行うようにし、ご要望、ご意見に応じていきました。日々の夜勤者へ健康面の情報交換、看護師2名によるオンコール対応等、夜間帯での病状等の変化に対応できるようにしました。また、服薬管理における体制、個々の健康面における対処方法、書類管理等、新たな視点で見直しを行い、効率的な業務が出来るようにしていきました。健康診断は、小児科医及び、歯科医に年に2回、合計4回実施しました。【参考資料 P17～19 参照】

(3) 栄養管理

一人ひとりの口腔機能に適した食事形態を提供できるようになりました。芳賀歯科医による摂食指導及び研修会、受診により、多くの助言をいただき、日々工夫を重ねました。

献立の作成では、季節の食材を多く取り入れ、美味しいと感じられる食事を目指しました。残食の量は平均的に少なく、一人ひとりがしっかりと摂取出来ていると考えられます。身長、体重等の変化に対しては、食事委員会を中心に現状の評価を行い、栄養ケアマネジメントの手法に沿って検討しました。

毎月、栄養士が子どもたちと食育に関する話合いの機会を持ち、季節の野菜の栄養の必要性、外食の栄養のバランス、カルシウム等必要な栄養素等を分かりやすく説明し、食事に関する理解を深めました。個別に指導が必要な児童には、一人ひとりに合わせて話をしました。また、自立生活に向けた食事の相談や体験も行いました。

行事食では、慣習行事を中心に目で見て楽しみ、味わって楽しみ、心が潤うように工夫を重ねました。毎月の誕生日会では、選択食を行い、選んで楽しめるようにしました。【参考資料 P17 参照】

(4) 幼児教育・学校教育

通園・通学先は、土屋幼稚園、平塚盲学校幼稚部、城島小学校、大住中学校、私立旭丘高校、平塚養護学校の1園、5校です。城島小、大住中、平塚養護とは業務連絡会を定期的に行い、意見交換を行いました。他の学校では、定期的な三者面談に参加するとともに、個別の問題に対して適宜情報交換を行いました。送迎時の情報交換、

連絡帳の交換、電話連絡等、日頃の関係を大切にしてきました。城島小学校では、自力通学に向けた練習も行いました。平塚養護学校の知的障害課程では、登下校時間が異なり、送迎に行く機会が全体的に増え、送迎の予定を組むことが課題になっています。【参考資料 P13 参照】

(5) 幼児デイケア（未就学児）・日中活動支援（加齢児）

幼児療育は、4名を対象として行いました。室内では、集中して行える活動や運動、感覚、音楽リズムを取り入れました。室外では、散歩や公園、遠足に行き、体力を使うことや色々な遊具を使って遊ぶことを行いました。外部との交流としては、定期的に土屋幼稚園、ソーレ平塚療育園（部屋の貸し出し）に出かけました。

加齢児の日中活動は、4名を対象として行いましたが、5月、6月で2名が成人施設へ移行することが出来ました。利用者の得意な活動に重点を置き、運動、音楽、製作、散歩等、一日の中でもプログラムを組み合わせて行いました。地域との交流では、地域活動支援センター平塚二葉会に定期的に通いました。交流行事（遠足）として箱根芦ノ湖、横浜ランドマークタワーに行き、外部の人たちと楽しく過ごすことができました。

(6) 子ども会

子ども会の活動は、毎月話し合いを行い、日常生活の約束事の確認、長期休暇のテレビの時間・就寝時間、自立して配膳を行う事、レクリエーション企画の策定、行事の協力・計画、お正月のメニュー、菓の飲み方、熱中症の予防方法、スマホ・タブレットの使い方等について、検討しました。必要に応じて、クラス会議、男女棟会議、運営会議等で検討して回答しました。

課題を検討し合うだけでなく、人の話を聞くこと、自分の意見を言える事、会議時間に集中する事等、コミュニケーション方法を学ぶ場面にもなっています。

(7) 行事

貴船神社例大祭正調城所太鼓、城島地区子ども大会・レクリエーション大会、城所夏まつり、七五三等、多くの地域行事に参加しました。施設行事では、夏のキャンプ、秋まつり、クリスマス会は、子ども達も企画から参加し、楽しく過ごすことが出来ました。夏休みには、外食やプール外出、日産労連ふれあい夏まつり、平塚養護学校プール開放（介助付き）、花火大会、ソーレ平塚納涼祭、もぐら座の人形劇等に参加しました。こどもの日、お月見、餅つき大会、書初め、ひな祭り、誕生会等、慣習行事も行い、楽しく過ごせる機会を作りました。【参考資料 P20～21 参照】

(8) 家族への援助

毎月面会又は外泊が実施できている家庭は23%です。年間1回～10回程度の面会又は外泊が実施できている家庭は58%、保護者不在も含めて実施できていない家

庭は19%となっています。昨年度よりも家族との関わりが厳しい子どもが増えており、8割弱の児童は、家族との十分な関わりが持てない状況であります。

兄弟姉妹が里親委託、児童養護施設に入所している3名については、児童相談所、施設職員と連携を取り、定期的な面会、外出を実施しました。女子の1名は、姉妹交流から妹の里親さんのご協力を得ることが出来るようになり、本児の里親さんとしても登録され、面会、外出を行うことが出来るようになりました。

保護者会は、2回実施しました。クラシックコンサート、個別支援計画を中心とした個々面談、日頃の様子、行事の予定等の情報交換を行いました。恒例のバイキング昼食会では、親子ともに食事を楽しむことができました。【参考資料 P15 参照】

(9) 心理担当職員の配置

心理担当職員が1対1で話を聞く機会「こころの時間」を設けています。一人あたり30分から1時間を目安に行っており、日常生活のこと、学校のこと、家族のこと、困っていること、悩んでいること等、様々な話を傾聴しています。また、カウンセラーにより、日常の生活の中から子どもの状態を観察し、カウンセリングを通じて、心の状態や必要な支援の相談を行いました。

4. その他

(1) 防災・防犯・事故対策

消防計画の見直しを行い、現状に適した内容に改め、平塚消防署に提出しました。

駐車場内において軽微な接触事故が起きたため、軽自動車及び、ワゴン車の駐車位置の変更を行い、駐停車する際のスペース確保を行いました。

事故報告書、ヒヤリハット報告書に関しては、毎月委員会を開催し、転倒、怪我、服薬、物品の破損、子ども同士の喧嘩や噛みつき、異食、送迎車の席順等についての原因分析を行い、改善策を講じました。

他の子どもに噛みつかれてしまった事故について、家族から苦情が上がり、児童相談所を交えて事故の報告と改善策を提案し、幼児用サークルベッドを購入する等の対応を行い、了解を得られました。

自宅で歯を怪我したことにより、食事形態の変更や車いすを利用した把握方法等が、身体拘束ではないかとの苦情の件では、児童相談所も交えた話し合いを行っておりますが、合意には至っておりません。

防犯対策については、各所の見回り、夜間の閉門、玄関の10キー錠の施錠等を実施し、秋まつりでは、駐在所の警察官によるパトロールを継続して行って頂きました。【参考資料 P22 参照】

(2) 社会貢献活動

社会貢献活動として、昭和60年頃から平塚市城島地区民生委員児童委員協議会と連携して、一人暮らしの高齢者に配食サービス（お弁当）を提供しています。民生委員による定期的な安否確認やお話し相手、健康の維持にもつながり、1回あたり30食年間8回及び、城島公民館より高齢者教室のお弁当を年1回、依頼を受けました。

食事をとられている方からアンケートの回答を頂き、季節の彩、豊富な品数、味付け等、一人ひとりが本当に楽しみにされていることがわかりました。【参考資料P22参照】

(3) ボランティア

団体では、日産労連主催によるふれあい夏まつりの開催、もぐら座による人形劇の上演、つくしグループの洗濯物の整理や秋まつりの模擬店、平塚養護学校教員による秋まつりのコンサート、平塚市利用組合青年部による理髪、東海大学ワークキャンプの子どもたちの遊び相手や行事の付き添い、大住中学校PTA厚生委員会によるテーブル・イス・車いすの清掃等の協力を頂きました。

個人では、衣類の名前付け、子ども達との遊び相手、デイケアの付き添い、外出の付き添い、コンサート等、様々な形で協力を頂きました。職員だけでは出来ないところをボランティアに関わって頂き、とても助かっております。

衣類の名前付けのボランティアは、週に1回平均30着以上の衣類に名前を付けていただき、10年が経過しました。この功績により、平塚市社会福祉協議会社会福祉功労者の表彰を受けました。

年間延べ数は、500名を超える実績となっています。

(4) 寄付等

以下のご寄付を頂きました。

平塚市資源回収協同組合様より、トイレトペーパー

テレビ朝日福祉文化事業団様より、創立40周年記念「かんたんテント」

ミニストップ株式会社様より、甘エビ、アイスクリーム 等

現金 39件 798,560円

その他（野菜、洗剤、お菓子等の物品） 33件

(5) 施設・設備の管理

通学の送迎箇所が増えたため、中古車のトヨタノアを1台購入しました。

電気設備品の故障が多く、以下の機器を買い換えました。男女更衣室エアコン2台、男女棟トイレエアコン2台、男女棟当直室エアコン2台、厨房冷蔵庫2台、男女寮給湯器2台、女子寮洗濯機1台、火災通報装置1台、男女職員用トイレの換気扇2台。

利便性を図るため、男女トイレの換気扇2台を追加、職員用パソコン1台を追加しています。

修繕箇所は、トイレタイル張替え、走行リフターベルト交換、男子棟ブレーカースイッチ交換、ボイラーの循環ポンプ及び表示灯交換、訓練棟給湯器スイッチの移設、貯水槽タンクのポンプ交換、さんご居室の床の全面張替え、コアラ居室の床の一部張替え、煙感知器交換等を行いました。

(6) 安全衛生管理

労災は、1件ありました。夜勤業務中、駐車場入り口の門を閉める際、レールに足の指を挟み、骨折しました。業務を軽減し、勤務は継続して行いました。

公用車の接触事故の際、車検切れの状態であったことが判明しました。行政処分等はありませんでしたが、重大事故につながる可能性があるため、点検の期日の再確認を行いました。公用車の軽微な接触事故により、3件の任意保険の利用がありました。

(7) 神奈川県指導監査・実地指導の結果

8月30日「福祉型障害児入所施設」の神奈川県指導監査及び、実地指導がありました。指摘事項はありませんでした。当日、預り金規程と実態に相違がある点について口頭指摘があり、修正しています。「短期入所事業」及び「障害者支援施設」と隔年で実施されています。

Ⅱ 障害者支援施設

1. 概況

経過障害者支援施設サービスは、平成29年度で事業指定が終了する予定でしたが、平成30年4月から3年間の経過的期間の延長が図られ、指定の更新を受けました。利用者は、契約による高等部卒業以降のサービスとして継続しています。措置の児童は、措置延長により福祉型障害児入所施設サービスの利用継続となっています。

日中活動は、前年度卒業生1名、今春に高等部を卒業した利用者3名（成人契約3名、措置延長1名）で活動を開始しました。活動内容は、散歩、公園や買い物、カラオケ等の外出、作業については、紙ちぎりでのほり絵制作、学習等を行いました。

地域との関わりでは、地域活動支援センター平塚二葉会の協力を得て、週に1回程交流することができました。箱根芦ノ湖、横浜ランドマークタワーへの合同遠足にも行きました。

2. 事業内容

(1) 日中活動

学校登校日に合わせて活動し、短期入所児童や緊急一時保護の児童も活動に参加しました。日中の配置できる職員数により、休校児童や通院が多く入ると活動が難しい時がありました。活動は、外出や訓練棟で行い、生活の場面と日中活動の場面を分けるようにしています。成人としての時間を意識できるように、大人としての関わり方に配慮しました。

(2) 移行支援

加齢児2名は、5月、6月に障害者支援施設（身障系）に移行することができました。もう1名は、母親がフィリピン出身であり、3月末に母国の実家で暮らすことになりました。障害者支援施設（知的障害系）では、津久井やまゆり園の影響及び、自宅近隣の施設に空きが無いこと、家族のご協力が得づらい状況もあり、施設の選択が困難でした。

平成25年度から5年で24名が移行できました。移行先は、療養介護施設5名、障害者支援施設13名（身障施設8名、知的施設5名）、グループホーム2名（非常勤雇用1名、生活介護1名）、学生寮（大学・専門学校進学）2名、社員寮1名（常勤雇用）、家庭（フィリピン）1名となっています。【参考資料 P13, 25 参照】

Ⅲ 短期入所事業・日中一時支援事業

1. 短期入所事業

(1) 受け入れ状況

短期入所の定員は2名、契約者数38名（男子20名、女子18名）です。常時利用されている方は13名（男子8名、女子5名）です。今年度の利用は、延べ102件365日（昨年度126件421日）、ベッドの稼働率は50%（昨年度57%）となっています。前年度末に定期利用されていた方が高等部を卒業、施設入所したことにより、稼働率が下がっています。

利用日数は、1泊から14泊まであり、3泊までが全体の97%となっております。男女1名ずつの定員枠を調整して予定を組んでいます。通学の関係から、土日曜日に希望が重なる傾向があります。

(2) 入所理由

入所理由は、レスパイト（家族の休養）が中心となっております。定期的な短期入所サービスを利用して、保護者の負担軽減を図っており、平塚養護学校に通学する生徒であれば、利用中の登下校も行っております。

2. 日中一時支援事業

(1) 受け入れ状況

学齢児の放課後支援（夕食含む）、土日等の日帰りでの利用を行っています。

契約者は3名（男子1名、女子2名）です。常時利用されている方は女子1名です。

今年度の利用は、2名、延べ38回の受け入れでした（昨年度48回）。対象地域は、平塚市と秦野市と契約しています。

(2) 利用理由

利用理由は、父子家庭の就労によるものです。下校後から夕食後及び、休日に利用されています。定期的な利用による家族の休養や就労等、在宅支援の複合的サービスとして利用されています。平塚養護学校の生徒が利用している放課後等デイサービスの事業所が38か所あり、多くの児童が利用していますが、当園では一度に多数の児童の受け入れが出来ないため、新規のケースは上がっていません。

3 短期入所の利用状況

(1) 過去10年間の利用状況表

年度	件数	日数
平成20年度	148 件	394 日
平成21年度	137 件	347 日
平成22年度	123 件	316 日
平成23年度	98 件	190 日
平成24年度	128 件	354 日
平成25年度	124 件	381 日
平成26年度	103 件	335 日
平成27年度	112 件	429 日
平成28年度	126 件	421 日
平成29年度	102 件	365 日

※平成20～23年度は、日中一時支援含む。

(2) 理由別・日数別 件数表

理由/日数	2～5日	6～10日	11～15日	合計
家族の休養	74	2	1	77
体験利用	3	0	0	3
家族の仕事	19	0	0	19
その他	3	0	0	3
合計	99	2	1	102

(3) 月別・市町村別 件数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平塚市	2	1	1	1	1	1	2	1	1	2	2	2	17
伊勢原市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
秦野市	1	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	2	7
厚木市	1	1	1	2	1	2	2	1	2	1	1	1	16
茅ヶ崎市	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	6
藤沢市	4	3	3	3	1	2	3	4	2	4	2	1	32
鎌倉市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4
横浜市	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	0	5
寒川町	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
中井町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
開成町	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	10	8	8	8	7	7	9	7	9	11	9	9	102

4 日中一時支援の利用状況

(1) 事業開始以降の利用日数表

年度	日数	年度	日数
平成24年度	16	平成27年度	58
平成25年度	25	平成28年度	48
平成26年度	62	平成29年度	38

(2) 理由別・日数別 件数表

理由/日数	4時間未満	4～8時間	8時間以上	合計
家族の休養	0	1	0	1
父子家庭	0	30	7	37
その他	0	0	0	0
合計	0	31	7	38

(3) 月別・市町村別 日数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平塚市	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
秦野市	4	2	5	3	3	4	2	5	2	2	3	2	37
合計	4	2	5	3	3	4	3	5	2	2	3	2	38

参考資料

1 入所児童の状況 (入所時の年齢)

	入所日	性	年	形態	氏名	児童相談所	入所理由	入所前の所在
1	4月19日	男	5	緊急	S・H	厚木	身体的虐待	医療機関(緊急一時)
2	5月2日	男	11	契約	Y・H	県中央	父子家庭による養育困難	家庭
3	10月1日	女	17	措置	H・K	県中央	兄からの性的虐待	一時保護所
4	1月19日	男	8	緊急	M・S	横浜市南部	母親の入院	肢体不自由児施設
5	3月28日	男	3	措置	K・Y	平塚	ネグレクト	乳児院

2 退所児童の状況 (退所時の年齢)

	退園日	性	年	形態	氏名	援護機関	退所先	退所理由	在所期間
1	4月6日	男	18	措置	K・A	平塚児相	社員寮	一般就労	15年6か月
2	5月12日	男	18	措置	Y・T	川崎市中部児相	障害者支援施設	成人施設移行	14年0か月
3	6月29日	女	18	契約	M・S	厚木市	障害者支援施設	成人施設移行	13年0か月
4	11月13日	女	12	緊急	S・T	相模原市	家庭	家庭引き取り	1年0か月
5	3月25日	男	19	契約	K・K	大和市	家庭(ファミリー)	移行支援	3年11か月
6	3月30日	男	18	措置	Y・O	平塚児相	学生寮	専門学校進学	14年10か月

3 年齢

	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
男	0	1	1	1	4	2	3	0	2	1	3	2	3	2	2	2	0	0	0	29
女	0	0	0	1	0	1	0	4	1	0	0	1	1	0	4	2	2	0	1	18
計	0	1	1	2	4	3	3	4	3	1	3	3	4	2	6	4	2	0	1	47

4 通学児童

	幼	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
男	3	2	3	0	1	2	3	2	3	2	2	2	0	25
女	0	1	0	4	1	0	0	1	1	0	4	2	2	16
計	3	3	3	4	2	2	3	3	4	2	6	4	2	41

5 就学先

	幼	小	中	高	合計
県立平塚養護学校		7	9	8	24
県立平塚盲学校	1	0	0	0	1
私立旭丘高等学校				1	1
市立大住中学校			5		5
市立城島小学校		8			8
市立土屋幼稚園	2				2
合計	3	15	14	9	41

6 措置・契約機関 (毎月1日現在の人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	合計	備考
県中央	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	78	措置
	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	35	契約
県鎌倉三浦	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	措置
県小田原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	措置
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	契約
県厚木	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84	措置
県平塚	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	措置
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	契約
相模原市	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	措置
横須賀市	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	措置
横浜市中心	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	措置
横浜市南部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	措置
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	契約
横浜市北部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	措置
横浜市西部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	措置
川崎市こ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	措置
川崎北部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	措置
川崎中部	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	措置
伊勢原市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	成人契約
大和市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	成人契約
厚木市	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	成人契約
合計	47	48	47	46	46	46	47	47	47	47	47	47	562	

7 緊急一時保護 (月の在籍日数)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
相模原市	30	31	30	31	31	29	22	13	0	0	0	0	217	平成28年10月24日から
厚木	4	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	339	平成29年4月19日から
川崎市こ	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	21	
横浜市南部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	28	31	72	平成30年1月19日から
合計	34	62	60	83	62	59	53	43	31	44	56	62	649	

8 身体障害者手帳

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
男	9	9	1	3	0	0	22
女	3	5	2	0	0	0	10
計	12	14	3	3	0	0	32

9 療育手帳

	A1	A2	B1	B2	合計
男	15	0	1	5	21
女	4	5	1	4	14
計	19	5	2	9	35

10 入所前の所在

障害名	男	女	合計
家庭	10	4	14
乳児院	11	7	18
知的障害児施設	2	1	3
肢体不自由児施設		1	1
肢体不自由児療護施設			0
重症心身障害児施設			0
児童養護施設	1		1
病院	1	3	4
一時保護所	4	2	6
その他			0
合計	29	18	47

11 主たる入所理由

入所理由	男	女	合計
虐待	16	10	26
養育困難	13	8	21
合計	29	18	47

虐待内訳	男	女	計
身体的虐待	6	5	11
ネグレクト	9	1	10
心理的虐待	1	1	2
性的虐待	0	3	3
合計	16	10	26

養育困難内訳	男	女	計
母子家庭	5	2	7
父子家庭	3	0	3
父母の疾患	2	4	6
父母の疲労	2	0	2
その他	1	2	3
合計	13	8	21

12 主たる障害

障害名	男	女	合計
脳性まひ	4	3	7
脳室周囲白質軟化症	1	1	2
硬膜下血腫後遺症	3	2	5
脳出血後遺症	1	0	1
水頭症	1	1	2
先天性筋緊張性ジストロフィー症	2	0	2
先天性多発腸閉塞症	0	1	1
急性脳症、急性脳炎後遺症	2	0	2
髄膜炎後遺症	1	0	1
裂脳症	1	0	1

障害名	男	女	合計
総排泄腔外反症	1	0	1
多発奇形症候群	1	0	1
ダウン症	1	1	2
てんかん	1	0	1
SBS（揺さぶられっこ）症候群	0	1	1
レット症候群	0	1	1
部分13トリソミー	1	0	1
自閉症スペクトラム	4	2	6
知的障害	4	5	9
合計	29	18	47

13 帰宅、面会の状況

頻度	男	女	合計
月に1回以上、帰宅・面会あり	5	4	9
月に1回以上、面会のみ	1	1	2
月に1回未満、帰宅・面会あり	8	2	10
月に1回未満、面会のみ	11	6	17
帰宅面会なし	4	5	9
合計	29	18	47

14 在籍年数

	0年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10	11	12	13	14	15	16	合計
男	3	2	2	5	4	2	1	2	1	1	0	2	0	4	0	0	0	29
女	1	2	4	1	0	0	1	1	3	0	0	1	2	1	0	1	0	18
計	4	4	6	6	4	2	2	3	4	1	0	3	2	5	0	1	0	47

15 職員の採用・退職状況

	採用										退職											
	常勤		準職員		パート		アルバイト		嘱託		合計	常勤		準職員		パート		アルバイト		嘱託		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
施設長											0											0
児発管											0											0
児童指導員		1									1	2										2
保育士	1	1									2											0
児童生活支援員	1										1											0
看護師											0	1				1						2
理学療法士											0											0
管理栄養士											0											0
調理員											0							1				1
事務員											0											0
介助員								4			4											0
用務員								3			3											0
カウンセラー											0											0
合計	2	2	0	0	0	0	0	7	0	0	11	2	1	0	0	0	1	0	1	0	0	5

※ 4/1あけぼの園より異動1名女性、5/1ソーレ平塚へ異動1名男性、4/12産休・育休1名女性（すべて常勤）

16 平成30年4月1日現在の職員

	常勤		準職員		パート		アルバイト		嘱託		委託		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
施設長	1												1
児発管		1											1
ケースワーカー	1												1
児童指導員	4	4		1		1							10
生活児童支援員	1	1											2
保育士	3	8		1		1							13
看護師		1				1							2
理学療法士		1											1
医師									2				2
(管理)栄養士		2											2
調理員				2		3		6					11
事務員		1				1							2
介助員								9					9
用務員						1		3				2	6
カウンセラー								1					1
合計	9	19	0	4	1	7	0	19	0	2	0	2	63

※常勤女子1名育休中含む

※委託は、清掃業務

17 食事形態の状況

形態/kcal	900	1100	1300	1500	1700	1900	2000	2500	ヘルシー	合計	御飯の形態	合計
ミキサー	0	1	1	0	1	1	0	0	0	4	お粥ミキサー	0
軟菜	1	3	4	2	0	0	0	0	0	10	お粥	15
一口大	0	4	6	1	4	0	0	1	2	18	普通	31
普通食	0	1	2	4	6	0	0	1	1	15	ヘルシーライス	1
胃瘻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計	1	9	13	7	11	1	0	2	3	47		47

18 入院状況 (入院時の年齢)

	氏名	性	年	入院理由	病院	入院日	退院日	入院期間
1	Y・K	女	12	貧血	北里大学病院 東海大学病院	6月20日	7月1日	12日
2	J・P	男	16	側彎症改善手術	こども医療センター	7月3日	7月25日	23日
3	H・H	女	16	マイコプラズマ肺炎	東海大学病院	7月20日	8月7日	18日
4	M・S	女	7	細菌性肺炎	平塚市民病院	7月30日	8月5日	7日
5	H・T	男	8	成長抑制手術	こども医療センター	8月2日	8月12日	11日
6	H・I	男	15	マイコプラズマ肺炎	平塚市民病院	8月24日	8月28日	5日
7	S・M	男	12	マイコプラズマ肺炎	平塚市民病院	9月5日	9月10日	6日
9	S・M	男	12	細菌性肺炎	平塚市民病院	9月12日	9月14日	3日
10	Y・O	男	8	膝屈曲姿勢改善手術、発熱の為中止	横浜市総合リハ	10月5日	10月11日	7日
11	H・H	女	16	肺炎の疑い	東海大学病院	11月2日	11月9日	8日
	合計							100日

19 休校児童数 (病気及び通院等)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	合計
人数	2	21	9	35	0	15	13	12	10	50	11	10	188
延べ日数	3	23	25	67	100	32	20	7	4	100	15	11	407
入院	0	0	11	37	28	9	7	8	0	0	0	0	100

20 日常生活動作

	移動					食事			着脱衣			入浴			排泄				
	自力歩行	一部介助	全介助	(補装具)	(車いす)	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	(オムツ)	(夜オムツ)
男	14	6	9	13	15	9	11	9	8	9	12	3	7	19	5	7	17	21	1
女	10	4	4	7	6	10	5	3	7	6	5	5	6	7	6	7	5	7	3
計	24	10	13	20	21	19	16	12	15	15	17	8	13	26	11	14	22	28	4
	47					47			47			47			47				

21 通院状況

病 院		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	合計
東海大学	回数	15	13	20	14	25	17	20	17	23	19	21	22	226
	人数	17	15	22	15	27	18	22	19	24	20	23	23	245
神奈川リハビリテーション	回数	6	9	7	8	6	9	7	8	7	6	8	8	89
	人数	9	13	12	17	13	17	11	11	7	10	11	11	142
平塚市民病院	回数	1	3	3	5	4	3	4	2	3	4	2	3	37
	人数	1	3	3	5	4	3	4	2	4	4	2	4	39
県立こども医療センター	回数	5	2	6	3	6	7	2	5	3	1	8	10	58
	人数	5	2	6	3	6	7	2	5	3	1	8	10	58
平塚共済病院	回数	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	人数	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
北里大学病院	回数	2	6	1	4	3	6	5	3	2	3	2	2	39
	人数	2	6	1	4	3	6	5	3	2	3	2	2	39
おしげ皮膚科	回数	2	2	1	1	2	2	1	3	0	2	2	1	19
	人数	8	10	4	5	3	3	1	5	0	2	3	3	47
四ノ宮耳鼻咽喉科	回数	4	3	4	3	1	4	6	3	6	2	1	2	39
	人数	5	8	10	6	3	5	8	3	6	2	1	2	59
くもで小児科	回数	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5
	人数	3	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	1	8
藤多パークサイドクリニック	回数	4	14	25	30	24	14	17	10	9	18	8	13	186
	人数	6	28	29	44	42	24	25	12	25	28	14	24	301
芳賀デンタルクリニック	回数	3	5	6	5	4	6	8	7	1	2	0	3	50
	人数	4	8	9	6	7	8	11	8	1	3	0	3	68
高橋眼科	回数	0	1	0	0	2	0	2	1	0	0	1	0	7
	人数	0	3	0	0	3	0	2	1	0	0	1	0	10
久保田整形外科	回数	2	1	0	0	1	1	2	5	1	0	0	0	13
	人数	2	1	0	0	1	1	2	5	1	0	0	0	13
休日診療所	回数	0	1	0	1	2	1	0	0	2	1	0	0	8
	人数	0	1	0	1	2	1	0	0	2	1	0	0	8
茅ヶ崎市民病院	回数	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2	0	0	5
	人数	0	0	1	3	0	0	0	0	0	4	0	0	8
県立総合療育相談センター	回数	1	1	2	0	0	3	0	4	3	1	1	3	19
	人数	1	1	2	0	0	4	0	4	4	1	1	3	21
横浜市リハビリテーション病院	回数	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	5
	人数	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	5
その他	回数	1	1	2	0	1	0	1	1	0	0	0	0	7
	人数	1	1	2	0	1	0	1	1	0	0	0	0	7
合 計	回数	47	63	80	78	87	75	75	69	62	63	55	69	815
	人数	64	100	104	110	119	98	94	79	79	80	67	87	1081

22 診療科目通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	合計
小児科	22	52	57	68	75	49	45	31	42	49	32	49	571
耳鼻科	10	21	14	9	9	9	14	12	13	10	15	11	147
歯科	4	9	9	8	10	11	12	10	1	3	0	3	80
リハビリテーション科	2	3	2	1	2	3	4	4	4	2	3	3	33
皮膚科	8	10	4	5	4	3	1	5	0	2	4	3	49
精神科	2	0	2	2	5	0	4	2	1	3	1	3	25
整形外科	8	2	5	3	4	10	3	9	6	2	5	7	64
内科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
外科	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	8
眼科	6	0	4	6	5	6	7	2	4	7	5	3	55
泌尿器科	1	1	1	0	1	0	2	1	2	0	1	3	13
脳外科	1	0	4	4	1	3	1	2	3	0	1	2	22
救急外来	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	5
休日診療所	0	1	0	1	2	1	0	0	2	1	0	0	8
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	64	100	104	110	119	98	94	79	79	80	67	88	1,081

23 実習生・研修生等の受入・派遣

実習生の受入

	学校名	年	性	実習期間			
1	東京工科大学（理学療法科）	4	男	4月3日	～	5月13日	29 日間
2	大原医療秘書福祉保育専門学校	2	女	6月12日	～	6月22日	10 日間
3	鶴見大学短期大学部	2	女	7月31日	～	8月11日	11 日間
4	小田原短期大学	2	女	8月14日	～	8月25日	11 日間
5	桜美林大学	3	女	8月21日	～	9月2日	12 日間
6	和洋女子大学	3	女	8月30日	～	9月11日	12 日間
7	鎌倉女子大学	3	女	9月13日	～	9月24日	11 日間
8	YMCA健康福祉専門学校	2	女	9月25日	～	10月6日	11 日間
9	和泉短期大学	1	女	2月13日	～	2月25日	12 日間
10	湘北短期大学	1	女	2月26日	～	3月8日	10 日間
11	関東学院大学 (実習前体験)	2	男	3月18日	～	3月30日	12 日間
				8月7日	～	8月7日	1 日間

研修生等の受入

	研修名	人数	研修期間	
1	平塚養護学校教職員研修	25名	7月24日	～ 8月25日

日本肢体不自由児療護施設連絡協議会 交換研修

	施設名	人数	性	職種	研修期間	
1	四天王寺太子学園より受入	1名	女	児童指導員	10/19～10/22	4 日間
2	四天王寺太子学園へ派遣	1名	男	児童指導員	11/8～11/11	4 日間

2 4 研修会

日時	内容	場所
4/22	県栄養士会福祉事業部スキルアップセミナー	横浜市消費者総合センター
5/9	特定給食施設等講習会	平塚保健福祉事務所
5/13	日本重症児福祉協会 重心認定看護師研修 他	川口川崎
5/16	防火管理講習会 他5/17	平塚消防署
6/22	特定給食施設等講習会	平塚保健福祉事務所
6/30	摂食指導	園内
7/4	法人会計事務研修会	すこやか園
7/13	障害者の個人情報とプライバシー	
8/9	障害福祉施設等危機管理講習会	平塚市青少年会館
8/29	JSYネット研修会	ソーレ平塚
9/6	地域保健活動推進研修会	平塚保健福祉事務所
10/5	介護事業場労働管理セミナー	神奈川労務安全衛生協会
10/30	相談支援従事者現任研修 他	県立保健福祉大学
11/1	安全運転管理者法定講習	平塚市中央公民館
12/6	身療協栄養職研修会	さがみ緑風園
12/15	自閉症・ペーパーム症当事者が求める支援	きらり
1/22	障害者虐待防止リーダ-職員研修会 他1/23	灘尾ホール
2/23	摂食指導	園内
3/2	リーダ-ミーティング	園内
3/9	平塚市虐待防止のための関係機関管理者・中堅職員向け	平塚市保健センター
3/12	事務研修会	かながわ県民ホール
3/14	法人新採用職員研修会	ソーレ平塚

2 5 業務連絡会

日時	対象団体	場所
6/19	ボランティアつくし	園内
6/22	城島小学校	城島小学校
6/25	東海大学ワークキャンプ	園内
7/5	平塚養護学校	平塚養護学校
11/6	平塚養護学校	精陽学園
2/27	平塚業務連絡会	平塚養護学校
3/13	平塚市理容組合青年部	園内
3/28	城島小学校（臨時）	園内

2 6 地域行事

日時	内容	場所
5/14	城所自治会春の用水路・排水路の掃除	城所周辺
5/28	YES, 愛, DO! 音楽祭	平塚総合公園体育館
6/17	城島地区子ども大会	城島小学校
8/5	夏まつり城所	貴船神社
8/20	ソーレ平塚納涼祭	ソーレ平塚
9/10	城所自治会自主防災訓練	城所自治会館
9/18	資源回収ゴミ立ち合い	近隣
10/8	城島地区市民体育レクリエーション	城島小学校
10/12	平塚市社協社会福祉展	平塚市社会福祉会館
10/22	城所自治会自主防災訓練	城所自治会館
11/5	七五三	貴船神社
12/3	YO君全国車椅子マラソン参加	横須賀市
12/9	ふれあい福祉まつり	すこやか園
1/1	初詣	貴船神社
1/6	木遣り	園内駐車場
1/14	どんど焼き	近隣
1/27	城所子ども会いちご狩り	杉山いちご園
1/28	城島乳幼児支援ボランティア	城島ふれあいの里
3/3	城島公民館祭り 他3/4	城島公民館
3/18	城所子ども会歓送迎会	城所自治会館

27 学校参加行事

日時	内容	場所
4/5	城島小・平盲・平養・大住中 入学式	各学校
4/10	土屋幼稚園入学式	土屋幼稚園
5/24	城島小警報発令時取り訓練	城島小学校
5/27	城島小運動会	城島小学校
6/3	土屋幼稚園親子ふれあい保育	土屋幼稚園
6/17	平養こどもよかよか	平塚養護学校
7/21	平養防災フェスティバル	平塚養護学校
8/17	城島小飼育当番 他8/18	城島小学校
8/27	平養こどもよかよか	平塚養護学校
9/1	土屋幼稚園引き渡し訓練	土屋幼稚園
9/9	大住中学体育祭	大住中学校
9/30	土屋幼稚園運動会	土屋幼稚園
10/13	土屋幼稚園祖父母の会	土屋幼稚園
10/14	旭丘高校懇談会	旭丘高校
11/3	大住中授業参観	大住中学校
11/4	平養こどもよかよか	平塚養護学校
11/9	城島小なかよしキャンプ 他11/10	足柄ふれあいの村
11/24	平養文化祭 他11/25	平塚養護学校
12/17	平養こどもよかよか	平塚養護学校
2/18	平養こどもよかよか	平塚養護学校
3/1	旭丘高校卒業式	旭丘高校
3/9	平養高等部卒業式	平塚養護学校
3/13	平養小学部・中学部卒業式	平塚養護学校
3/19	土屋幼稚園卒園式	土屋幼稚園
3/20	城島小学校卒業式	城島小学校
3/20	城島小6年謝恩会	城島公民館

28 園内行事

日時	内容	場所
4/3	進級・進学を祝う会	園内
6/3	大住中学厚生委員会 清掃	園内
6/4	春の保護者会、コンサート	園内
6/11	内科検診	園内
6/20	平塚二葉会との遠足	箱根芦ノ湖
6/25	東海大学ワークキャンプ 交流会	園内
6/30	歯科検診	園内
7/7	デイケア七夕外出	平塚駅周辺
7/14	デイケア外食	ガスト
7/29	キャンプ 他7/30	平塚市びわ青少年の家
8/2	コーロピアフェレコンサート	園内
8/6	日産労連ふれあい夏まつり	園内
8/23	茶道教室	園内
8/29	もぐら座公演	園内
9/24	秋まつり	園内
10/17	幼児デイケア遠足	新江ノ島水族館
10/29	内科検診、インフルエンザ 予防接種	園内
10/30	幼児デイケアハロウィンパーティー	園内
11/11	大住中学厚生委員会 清掃	園内
11/13	デイケア柿狩り	伊勢原市
11/17	デイケア運動会	園内
11/19	秋の保護者会	園内
12/20	柚子湯	園内
12/24	クリスマス会	園内
12/28	餅つき大会	園内
1/2	新年会	園内
1/4	炊き出し訓練	園内
1/7	第3者委員来園	園内
1/8	成人の日スペシャルランチ	園内
2/3	節分	園内
2/24	歯科検診	園内
3/11	卒業生を祝う会	園内
3/21	退園児童お別れ会	園内
適宜	その他、慣習行事	園内

2 9 独居高齢者への配食サービス (地域貢献)

日時	内容	配達先
4/21	配食サービス	城島公民館
5/19	配食サービス	城島公民館
6/22	城島公民館 高齢者教室 配食サービス	城島公民館
10/20	配食サービス	城島公民館
11/17	配食サービス	城島公民館
12/15	配食サービス	城島公民館
1/19	配食サービス	城島公民館
2/16	配食サービス	城島公民館
3/19	配食サービス	城島公民館

3 0 防災訓練

日時	内容
4/16	火災想定避難誘導訓練・初期消火訓練
5/21	地震想定避難誘導訓練・初期消火訓練
5/26	河本防災による法定点検
6/19	夜間地震想定避難誘導訓練・初期消火訓練
7/22	火災想定避難誘導訓練・初期消火訓練
8/20	地震想定避難誘導訓練・初期消火訓練
9/10	火災想定避難誘導訓練・初期消火訓練
10/22	夜間地震想定避難誘導訓練・初期消火訓練
11/21	河本防災による法定点検
11/27	通報訓練・緊急連絡網訓練・初期消火訓練
12/10	地震想定避難誘導訓練・初期消火訓練
1/4	炊き出し訓練
1/29	河本防災による火災通報装置交換工事
2/18	地震想定避難誘導訓練・初期消火訓練
3/21	水害想定避難誘導訓練

3 1 外部会議等

日時	内容	場所
4/3	法人新採用リエンテーション・辞令交付式	ソーレ平塚
4/4	法人表彰式	ソーレ平塚
4/7	平塚市社協福祉施設部会監査	平塚市社会福祉会館
4/8	NPO法人たてば 理事会	平塚二葉会
4/11	障害児支援事業等制度改正に係る事業所等説明会	鶴見公会堂
4/11	法人施設運営会議	あけぼの園
4/12	企画政策委員会	県社会福祉会館
4/20	法人経営会議	ソーレ平塚
4/21	NPO法人たてば 総会	平塚二葉会
4/21	県身障協 施設長会議	県社会福祉会館
4/26	城島小学校 評議委員会	城島小学校
4/26	県障害福祉施設・事業者団体説明会	神奈川県民ホール
5/2	法人施設運営会議	精陽学園
5/7	障害児入所支援の質の向上を検証するための研究	東京八重洲ホール
5/8	児童発達支援部会引継ぎ	精陽学園
5/10	法人機関紙編集委員会	ソーレ平塚
5/13	法人就職説明会	すこやか園
5/16	企画政策委員会	県社会福祉会館
5/16	城島地区社会福祉協議会 総会	城島公民館
5/18	平塚市社協福祉施設部会 総会	グランドホテル神奈中平塚
5/29	法人経営会議	ソーレ平塚
5/30	法人監事監査	ソーレ平塚
5/31	障害福祉サービス等報酬改定検討チーム傍聴	厚労省共用第6会議室
6/2	法人理事会	ソーレ平塚
6/5	平塚市障がい福祉施設連絡協議会	平塚市役所
6/6	法人施設運営会議	ソーレ平塚
6/9	児童発達支援部会	きらり
6/12	平養 学校評議委員会	平塚養護学校
6/14	日肢療連 総会 6/15まで	世田谷区宮城邸
6/17	法人評議員会議	ソーレ平塚
6/17	法人理事会	ソーレ平塚
6/20	企画政策委員会	県社会福祉会館
6/26	中原保育園 評議員会議	中原保育園
6/29	厚労省ヒアリング 出席	厚労省
6/29	平塚市障がい者福祉ショップ 運営協議会総会	平塚市役所

7/4	法人施設運営会議	すこやか園
7/5	法人機関紙編集委員会	ソーレ平塚
7/5	東洋英和女学院 就職体験講和	東洋英和女学院
7/5	平塚市成年後見支援ネットワーク連絡会	平塚市保健センター
7/7	厚労省障害福祉サービス等報酬改定検討チーム傍聴	全国都市会館
7/10	県域児童発達支援部会	かながわ県民センター
7/13	平塚市虐待防止ネットワーク実務検討会	平塚市役所
7/13	平塚市資源回収協同組合 贈呈式	平塚市役所
7/18	県身障協施設長会議	県社会福祉会館
7/19	企画政策委員会	県社会福祉会館
7/20	法人経営会議	ソーレ平塚
7/21	平塚市障がい福祉施設連絡協議会	ソーレ平塚
7/27	法人事務員会議	ソーレ平塚
8/1	法人施設運営会議	あけぼの園
8/4	就職説明会	日石横浜ビル
8/24	平塚市虐待防止ネットワーク協議会	平塚市勤労会館
9/4	法人総括安全衛生委員会	ソーレ平塚
9/8	平塚児相管内施設心理担当職員連絡会	きらり
9/21	在宅重心関係機関連絡会議	県総合療育医相談センター
9/21	法人経営会議	ソーレ平塚
9/22	児童発達支援部会	はやぶさ学園
9/25	平塚市虐待防止ネットワーク実務検討会	平塚市役所
10/3	法人施設運営会議	ソーレ平塚
10/5	県身障協施設長会議	県社会福祉会館
10/7	NPO法人たてば理事会	平塚二葉会
10/11	法人職員採用・人材育成検討委員会	ソーレ平塚
10/16	企画政策委員会	県社会福祉会館
10/19	県及び横須賀市との業務連絡会	県総合療育相談センター
10/26	県障害福祉課 建替え相談	県庁
10/30	法人経営会議	ソーレ平塚
11/2	法人理事会	ソーレ平塚
11/7	法人施設運営会議	すこやか園
11/11	法人評議員会	すこやか園
11/15	平養評議委員会	平塚養護学校
11/16	法人経営会議	ソーレ平塚
11/17	児童発達支援部会	わらべの社
11/21	平塚市障がい福祉施設連絡協議会	平塚市役所
11/29	平養肢体不自由児部門生徒の進路に関わる連絡会	平塚養護学校
11/30	法人内部監査事	あけぼの園
11/30	法人事務員会議	あけぼの園
12/4	平塚市虐待防止ネットワーク実務検討会	平塚市役所
12/5	臨時法人経営会議	あけぼの園
12/5	法人施設長会議	あけぼの園
12/11	企画政策委員会	県社会福祉会館
12/13	平塚市成年後見支援センター相談	平塚栗原ホーム
12/13	和泉短期大学実習連絡会	小田急ホテルツェルリア相模大野
12/18	県障害福祉施設職員実践研修会	県社会福祉会館
12/20	平塚市障がい福祉課説明会	平塚市青少年会館
12/21	障害児施設入所児成人サービス等移行支援事業担当者連絡	きらり
12/21	法人経営会議	ソーレ平塚
12/22	かながわ災害福祉広域支援ネットワーク実働訓練	湘南養護学校
1/7	城島地区賀詞交換会	城島公民館
1/9	法人施設運営会議	精陽学園
1/18	法人表彰懲戒委員会	ソーレ平塚
1/18	平塚市虐待防止等ネットワーク協議会	平塚市勤労会館
1/24	法人経営会議	ソーレ平塚
1/26	在宅重心療育連絡会議	厚木市合同庁舎
2/6	法人施設運営会議	ソーレ平塚
2/13	城島小学校評議員会	城島小学校
2/16	児童発達支援部会	三浦しらとり園
2/18	厚生労働科学研究全体会議	東京八重洲ホール
2/20	県障がい者施策説明会	神奈川自治会館
2/21	ひらつか障がい者福祉ショップ 運営協議会	平塚市社会福祉会館
2/21	平養学校評議員会	平塚養護学校
2/22	企画政策委員会	県社会福祉会館
2/23	福祉型障害児入所施設説明会	きらり
3/2	法人理事会	ソーレ平塚

3/5	障害児施設入所成人サービス等移行支援事業担当者連絡会	県庁共用会議室
3/6	法人施設運営会議	すこやか園
3/7	JSYネット定例会	ソーレ平塚
3/16	法人経営会議	ソーレ平塚
3/17	法人評議員会	秦野市北公民館
3/22	総括安全衛生委員会	精陽学園
3/23	あけぼの園卒園式	秦野市北公民館
3/23	第2貴峯館内覧会	第2貴峯館
3/29	臨時経営会議	ソーレ平塚

3.2 園内カンファレンス (ケース会議)

日時	氏名
4/7	TOくん
4/12	RKくん
4/17	STさん
5/16	TOくん
5/19	DTくん
6/1	WSくん
6/13	YHくん
6/28	DTくん
7/12	YTくん
7/18	SKくん
7/18	TOくん
8/8	HHさん
8/22	MMさん
8/30	SHくん
8/30	RNくん
9/5	RKくん
9/22	TOくん
9/29	TOくん
10/1	YOくん
10/13	MMさん
11/10	SNくん
11/30	MMさん
12/7	YKさん
12/20	YKくん
1/24	MSくん
1/29	RNくん
1/31	MSくん
2/26	YKくん
3/19	EHさん

3.3 関係機関とのカンファレンス等

日時	氏名、内容	場所
4/3	OTくん 保護者面接	精陽学園
4/5	ASさん 保護者面接	精陽学園
4/14	平養進路指導担当との話し合い	平塚養護学校
4/18	TOくん 児相との話し合い	精陽学園
4/24	OTくん 児相との話し合い	川崎市こども家庭センター
5/17	TOくん 児相との話し合い	川崎市こども家庭センター
5/25	IHくん 家庭支援カンファレンス	精陽学園
6/16	ASさん 心理カンファレンス	精陽学園
6/23	TOくん 保護者面接	精陽学園
7/19	OTくん 保護者面接	精陽学園
8/1	EIさん メンタルフレンド	平塚児童相談所
8/10	EIさん 児相による性教育	精陽学園
8/14	YHくん、HHくん 入所後カンファレンス	精陽学園
8/15	STさん 情報交換	精陽学園
8/22	EIさん 児相による性教育	平塚児童相談所
8/23	SNさん 里親についての説明会	精陽学園
8/24	IHくん 家庭支援カンファレンス	聖園こどもの家
8/24	SHくん カンファレンス	精陽学園
8/25	EIさん 母との面談	平塚児童相談所
8/28	ROくん 情報交換	精陽学園
8/29	EIさん カンファレンス	精陽学園
9/2	SHくん 保護者面接	精陽学園
9/5	EIさん 保護者面接	平塚児童相談所

10/3	EIさん	心理面接	精陽学園
10/11	EIさん	児相性教育	平塚児童相談所
10/13	SNさん	里親カンファレンス	精陽学園
10/16	ARくん	在留カード更新手続き	東京入国管理局横浜支局
10/17	SNくん	振り回りカンファレンス	精陽学園
10/17	EIさん	家庭支援カンファレンス	平塚児童相談所
10/18	TOくん	児相との話し合い	川崎市こども家庭センター
10/24	EIさん	家庭支援カンファレンス	平塚児童相談所
10/27	MMさん	保護者面接	精陽学園
10/30	EIさん	家庭支援カンファレンス	平塚児童相談所
11/1	RKくん	保護者面接	精陽学園
11/2	EIさん	家庭支援カンファレンス	精陽学園
11/9	SNくん	医療についての面談	県立こども医療センター
11/9	EIさん	情報交換	精陽学園
11/10	EIさん	家裁聞き取り調査	精陽学園
11/11	MNさん	保護者面接	精陽学園
11/21	IHくん	家庭支援カンファレンス	精陽学園
12/11	BHさん	家族支援カンファレンス	平塚児童相談所
12/19	SHくん	家裁聞き取り調査	精陽学園
12/27	SNさん	里親との顔合わせ	精陽学園
1/5	MMさん	保護者面接	精陽学園
1/11	BHさん	家族支援カンファレンス	精陽学園
1/12	BHさん	家庭支援カンファレンス	平塚児童相談所
2/5	SWくん	家庭支援カンファレンス	精陽学園
2/9	HEさん	家庭支援カンファレンス	精陽学園
3/1	AIさん	振り回りカンファレンス	精陽学園
3/15	TOくん	児相との話し合い	川崎市こども家庭センター

3 4 加齢児の移行支援カンファレンス等

日時	氏名、内容	場所	
4/4	KAさん	就職先事前訪問	就職先
4/6	KAさん	退園・転居	就職先職員寮
4/11	YTさん	情報交換	精陽学園
4/12	YTさん	移行カンファレンス	桜の風
4/13	YTさん	移行先施設職員打合せ	精陽学園
4/17	YTさん	相談支援アセスメント	精陽学園
5/11	KKさん	成人契約	精陽学園
5/12	YTさん	退園	桜の風
5/16	MSさん	成人契約	精陽学園
5/22	FEさん	移行カンファレンス	精陽学園
6/14	FEさん	保護者面接	精陽学園
6/29	SMさん	退園	足柄療護園
7/4		施設見学	愛名やまゆり園
7/14		施設見学	悠トピア
8/4	FEさん	移行カンファレンス	伊勢原市役所
9/2	FEさん	移行カンファレンス	精陽学園
10/5	FEさん	施設見学	悠トピア
12/25	FEさん	保護者面接	精陽学園
3/12	FEさん	年金手続き	伊勢原市役所
3/25	KKさん	退園	自宅（フィリピン）

3 5 在学生の移行支援カンファレンス等

日時	氏名、内容	場所	
4/23	YOくん	オープンキャンパス	専門学校
5/8	MNさん	移行カンファレンス	精陽学園
5/23	NIさん	情報交換	精陽学園
5/28	YOくん	オープンキャンパス	専門学校
5/29	NIさん	移行カンファレンス	綾瀬市役所
6/15	NIさん	施設見学	ソーレ平塚
6/26	YKくん	移行カンファレンス	平塚養護学校
7/3	NIさん	障害支援区分認定調査	精陽学園
7/12	YOくん	移行カンファレンス	平塚児童相談所
7/13	NMさん	情報交換・面会（県中央児相）	精陽学園
7/13	HHさん	情報交換	精陽学園
7/20	MNさん	学校見学	神奈川障害者職業能力開発校
7/26	MNさん	情報交換	精陽学園
7/26	ASさん	施設見学	貴峯荘

7/27	YOくん	学校見学	神奈川障害者職業能力開発校
7/28	YKくん	施設見学	希望
8/7	MNさん	移行カンファレンス	精陽学園
8/8	YOくん	障害支援区分認定調査	精陽学園
8/10	MNさん	障害支援区分認定調査	精陽学園
8/16	TOくん	移行カンファレンス	中原区役所
8/17	TOくん	施設見学	柿生学園
8/18	YOくん	学生寮見学	ドーミー小田急相模原
8/22	ASさん	施設見学	ファミリー松尾
8/25	YKくん	施設見学	花みずき
8/29	ASさん	移行カンファレンス	精陽学園
9/2	YOくん	学生寮見学	ドーミー小田急相模原
9/4	NIさん	移行カンファレンス	精陽学園
9/27	MNさん	情報交換	精陽学園
9/27	HHさん	情報交換	精陽学園
10/4	AFさん	情報交換	精陽学園
10/12	YKくん	移行カンファレンス	平塚養護学校
10/20	ASさん	情報交換	横浜市北部児童相談所
10/25	TOくん	施設見学	桜の風
10/27	NIさん	施設見学	さがみ緑風園
11/10	MNさん	児相面接	精陽学園
11/11	MNさん	保護者面接	精陽学園
11/14	NIさん	施設見学	湘南希望の郷
11/16	YOくん	移行カンファレンス	旭丘高校
11/20	YKくん	障害支援区分認定調査	精陽学園
11/20	NIさん	情報交換	精陽学園
11/20	MNさん	児相面接	精陽学園
11/20	AFさん	移行カンファレンス	精陽学園
11/27	NIさん	施設見学	ワゲン療育病院長竹
11/27	MNさん	ハローワークとの面談	平塚市職業安定所
11/29	MNさん	移行カンファレンス	精陽学園
12/6	HKさん	情報交換	精陽学園
12/7	YOくん	福祉センター訪問	相模原市南保健福祉センター
12/7	YOくん	学生寮見学	ドーミー小田急相模原
12/12	YOくん	移行カンファレンス	精陽学園
12/13	平塚市成年後見利用支援センター訪問		栗原ホーム
12/19	NIさん	施設見学	足柄療護園
12/21	HKさん	障害支援区分認定調査	精陽学園
12/21	HKさん	移行カンファレンス	精陽学園
12/26	MNさん	職場訪問	就労予定先
12/27	MNさん	移行カンファレンス	平塚市役所
1/4	MNさん	移行カンファレンス	精陽学園
1/9	MMさん	移行カンファレンス	精陽学園
1/10	貴峯荘GH見学		貴峯荘・第二貴峯館
1/11	NIさん	移行カンファレンス	精陽学園
1/16	NIさん	入所施設アセスメント	精陽学園
1/16	HHさん	移行カンファレンス	精陽学園
1/19	ARくん	移行カンファレンス	横浜市中心児童相談所
1/22	MNさん	GH見学	貴峯荘・第二貴峯館
1/23	HYさん	移行カンファレンス	精陽学園
1/24	MKくん	移行カンファレンス	精陽学園
1/30	NIさん	重心認定調査	精陽学園
2/9	MNさん	相談支援	精陽学園
2/9	YOくん	学生寮体験	ドーミー小田急相模原
2/13	MNさん	サービス等利用計画	精陽学園
2/16	YOくん	移行カンファレンス	精陽学園
2/20	NIさん	移行カンファレンス	精陽学園
2/22	TOくん	移行カンファレンス	川崎市子ども家庭センター
2/27	MNさん	サービス等利用計画	精陽学園
3/2	MNさん	就労関係	精陽学園
3/9	MNさん	保護者面接	県中央児童相談所
3/14	HKさん	移行カンファレンス	平塚養護学校
3/16	HHさん	施設見学	小さき花の園
3/23	MNさん	GH見学	第二貴峯館
3/26	MNさん	移行カンファレンス	精陽学園
3/29	MNさん	GHとの話し合い	精陽学園
3/30	YOくん	退園、転居	ドーミー小田急相模原

3.6 家族との交流等

日時	氏名、内容	場所
5/4	SNさん 姉妹交流	八景島シーパラダイス
8/5	SNさん 姉妹交流	辻堂海浜公園
8/15	YSくん 姉弟交流	府中駅周辺
9/11	EIさん 家族交流	平塚児童相談所
11/1	RKくん 家族交流	精陽学園
11/4	SNさん 姉妹交流	八景島シーパラダイス
11/12	YSくん 姉弟交流	調布学園
12/22	RKくん 兄弟交流	県中央児童相談所
1/7	YSくん 姉弟交流	精陽学園
1/28	SNさん 里親交流	精陽学園
2/12	SNさん 姉妹交流	湘南平塚ららぽーと
3/4	YSくん 姉弟交流	聖蹟桜ヶ丘駅周辺
3/20	HIくん 家族交流	横浜市北部児童相談所
3/27	YSくん 家族交流	横浜市北部児童相談所

3.7 退園児者へのアフターフォロー

日時	氏名、内容	場所
4/26	KAさん 職場訪問	就職先
5/30	KAさん 職場訪問	就職先
6/26	RTさん 保護者面接	精陽学園
6/28	KYさん 施設訪問	七沢自立支援ホーム
7/20	KIさん 職場訪問	就職先
8/29	YTさん 施設訪問	桜の風
11/9	MSさん 施設訪問	足柄療護園
12/11	RTさん 保護者面接	精陽学園
12/26	KYさん 施設訪問	貴峯荘

資料 1-4

平成 29 年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会

ソ ー レ 平 塚

I 障害者支援施設（施設入所支援・生活介護）『ソーレ平塚』

1. 概況

(1) 入所者の動向

平成30年3月31日現在、入所利用者は52名（定員50名）、入所待機者は38名で昨年度より4名増加しました。平均年齢は59歳で、最高年齢は78歳、最少年齢は22歳となっています。65歳以上の方が26名で全体の50%を占め、利用者の高齢化、障がいの重度化に合わせたサービス内容の見直しを随時行いました。

（表1-1~7）

(2) 事故防止への取り組み

今年度のヒヤリハット発生件数は259件（昨年度比25件減）で、事故発生件数は52件（昨年度比5件減）でした。事故の中で車椅子からの転倒により、骨折や裂傷を負い、緊急通院したケースが5件ありましたが、いずれも居室内で職員の間が行き届かない状況で発生したため、利用者懇談会を通じて事故状況を再現し、転倒防止の注意喚起を行いました。発生状況については、毎月の利用者懇談会、職員会議等で報告し、常に事故防止を意識できるよう利用者、職員間で共有を図っています。また、原因不明の骨折が3件発生したため、介助方法の見直しや理学療法士を講師に骨折予防の研修会を開催し、加齢に伴う骨粗鬆症の実態や利用者及び職員双方にとって安心安全な介助技術について学びました。

（6. 事故報告、表2-2）

(3) 防犯・防災への取り組み

防犯の取り組みについては、6月に平塚警察署員を迎え、不審者侵入を想定した防犯訓練を行い、侵入時の対応方法について映像や実地訓練を通じ、実践的に学ぶことができました。また、防災の取り組みについては、6月に寺田縄自治会主催の防災検討会に当所のレインボーホールを貸し出し、職員も参加しました。7月には地震想定避難訓練を実施しました。10月の防災倉庫の整理時には、風水害の影響により施設内外が浸水した場合を想定し、倉庫内の非常用毛布やオムツなどを3Fに移動しました。また、防火管理委員会を中心に作成していたBCP（事業継続計画）が完成し、災害後の復旧計画について職員へ周知しました。

（表1-15、2-2、2-5）

(4) 職員体制の状況

5月に生活支援員（常勤）2名が入職し、2名が異動しましたが、9月に1名が退職しました。その影響で9月以降の準夜勤の配置が困難になったため、夜勤職員配置体制加算の算定ができなくなりました。

2月に生活支援員（常勤）1名、看護師（常勤）1名を採用しましたが、3月に生活支援員2名が退職したため、引き続き新年度も生活支援員2名を募集しています。

また、生活支援員の欠員により準夜勤の配置が十分ではないため、2月より夜勤専属の支援員（アルバイト）を配置して、夜間体制の拡充を図りました。

（表2-1）

（5）施設設備の修繕状況

冷暖房設備、ベッド、天井走行リフター等の経年劣化により、故障が続いており、適宜修繕対応しました。特にリフターについては、耐用年数が近づいており、メーカーの部品交換対応も困難になっているため、今後徐々に交換する必要があります。また、居室のドアノブの不具合やクロスの剥れ、廊下の手すりの補修等、適宜対応しました。

2. 運営課題に対する評価

（1）本人を中心とした支援の徹底

今年度の取り組みとして、利用者にグループ会議へ参加してもらい、個別支援計画の進捗状況の確認や本人の思いを汲みとりながら、職員と意見交換する時間を設けました。参加利用者によっては、会議が始まる時間に自ら会議室前で待機されていたり、会議中も言葉を選びながら何とか思いを伝えようとする姿など普段見られない一面を垣間見ることができました。また、職員も利用者との対話をより意識する時間として定着しました。3月には、個別支援計画実践報告会を開催し、各フロアにおけるこれまでの支援を発表しましたが、利用者のエンパワメントについて理解を深める良い機会となりました。

（2）業務改善の推進

記録ソフト（Taskware）の導入により、様々な業務の効率化が進んでいます。具体的には、実際の記録時間の短縮につながり、利用者に関わる時間や介助以外の業務の時間に充てることができました。また、日々の予定や業務日誌、個人記録などが一括管理されているため、専門職を含めた情報共有がしやすく、利用者への迅速な対応につながりました。さらに年度の途中から新たにソフト上での会議録作成や電子決裁の試行も開始し、継続的に業務改善を図っています。

また、夜間帯の業務内容を見直し、自動おしぼり機（清拭用）を導入したことで、洗濯業務が削減され、夜勤者の負担軽減につながりました。

（3）円滑なりハビリテーションの実施と介助方法の見直し

今年度より、毎日セラピストを配置することが可能となり、リハビリ実施計画書

を基にして、より多くのリハビリ機会を利用者に提供することができました。加齢や骨折による身体機能の低下や退院後の身体状況の変化など、適宜セラピストの評価を受けて、介助方法の見直しを図りました。また、リハビリ委員会へセラピストも参加してもらい、活発な意見交換と利用者の情報共有に努めました。

(4) 健康管理に対する取り組み

職員は日々の暮らしの中で、健康に対する意識を高く持ち、利用者にとって健康で楽しい生活が送れるよう支援しました。優しく寄り添い、居心地の良い雰囲気の中で安心して生活が送れるよう配慮し心身の苦痛の緩和とストレスの軽減を図り免疫力の向上に努めました。

年々加齢に伴う心身の変化がうかがえます。健康の維持増進のためには、疾患の予防・早期発見と対応、事故による受傷等の防止が大変重要です。感染予防対策・事故防止対策に対して職員一同が共通認識のもと衛生管理・環境整備を行っていくことができるよう配慮しました。

(5) 楽しい食事の提供

今年度も行事食として4月、6月、9月、11月、2月に旬彩の日を実施し、しらす丼、鰻丼、鰹のタタキ等、旬の食材を献立に取り入れ、利用者に好評でした。11月は鰻玉丼のリクエストが再度あったので、鰻を提供しました。2月は、鯛の漬け丼(茶漬け風)を提供し、普段食べられない食材を中心にし、喜んでもらえました。

スペシャルランチデイでは、洋食コース風な献立として、久しぶりにピザトーストを提供し、こちらも大変好評でした。例年では夏に流しそうめんを実施していましたが、参加者が限られてしまうので、今年は全員参加出来るように、冷奴にトッピングやタレを選べるようにし、いつもと違った雰囲気を楽しんでもらいました。11月には、美味しいお肉が食べたいというリクエストに添って、肉汁たっぷりのメンチカツサンドを提供しました。また、3月にクリームチーズの寄付があり、レアチーズケーキを作って提供し、大変満足していただきました。

クリスマスには例年どおり、一人ひとりの食形態に合わせて一人前ずつ弁当形式で提供しました。またお正月には、おせち料理とお刺身を提供し、大変喜んでもらえました。

また食の安全の観点から、今年度から利用者が個別購入している冷蔵庫管理の食品について保管期間を設けるようにしました。利用者には、利用者懇談会において食品の消費期限や賞味期限等について説明を行い、理解と協力をお願いしました。

(表 1-16~17)

(6) 安心できる生活

6月に寺田縄自治会主催の防災検討会が当所を会場に開催され、地域の方々と防

災について考える良い機会となりました。また、利用者懇談会を通じ、避難訓練の協力や防災について意識してもらえるように必要な情報を提供しました。

また、障がいの重度化や加齢による身体機能の低下に伴い、適宜セラピストと協働して利用者の介助方法を見直しました。1月の家族懇談会において、骨折等の事故報告を行い、今後の対応策について説明しました。また、ターミナルケアを踏まえ、「延命措置意思確認書」を年1回更新することを伝えました。

(7) やりがいの持てる職場づくり

階層別研修では、6月に「6～9年目研修」、7月に「10～16年目研修」、10月に「2～5年目研修」、11月に「リーダー研修」、2月に「1年目研修」をそれぞれ行いました。各研修テーマを通じて自分の業務を振り返るとともに、新たな気づきのある有意義な機会となりました。外部研修関連においては、各職員の研修希望や課題を勘案し、適宜必要な研修に派遣しました。内部の伝達研修については、調整が難しく実施できていないため、できる限り各種会議等で伝達の機会が持てるように努めていきます。

(表 2-2、2-3)

3. 事業内容

(1) 生活支援

①個別支援

- a. 利用者と担当者が十分な話し合いを行い年間の目標、課題を達成するための個別支援計画を立案、実施しました。支援目標は、それぞれの項目に評価期間を設定して、カンファレンスを行い、目標課題の評価を行いました。必要があれば再評価期間を設定しました。
- b. 課題の設定及び評価の際には、必要に応じてリハビリ実施計画（生活支援評価表）を活用し、専門職の意見又は評価を取り入れることにより、理論的な検証を行いました。また、可能な限り当事者も参加し、グループ会議を中心に意見交換を行っています。利用者本人の評価は必ず取り入れ、個別支援計画が利用者自身のものとなるように取り組みました。
- c. 利用者の健康管理、安全な生活を確保する上でやむを得ず、身体拘束にあたる行為をする際には、人権擁護委員会に諮り、その状況を適宜カンファレンスにて見直し、安易に身体拘束が行われないように取り組みました。

②健康管理

- a. 利用者の健康管理については、個々の生育歴、障害と病歴、家族背景、年齢、服薬の長期継続、生活習慣などによる個別性を考慮し、生活支援員、各セラピスト、看護師、嘱託医(内科医、整形外科医、精神科医)が連携しました。専門的な

科目の診療が必要な場合は、地域の協力病院へ通院を行いました。

呼吸器感染は早期の通院、隔離に留意しました。初期症状から早期対応したにもかかわらず重症化し入院に至ってしまった方が4名いました。2月に16名、3月下旬に15名の呼吸器感染がありました。感染時の対応の見直しと、初期の呼吸器感染に対する治療計画について医師の指示を受けました。

また、難治性の褥瘡の根治治療のため長期入院となった方が1名、転落による骨折が2名、原因が明らかでない骨折が1名あり、介助と環境の見直しを行いました。9月に52名が胸部レントゲン撮影を行いました。11月に50名がインフルエンザ予防接種を行い、幸いにも今冬、インフルエンザ罹患者は出ませんでした。

b. 加齢や障がいの進行により、疾患時の重症化と長期化の傾向が見られ、医療的ケアの必要性が増しています。体調の把握と早期発見、早期対応に繋げられるよう生活支援員と看護師の連携を深め、重度化を予防しました。介護職員等による喀痰吸引等研修の資格取得を進めるとともに、有資格者の知識、手技の確認を行い、より安全な医療的ケアの提供を継続しています。食事や排泄などの生活に関わる医療的ケアについては、生活支援員と看護師が協働で関わっていただけるように取り組んでいます。

c. 利用者が自分の健康管理に関心を持ち、積極的に取り組めるように支援しました。やりたいことの実現に向けての体調維持、感染予防や事故防止の為に必要な環境整備を個々の生活スタイルを尊重しながら一緒に行いました。

日々の生活が安心して優しさや思いやりを感じながら過ごせるよう、生活支援員、看護師は所作や言葉遣いに気を配り、利用者に目を向けた支援を行いました。

d. 「杉山デンタルクリニック」の医師には、往診の協力を頂きました。口腔内の衛生を保ち、適切なケアを行うことは誤嚥性肺炎を始め合併症の予防と安定した食事摂取などの健康維持に欠かせない支援です。10月と11月に49名が歯科健診を行いました。「ありがとうみんなファミリークリニック平塚」には、発熱や呼吸器感染時などの臨時通院の協力を頂きました。「おしげ皮膚科クリニック」には主にネットによる再診を行い通院困難な利用者の速やかな対応を行うことが出来ました。また、インターネット回線を利用した遠隔診療と必要時の通院を行いました。「久保田整形外科医院」には、レントゲン撮影などのご協力を頂き三木医師と連携しました。さらに専門的な診療科として、「もりた眼科医院」・「まきの耳鼻科医院」に通院の協力を頂きました。(表1-8~11)

③リハビリテーション

a. 理学療法

理学療法士(週5~6回)により、身体機能の評価、個別メニューを実施し、補

装具等の作成を行いました。また、リハビリ実施計画書（生活支援評価表）を活用し、利用者の日常生活動作の再評価を実施しました。

b. 言語療法

言語聴覚士（週 1 回）により、定期的な言語指導を個別又はグループプログラムで行いました。また利用者の摂食状況について、随時評価・指導を頂き、必要な訓練を現場で実施しました。

c. 作業療法

作業療法士（週 1～2 回）により、日常生活動作及び作業等における評価を行い、訓練メニューの実施、自助具の作成等を行いました。

d. 摂食指導

歯科医師の指導内容をもとに、個々の障がいの状況に応じた食事形態のメニューを管理栄養士と連携しながら提供しました。また経管栄養者に対して、経口摂取の訓練を実施しました。

e. 鍼灸マッサージ

鍼灸按摩マッサージ指圧師により、身体の痛みの軽減やストレッチを定期的に 10 人実施しています。ニーズが増えており、医師、理学療法士と連携して実施回数を調整しました。

④栄養管理

管理栄養士が中心となり、栄養ケアマネジメントを実施しました。また、食事委員会や食事時間の巡視等を通じて利用者の健康状態の改善にも努めました。前年度に、体重計を新たに購入し、正確な計測が出来るようになったため、利用者の体重変動をこまかく把握できるようになりました。現在も体重の変動と食事摂取量から栄養状況の判断をしています。また、継続して偏食傾向のある方の食事摂取量を毎食記録して把握しました。体重の減少傾向にある方が風邪等で重篤になる可能性が高く、一定の体重を維持することが大切で、特に偏食傾向の方には、苦手な物は代替品を提供しながら一定量をしっかり摂取してもらいました。また、栄養補助食品（エンシュア）等の摂取により体重を増やすことが出来た方もいました。ミキサー食のトロミ剤も近年様々な物が出ており、どのような物が適しているか多職種で検討しました。食欲が湧かず食事摂取量が落ちている方もおり、見た目も重要視し、美味しさを継続して見直しました。また過体重の方は、アプローチが難しい方が多いので、直接変更可能な対策をアドバイスし、実行してもらいました。糖尿病等の有病者についても引き続き、悪化しないよう多職種協働で問題に取り組んでいます。

（表 1-16～17）

⑤アクティビティ活動

a. クラブ活動

ボランティアの協力のもと、定期的に書道、パソコン、コーラス、陶芸、車椅子ハッピーダンス、華道・茶道、七宝焼き、将棋の活動を行いました。発表、展示、販売等を通じて、利用者が意欲を持って活動できるよう支援しました。(表 1-12)

b. 趣味活動

ローリングバレーボール、卓上競技、ポッチャ、料理、創作、映画等の各種活動を定期的にも実施しました。地域行事である「YES, 愛 DO!」への参加、平塚市内の関係事業所と共催の展示即売会に参加し、活動作品を販売しました。ローリングバレーボールにおいては6月の神奈川交流大会では8位、9月の身障協大会ではAブロックで4位、3月のぱっする杯では7チーム中4位でした。(表 1-12)

c. 外出

単独外出が難しい方には職員が付き添い、介護タクシー、バス、電車などの交通機関を利用して外出するなど、個々の自立度に合わせて支援しました。また単独外出できる方は、職員に口頭で伝えてもらい、外出を楽しんでいます。

個別支援計画に沿って、買い物や日帰り旅行を楽しむ方が増えました。有料ヘルパーや介護タクシー等を積極的に利用し、顔なじみとなることで利用者の外出に対する不安が軽減されました。(表 1-13)

d. 喫茶アモーレ

月2回の水曜日にボランティアの協力を頂き、喫茶店の営業をサポートしました。今年度は、入所および通所利用者が主催する「アモーレを楽しむ会」が結成され、利用者の発案で和スイーツやロールケーキなど特別メニューが提供されました。

⑥行事

a. 車椅子が固定できる観光バスにて5月に富士サファリパーク、9月に箱根、2月にディズニーシーへ日帰り旅行に出かけました。利用者の皆さんも、家族、職員、ボランティアが付き添うことで、安心して旅行を楽しむことが出来ました。

b. 8月の納涼祭は、天候が心配されましたが、無事に開催することができました。今年度より金券制を導入し、来場者の方々が自由にメニューを選んで購入できるように配慮しました。利用者の方々もご家族とのふれあいや盆踊り、ゲストのフラダンスショーを楽しまれ、地域からも多くの方々が来場されました。また、今年は約60名の方にボランティアのご協力をいただきました。(表 1-14)

⑦社会適応訓練

今年度は地域生活移行プログラムの立案等を必要とする利用者はいませんでした。利用者個々の地域生活の可能性を今後も探り、支援を進めていきます。

4. 苦情解決の取り組み

(1) 毎月利用者との懇談会を開催し、情報の提供や日々の生活面の話し合いを行いました。また、懇談会で出された意見や要望を生活委員会にて検討し、日々の利用者支援に反映できるように努めました。また、職員の支援指針である「愛の12か条」をもとに、各グループで目標を立て、日々の支援で意識できるよう取り組みました。

12月と3月に、第三者委員による相談会を開催し、延べ4名の利用者が面談しました。

(2) 8月にJSY ネット主催の研修会がソレにて開催され、「感情労働とストレスマネジメント」について学びました。

(3) 今年度の苦情申し出は、ありませんでした。

5. 防災訓練

表1-15を参照。

6. 事故報告

(1) 介護事故

①件名：左第4趾の裂傷および腫れ

日時：平成29年4月21日（金）20:45頃

利用者：24歳男性（支給市町村：平塚市）※ショートステイ利用

概要：就寝のため、車椅子上で上衣を交換し、ベッドへ上がってから下衣を交換した際、左第4趾の付け根から出血している。傷が深かったため緊急通院したところ患部を4針縫合した。

原因：受傷の原因は特定できなかった。

対策：原因が特定できなかったため、より安全面に配慮した対応策を検討した。

a. 移乗を2人介助に変更する。

b. 手足の保護のため、ベッド周りにクッションを置く。

c. 足指が内側に拘縮しているため、着脱介助を丁寧に行う。

②件名：左大腿骨顆上骨折

日時：平成29年6月8日（木）23:00頃

利用者：56歳男性（支給市町村：平塚市）

概要：夜間の体位交換時、左膝に腫れと熱感があった。翌日整形外科に通院したところ大腿骨顆上骨折との診断を受け、ギプス固定となった。

原因：受傷の原因は特定できなかった。

対策：原因が特定できなかったため、医師の助言を踏まえ、より安全面に配慮した対応策を検討した。

a. リフト用の吊り具を変更する。(一点に負荷を掛けない)

b. 骨が脆くなってきているため、フォルトオ皮下注射の治療を行う。

③件名：バルーンカテーテルが抜けてしまう

日時：平成 29 年 8 月 26 日（土）10:50 頃

利用者：40 歳女性（支給市町村：厚木市）

概要：特殊浴槽（シャワーベッド）のストレッチャーを操作した時にウロバッグが機械に引っ掛かりバルーンカテーテルが抜けてしまった。すぐに看護師が再挿入した。

原因：通常ウロバッグは足の上に置いておくが、ストレッチャー操作時にはウロバッグがストレッチャーの外側に出ている状態だったため機械に引っ掛かってしまった。

対策：ストレッチャー操作時は、ウロガードの位置を必ず確認し、利用者にも「ウロガードの位置を確認しました」と伝える。

④件名：胃ろうチューブが抜けてしまう

日時：平成 29 年 9 月 14 日（木）5:30 頃

利用者：49 歳女性（支給市町村：平塚市）※ショートステイ利用

概要：朝の更衣時、パジャマに胃ろうチューブが絡まっていることに気付かず引っ張ったため、抜けてしまった。応急的にバルーンカテーテルを再挿入した。その後、往診医が来所し、胃ろうチューブを再挿入した。

原因：概要と同じ。

対策：胃ろうチューブに十分注意して更衣を行う。

⑤件名：バルーンカテーテルが抜けてしまう

日時：平成 29 年 9 月 19 日（火）10:00 頃

利用者：40 歳女性（支給市町村：厚木市）

概要：入浴の脱衣介助時、車椅子上で上肢を挙上した際に利用者の手にバルーンカテーテルが引っ掛かり抜けてしまった。入浴後に看護師が再挿入した。

原因：概要と同じ。

対策：介助の際にはウロガードおよびカテーテルの位置を必ず確認する。

⑥件名：胃ろうチューブが抜けてしまう

日時：平成 29 年 9 月 26 日（火）5:30 頃

利用者：73 歳男性（支給市町村：茅ヶ崎市）

概要：トイレにて立位をとろうとした際に、車椅子のアームレストに胃ろうチューブが引っ掛かり抜けてしまった。応急的に吸引カテーテルを挿入し、改めて看護師が胃ろうチューブを再挿入した。その後外傷の有無とチューブの挿入確認のため通院した。

原因：概要と同じ。

対策：胃ろうチューブを常時下着とズボンの間に固定し、介助時は必ず位置の確認を行う。

⑦件名：左足底骨折の疑い

日時：平成 29 年 10 月 19 日（木）9:30 頃

利用者：68 歳女性（支給市町村：平塚市）

概要：起床時、ベッドから車椅子へ移乗介助の際、左足をフットレストに乗せたと同時に声を上げ、足の裏に痛みを訴えた。外傷、赤み等は見られず、確認後痛みは消失していた。その後の介助にて再度痛みを訴えたため、10 月 23 日に通院し、レントゲンの結果、骨折の疑いと診断された。

原因：移乗時、介助者の足に患部が直接当たったか、フットレストに足を乗せた際に痛めてしまった。

対策：移乗介助については、2 人介助で行い、身体への衝撃を和らげる。

⑧件名：バルーンカテーテルが抜けてしまう

日時：平成 29 年 11 月 21 日（火）10:00 頃

利用者：66 歳女性（支給市町村：平塚市）

概要：入浴時、ストレッチャー上での更衣中、本人の足がバルーンカテーテルに引っ掛かり抜けてしまった。

原因：バルーンカテーテルの位置やルート確認が不十分だったため。

対策：バルーンカテーテルに手足が引っかからないよう配慮する。

⑨件名：右第 4 趾中足骨骨折

日時：平成 29 年 12 月 25 日（月）11:00 頃

利用者：65 歳男性（支給市町村：横須賀市）

概要：右足底中央部に内出血が見られる。翌日になって内出血が広がり、足首から足全体に熱感と腫れがあったため通院し、レントゲンの結果、右第 4 趾中足骨骨折と診断された。

原因：不明。

対策：考えられる要因として、「ベッド上での体位交換時に足に負荷がかかる」「車椅子への移乗時にフットレストに強く当たる」「入浴時、トイレから浴室へ向かう際に足が引っかかる」「車椅子移動時に壁に当たる」等が推測される。

加齢で骨が脆くなっていることも考えられるので、介助を慎重に行うように職員間で周知した。

⑩件名：尿道カテーテルが抜けてしまう

日時：平成30年2月25日（日）19：15

利用者：76歳男性（支給市町村：平塚市）

概要：就寝介助時、車椅子からベッドへの移乗の際に尿道カテーテルが車椅子の手すりかレバーに引っ掛かり抜けてしまう。尿道口より出血が見られたため、緊急通院し、再挿入してもらった。

原因：介助時のカテーテルの位置確認が不十分だったため

対策：移乗時はパック内の尿捨てを事前に行う。また、ルートにたるみを作らないようにクリップでホースを服にとめる。

(2) 転倒事故

①件名：前頭部より出血

日時：平成29年5月22日（月）6:30頃

利用者：67歳男性（支給市町村：鎌倉市）

概要：利用者居室より声がしたため訪室すると、車椅子から転倒し、前頭部右側（右眉1cm上）から出血している。傷は横に3cm程で、丸く腫れ上がっており、意識はあるが、顔面蒼白の状態であった。頭部を打ち、出血も多量であったため、救急車にて搬送し、3針縫合の治療を受けた。

原因：原因不明であるが、何かしようとして前から倒れこむように転落した様子。

対策：傷が完治するまでの間、一時的に胸ベルトを着用した。

②件名：右大腿骨顆上骨折

日時：平成29年7月8日（土）13:50頃

利用者：67歳女性（支給市町村：平塚市）

概要：他の利用者から連絡があり訪室すると、床に横たわっていた。右膝の違和感と痛みを訴え、熱感と腫れも見られたため緊急通院したところ、右大腿部外側の骨にヒビが見られた。再通院にて右大腿骨顆上骨折との診断を受けた。

原因：床に落ちたティッシュ箱をマジックハンドで拾おうとし、右前傾になった後バランスを崩し、車椅子より転倒した。

対策：一旦前傾姿勢になると体が起こしづらくなるため、床に物が落ちた時などは職員を呼んでもらう。

③件名：左第2、3、4、5趾骨折

日時：平成29年9月6日19:45頃

利用者：78歳女性（支給市町村：二宮町）

概要：他の利用者から連絡があり訪室すると、床に右足を下に横座りの状態でいた。熱感や腫れは見られないが、強い痛みを訴える。翌日も痛みが継続したため、通院するが、レントゲン画像には写らず、骨折の疑いとの診断を受けた。後日通院にて、左第 2、3、4、5 趾の骨折が判明した。

原因：床頭台より何か物を取ろうとして、車椅子から転倒したと思われる。

対策：就寝介助の時間までは、職員の目の届きやすいデイルームで過ごしてもらう。日中も 1 時間おきに所在確認を行う。

④件名：前頭部より出血

日時：平成 29 年 11 月 9 日（木）6:00 頃

利用者：67 歳男性（支給市町村：鎌倉市）

概要：4:50 起床介助後、車椅子乗車する。6:00 頃、居室にて右側臥位の状態で前頭部から流血しているところを発見する。その後、救急車にて平塚市民病院へ搬送し処置を受ける。

原因：居室の床に入浴用の着替え袋が落ちていたため、落ちたものを拾おうとして前かがみになり転倒したと思われる。

対策：胸ベルト、ニット帽（頭部の保護）の着用による転倒防止

⑤件名：車椅子より転倒

日時：12 月 27 日（水）8:48 頃

利用者：78 歳女性（支給市町村：二宮町）

概要：居室にて、左側臥位の状態で転倒している。職員介助にてベッドへ移動し、左膝、左肩に熱感あり。整形外科へ通院し、レントゲンの結果、特に骨には異常なし。

原因：棚に物を置こうとして転倒したと思われる。

対策：胸ベルトの着用による転倒防止

7. 安全衛生

施設内の除菌・消臭対策については、次亜塩素酸を使用したスプレーを昨年度末より取り入れて行っています。また、昨年度に集団発生した感染症を踏まえ、ソールの感染症対策マニュアルを更新しました。これまでは主にインフルエンザを対象としたものでしたが、新しいマニュアルでは感染症全般に対応した内容に変更し、感染症の予防や対応、感染拡大防止策についても記載しました。

また昨年度から始まった職員のストレスチェックは 7 月に実施しました。健康診断の結果と合わせて、前田産業医と連携し、個別に面談を行いました。

8. その他

(1) 横浜保護観察所の社会貢献活動参加者の受け入れ

7月に1名、8月に2名、12月に1名の参加者を受け入れました。主にローリングバレーの活動を通じて利用者と関わり、活動準備から練習の補助、片付け等を行っていただきました。当日は、保護司2名と保護観察官2名も同席しました。

(2) ボランティアの受け入れと地域交流の充実

近隣のサンキッズ金田保育園、金田小学校3年生等との交流を図りました。また、喫茶アモーレ、陸上競技大会、七夕まつり見学、納涼祭、日帰り旅行等の行事でボランティアを受け入れました。

(3) 広報活動

①施設のホームページを適宜更新し、行事の様などを発信しました。

②4月、6月市役所展示即売会、5月の「YES,愛 DO!」音楽祭、8月のカップ祭り、10月の社会福祉展、2月の平塚ふじみ園作品展、3月の身障協作品展、公民館まつりで作品の展示や販売をし、地域の方々に当施設の活動を広めています。

③6月に寺田縄自治会主催の防災検討会がレインボーホールを会場に開催され、地域の方々約30名が参加されました。

(4) 外部会議等

神奈川県身体障害施設協会の卓上競技委員会、文化委員会に職員を派遣しました。また、体育委員会では事務局を担当し、ローリングバレー大会や審判講習会等を企画運営しました。

(5) 物品寄付

平塚市資源回収協同組合様より、トイレトペーパー。

ミニストップ様より、宮崎牛。

(6) 寄付金

寄付金 33件 152,000円

Ⅱ. 短期入所事業『ソーレ平塚』

1. 利用者の状況

(1) 安定した良質なサービスの提供

短期入所登録者は152名（定員6名）で昨年度より短期入所登録者が7名増加しましたが、女性職員の補充ができず、女性の短期入所利用者の受け入れ制限を継続していたため、ベッドの稼働率は58.8%（男性68.8%、女性48.8%）でした。男性職員も10月より欠員の補充ができず、一部男性利用者の受け入れに制限をかけていたため、延べ日数で見ると上半期が704日に対し、下半期は587日となりました。職員の補充は男女ともに急務として取り組む必要があります。また、2月、3月は、男性フロアにて風邪症状の方が続出し、2ヶ月に渡り、男性利用者の受け入れをキャンセルせざるを得ない状況になりました。

(2) 関係機関との調整

年始に事業所から緊急短期の相談がありました。区分認定も下りておらず、行政も休みで連絡が取れない状態でしたが、関係機関と連携し、ご自宅での面接を行って、早急の受け入れを行うことができました。また、普段ご利用のある利用者や家族の状況の変化など、適宜相談事業所と連絡を取り合い、適切な対応を取ることができました。

(3) 障害福祉サービス等地域拠点事業（湘南西部あんしんネット事業）の実施

夜間看護師の補充ができたことで、医療的ケアのある利用者を定期的に、かつ日数多く受け入れることができました。その一方で支援員の欠員により、職員の配置を必要とする利用者の受け入れが男女ともに難しい状況でした。

参考資料

1. 利用者の状況

[表1-1]月別、入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在籍	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末在籍	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52

[表1-2]機関別、利用者数

	湘南西部保健福祉圏域					湘南東部			横須賀・三浦			県央		県西	他	合計	
	平塚	秦野	伊勢原	大磯	二宮	藤沢	茅ヶ崎	寒川	横須賀	鎌倉	三浦	葉山	綾瀬	厚木	真鶴		川崎
男性	11	2	1	2	1	3	2	1	2	1	1	0	0	0	1	0	28
女性	10	2	1	0	1	2	1	0	1	0	1	1	2	1	0	1	24
合計	21	4	2	2	2	5	3	1	3	1	2	1	2	1	1	1	52

[表1-3]入退所の経路

	【入所】									【退所】								
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	合計	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	合計		
学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
在宅 無職	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1		
在宅 作業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
在宅 就労	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
在宅 通所施設	1	0	0	1	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0		
入所施設	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1		
病院	0	1	1	1	2	1	0	6	0	0	1	1	1	2	0	5		
その他	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	2	0	0	6		
合計	2	1	2	3	4	2	0	14	1	1	3	2	4	2	0	13		

[表1-4]障害別、等級別、利用者数

	脳性まひ	脳血管障害	頭部外傷	脊髄損傷	脊髄小脳変性症	多発性硬化症	筋ジストロフィー	悪性リウマチ	てんかん	脊椎カリエス	その他	合計	1級	2級	3級
男性	8	9	6	2	1	0	0	0	0	0	2	28	18	9	1
女性	14	2	1	3	0	1	0	0	2	1	0	24	17	6	1
合計	22	11	7	5	1	1	0	0	2	1	2	52	35	15	2

[表1-5]男女別、年齢表

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～	合計
男性	0	1	2	2	5	3	9	6	28
女性	0	1	2	4	3	1	3	10	24
合計	0	2	4	6	8	4	12	16	52
平均年齢				男性 60歳	女性 59歳	全体 60歳			
最高齢				78	最年少	22歳			

[表1-6]障害支援区分

	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	0	7	21	28
女性	0	0	0	0	7	17	24
合計	0	0	0	0	14	38	52

[表1-7]男女別、日常生活動作一覧表

	起座			立ち上がり			着脱衣			整容動作			歩行			車椅子使用			
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	使用無
男性	8	2	18	6	7	15	6	5	17	5	12	11	2	4	22	12	7	7	2
女性	2	6	14	2	7	15	2	12	10	6	11	7	1	2	21	15	5	4	0
合計	10	8	32	8	14	30	8	17	27	11	23	18	3	6	43	27	12	11	2
	食事				入浴			寝返り			おむつ使用			排泄					
	自立	一部介助	全部介助	胃ろう	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	体交	自立	一時使用	常時使用	自立	一部介助	全部介助	導尿等	摘便等
男性	18	4	4	4	2	5	21	11	4	13	5	13	2	13	4	9	15	3	4
女性	10	10	4	0	0	8	16	10	3	11	10	4	5	15	2	6	16	6	5
合計	28	14	8	4	2	13	37	21	7	24	15	17	7	28	6	15	31	9	9

[表1-8]病院別、通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平塚市民病院	5	3	9	5	5	8	7	8	7	7	8	9	81
平塚共済病院	3	5	2	3	5	3	4	4	6	4	5	7	51
東海大学伊勢原病院	1	4	1	2	2	2	3	3	2	4	1	2	27
東海大学大磯病院	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5
県総合リハビリテーション病院	1	1	0	4	3	2	0	0	0	0	0	1	12
ありがとうファミリークリニック平塚	4	0	0	6	4	1	1	0	0	4	7	5	34
伊勢原協同病院	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
おしげ皮膚科クリニック	7	2	16	12	9	6	9	4	15	11	11	18	120
杉山デンタルクリニック	9	7	3	0	2	5	4	5	7	8	2	3	55
まきの耳鼻科クリニック	3	1	4	3	1	6	2	3	6	2	3	5	39
もりた眼科クリニック	2	7	4	6	1	7	3	5	5	7	2	2	51
済生会湘南平塚病院	0	0	0	3	1	1	0	0	0	0	4	1	10
静岡てんかんセンター	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	13
久保田整形外科医院	0	1	0	0	0	3	2	2	2	1	1	0	12
内田クリニック	1	1	1	2	2	1	1	2	1	1	2	1	16
休日診療	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	41	36	42	48	37	48	41	38	53	51	48	56	539

※1回の通院で複数の科の受診あり。

[表1-9]医務室診察状況(嘱託医、協力医)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本多先生(内科)	77	73	78	91	77	97	82	78	72	67	93	93	978
三木先生(整形外科)	10	15	11	8	22	10	10	14	12	15	8	4	139
渡邊己弦先生(精神科)	12	12	8	7	7	6	7	7	9	7	7	7	96
渡辺俊太郎先生(精神科)	0	0	4	4	5	6	5	4	5	6	5	4	48
杉山先生(歯科)	0	4	6	2	4	0	27	25	8	6	0	5	87
合計	99	104	107	112	115	119	131	128	106	101	113	113	1348

[表1-10]診療科目別、通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	6	3	2	7	9	3	7	3	2	6	17	12	77
神経内科	1	2	1	2	2	3	3	2	1	3	1	2	23
外科	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	7
整形外科	3	1	5	7	3	4	2	2	2	1	1	0	31
歯科	9	7	3	0	2	5	4	5	7	8	2	3	55
皮膚科	7	2	16	12	11	10	11	4	16	11	13	18	131
耳鼻科	3	1	4	4	2	6	2	3	6	2	3	5	41
眼科	2	7	4	6	1	7	3	5	5	7	3	2	52
泌尿器科	6	6	6	7	6	7	5	7	4	6	6	7	73
小児科	0	2	0	1	1	0	2	0	0	2	0	0	8
循環器科	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
脳外科	0	1	0	0	1	0	1	3	0	1	0	0	7
形成外科	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	3	7
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	1	1	9
ペイン	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	13
救急外来	2	2	1	0	0	1	1	1	1	0	0	2	11
													0
合計	42	35	43	47	39	47	43	40	52	52	50	57	547

[表1-11]入院状況、入院理由

病院名	4月1日～9月30日		10月1日～3月31日		年間	
	延べ人数	延べ日数	延べ人数	延べ日数	延べ人数	延べ日数
平塚市民病院	2	39	3	8	5	47
平塚共済病院	0	0	2	13	2	13
済生会湘南平塚病院	0	0	1	32	1	32
県総合リハビリテーション病院	1	79	0	0	1	79
小計	3	118	6	53	9	171

	氏名	性	病院	診療科	病名	入院期間	
1	S.T	男	平塚市民病院	呼吸器内科	肺炎	4/23	～ 5/12 20日間
2	K.A	女	県総合リハビリテーション病院	第II整形外科	仙骨部褥瘡	5/9	～ 7/26 79日間
3	H.M	女	平塚市民病院	消化器内科	腹膜内腫瘍	8/1	～ 8/19 19日間
4	S.T	男	済生会湘南平塚病院	内科	肺炎	2/28	～ 32日間
5	F.K	男	平塚共済病院	消化器内科	S状結腸捻転	3/5	～ 3/9 5日間
6	F.N	男	平塚共済病院	泌尿器科	尿路感染症	3/21	～ 3/28 8日間
7	Y.Y	女	平塚市民病院	呼吸器内科	誤嚥性肺炎	3/29	～ 3日間
8	S.K	男	平塚市民病院	内科	イレウス	3/29	～ 3日間
9	Y.M	女	平塚市民病院	内科	喘息発作	3/30	～ 2日間

[表1-12]趣味・クラブ活動

活動種目	回数	ボラ	1回の参加者
書道教室	週1	1名	6名
パソコン教室	週2	2名	2名
陶芸教室	週1	3名	2名
華道・茶道教室	月1	3名	14名
囲碁・将棋教室	週1	2名	2名
七宝焼きクラブ	月1	1名	6名
コーラスクラブ	月2	1名	8名
絵画クラブ	月2	1名	0名
車いすハッピーダンス	月1	10名	10名
コーロピアチェーレ(コーラス)	週1	1名	4名
ローリングバレーボールクラブ	週1		6名
卓上競技	年2		8名
ポッチャ	月1		7名

[表1-13]外出

外出手段	利用方法	利用者
単独外出	公共交通機関を利用した外出、電動車いすでの外出、近隣への散歩・買い物等	5名
介護タクシーの利用	日帰りでの観光、買い物、美術館、食事等	11名
職員の付き添い	個別支援計画における外出 アクティビティ活動における外出等	48名
その他	職員のボランティアによる外出等	0名

[表1-14] 行事

	地域行事	施設行事
4月	春のてんそく(市役所展示即売会) 日枝神社例大祭 県陸上競技大会	花見
5月	Yes.愛do! 金田小学校運動会 まちぐるみ大清掃	宮蒲湯 日帰り旅行①(富士サファリパーク) サンキッズ保育園交流会①(車椅子乗車体験)
6月	ローリングバレー神奈川交流大会 夏のてんそく(市役所展示即売会) ポッチャ交流大会 防災検討会(寺田縄自治会)	映画鑑賞
7月	湘南平塚七夕まつり	卓上競技交流大会 金田小3年生との交流①
8月	金田地区盆踊り ローリングバレー審判実技講習会 カッパ祭り サンキッズ金田保育園納涼会	納涼祭 プール外出
9月	県ローリングバレー大会 精陽学園秋まつり	金田小3年生との交流② 日帰り旅行②(箱根)
10月	赤い羽根共同募金 秋のてんそく(市役所展示即売会) 金田敬老福祉まつり サンキッズ金田保育園運動会 金田地区市民レクリエーション 社会福祉展	ドッグフィーリングスペース 地域交流会(フルーツ・ピアノ演奏会) サンキッズ保育園交流会②
11月	身障協ステージ発表	インフルエンザ予防接種 卓上競技ソーレ杯 地域交流会(ゴスペル)
12月	すこやか園ふれあい祭 冬のてんそく(市役所展示即売会) 身障協卓上競技大会	茶道クリスマス会 クリスマス会 ゆず湯 サンキッズ保育園交流会③ 第三者委員との相談会 餅つき
1月	日枝神社歳旦祭 どんど焼き 金田公民館新春の集い	お屠蘇アモーレ 初詣外出 家族懇談会・コンサート(大道芸) 日帰り旅行③(ディズニーシー)
2月	平塚ふじみ園作品展示	節分豆まき 映画鑑賞
3月	ローリングバレーぱっする杯 金田公民館まつり 身障協作品展示・販売	第三者委員との相談会 ボランティア懇談会

[表1-15] 防災訓練

実施日	内容
4月7日	消防設備説明および消火訓練(新採用職員等を対象に河本防災、ミツウロコより指導)
4月14日	救命救急講習 ※平塚市消防本部より講師来所
6月23日	防犯訓練(不審者対応) ※平塚警察署より講師2名来所
7月28日	大規模災害想定訓練(地震)
9月13日	消防設備点検(河本防災)
10月18日	防災倉庫の整理、非常食の炊き出しと試食。
11月17日	夜間想定避難訓練(火災) ※宿直者参加
11月30日	連絡訓練(火災) ※緊急連絡網を使用
2月15日	通報訓練(火災) ※消防署への通報

[表1-16] 選択食 & 行事食

	選択食	行事食
4	チキンカツor白身フライ	【旬菜の日】しらす丼 浅利のお吸い物
5	ネギトロ丼orロコモコ	【スペシャルランチデー】ガーリックライス他
6	焼きサバor鶏つくね豆腐ハンバーグ	【旬菜の日】うな丼 お吸い物
7	肩ロースのデミグラスソース煮込み or鰯のホワイトソースグリル	※土用丑の日は、先月旬菜の日で前倒し 【スペシャルランチデー】海老とベーコンのピザ他
8	海鮮ミックスフライ or若どりの梅肉包揚げ	納涼祭 焼き鳥、焼きそば、フランクフルト、ホットケーキ
9	秋刀魚塩焼きorフライドチキン	【旬菜の日】戻り鰹のタタキ他
10	豚の角煮or秋刀魚梅煮	ハロウィン パンプキンシチュー 【スペシャルランチデー】生メンチカツサンド他
11	鰯大根or豆腐ハンバーグ	【旬菜の日】うな玉丼 お吸い物
12		クリスマス会 ピザトースト ローストチキン ずわい蟹 飲茶2種 鰯とサーモンのマリネ コーンポタージュスープ クリスマスケーキ 12/19~25 クリスマスお楽しみ週間
1	鶏つくね大根or鰯フライ	1/1~3 正月料理 おせち料理、赤飯、刺身の盛り合わせ
2	親子丼or天津飯	節分 そば、豆製品(揚げ出し豆腐) 【旬菜の日】鰯漬け丼(茶漬け)
3	海老チリor麻婆豆腐	ひなまつり ちらし寿司 菜の花 桃ゼリー

[表1-17] 食事形態

形態		摂取量		男	女	合計
常食	そのまま	ご飯	通常 1600kcal	4	3	7
			油脂制限食 1600kcal	1		1
	一口大	ご飯	通常 1600kcal	1	2	3
			制限 1400kcal	3	2	5
小計			8	7	16	
軟菜食	一口大	ご飯	通常 1600kcal	1	3	3
			油脂制限食 1600kcal	1		1
			付加 1800kcal	1		1
	お粥	通常 1600kcal	1		1	
		通常 1400kcal	2	2	4	
		油脂制限食 1400kcal	1		1	
		塩分制限 1400kcal		1	1	
小計			7	6	13	
ミキサー	中間食	ご飯	通常 1600kcal	1		1
			付加 1800kcal	1		1
	お粥	通常 1600kcal	4	4	8	
		制限 1400kcal		3	3	
		制限 1200kcal		1	1	
	小計			6	8	14
	ソフト	お粥	通常 1600kcal	1		1
通常 1600kcal				3	3	
お粥ペースト		付加 1800kcal	1		1	
		通常 1600kcal	1		1	
ペースト	お粥ペースト	通常 1600kcal	1		1	
		通常 1600kcal	1		1	
小計			4	3	7	
経管栄養	胃ろうのみ			2		2
	ソフト		嚥下訓練食	※1		3
	小計			3		5
合計				28	24	52

※普段は経管栄養(胃ろう)を使用し、昼食のみ訓練食を提供しています。

2. 施設運営の状況

[表2-1]職員採用、退職職員(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	法人内異動		採用				退職				平成30年4月1日現在				合計
	転入	転出	常勤	準職員	パート	バイト	常勤	準職員	パート	バイト	常勤	準職員	パート	バイト	
施設長											1				1
事務員											1				1
管理栄養士											1				1
サービス管理責任者	1	1									1				1
生活支援員/介助員	1	1	3			3	4			1	28	1	6	12	47
生活支援員(派遣)			1								1				
看護師			1			1				1	3		1	4	8
看護師(派遣)					1				1				1		1
相談員															0
医師(委託)														4	4
産業医(委託)									1					1	1
理学療法士(委託)														6	6
作業療法士(委託)														2	2
臨床心理士(委託)															0
言語聴覚士(委託)														1	1
鍼灸マッサージ師(委託)														2	2
宿直、日直														8	8
運転														1	1
合計	2	2	5	0	1	4	4	0	1	3	36	1	8	41	85

[表2-2]施設内部研修会等

実施日	内容	講師	対象
4月3日	新採用職員オリエンテーション	施設長、本部課長	新採用職員
4月24日	全体職員会議(他、26日、28日)	施設長、センター長 各部署担当者	全職員
5月10日	トランスファー研修(他、3月7日)	池谷PT	新採用職員
5月10日	医療マニュアル研修(他、3月7日)	加藤(智)	新採用職員
5月15日	新採用職員マニュアル説明 (他、3月21日)	小原	新採用職員
5月15日	新採用職員就業規則等説明	施設長、センター長 各部署担当者	新採用職員
6月21日	6～9年目研修	施設長、小原、佐藤	6～9年目職員
6月23日	防犯研修	平塚警察署員	生活支援員、看護師、管理栄養士等
7月19日	10～16年目研修	副センター長、星野(敬) 加藤(尚)	10～16年目職員
7月26日	個人情報保護法研修(他、31日)	小原	生活支援員、看護師
10月30日	摂食研修	歯科医師	生活支援員、看護師、管理栄養士等
11月10日	2～5年目研修	副センター長 佐藤(智)、古山	2～5年目研修
11月29日	リーダー研修	副センター長、勝山 佐藤(智)、宮	グループリーダー
1月13日	フォローアップ研修(他、5日間)	加藤(智)	第三号研修有資格者
2月2日	1年目研修	勝山、宮、中川	1年目職員
2月9日	リハビリ研修	中村PT	生活支援員、看護師
2月26日	摂食研修	歯科医師	生活支援員、看護師、管理栄養士等
3月21日	個別支援計画実践報告会	施設長、勝山	生活支援員、看護師
3月22日	個別支援計画マニュアル説明	勝山	新採用職員

[表2-3]外部研修

実施日	内容	場所	出席者
6月10日	介護福祉士実習指導者講習(他、7月8日、22日、8月5日)	神奈川社会福祉専門学校	星野
6月11日	喀痰吸引三号研修(他、18日)	昭和大学保健医療学部	安藤
6月16日	サービス管理責任者研修	県社会福祉会館	勝山
6月21日	食品衛生責任者講習会	中央公民館	小山内
6月23日	ストレスマネジメント研修	県社会福祉会館	堀
7月1日	高次脳機能障害・小児編	おださがプラザ	榎本
7月6日	第41回全国身体障害者施設協議会研究大会(他、7日)	高知県立県民文化ホール	笹川、松本
7月11日	アサーション研修	県社会福祉会館	尾羽
7月13日	障害者の個人情報とプライバシー	県社会福祉会館	小原
7月14日	苦情解決研修会(基礎編)	県社会福祉会館	勝山
7月27日	相談支援従事者初任者研修(全7日間)	戸塚公会堂他	宮、古山
8月2日	高齢者施設見学	特別養護老人ホーム	小原、松本、清田
8月9日	障害福祉施設等危機管理講習会	平塚市青少年会館	勝山
8月26日	高次脳機能障害セミナー(理解編)	県総合医療会館	高尾
8月27日	身障協ロースリングバレー審判講習会	藤沢市太陽の家	施設長
8月29日	危険物取扱者保安講習会	中央公民館	小原
9月6日	中堅職員キャリアパス生涯研修過程(他、13日)	県社会福祉会館	卯月、大平
9月12日	感染症予防研修会(他、21日)	平塚保健福祉事務所	宮
9月21日	第38回関東・甲信越地区身体障害者施設職員研修大会	東京ベイ幕張ホール	榎本、大平
9月24日	指導看護師フォローアップ研修	神奈川工科大学	加藤
9月28日	障害者事業所基本研修会	県総合医療会館	勝山
10月18日	認定調査員研修	県総合医療会館	小原
11月9日	防火・防災講演会、災害防止研修会	横浜ゴム	勝山
11月12日	摂食研修	ウイング上大岡	青木、加藤
11月15日	スーパービジョン実践事例報告会	県社会福祉会館	星野
11月28日	“非正規”職員向け研修	県社会福祉会館	二宮
12月8日	サービス管理責任者研修	県社会福祉会館	勝山
1月11日	苦情解決研修会	県社会福祉会館	板橋
1月19日	かながわ災害福祉広域支援ネットワーク研修演習	小田原合同庁舎	堀
1月23日	プリセプター研修	県社会福祉会館	大平
1月24日	介護技術研修(応用編)(他、2月8日)	ウイリング横浜	南里
1月25日	支援者研修会	県立かながわ労働プラザ	勝山
2月3日	これからの医療と介護を考える	平塚プレジール	小原
2月5日	かながわ災害福祉広域支援ネットワーク研修演習Ⅱ	県社会福祉会館	星野
2月14日	市社協福祉部会研修会	ホテルサンライフガーデン	施設長、勝山
2月17日	アンガーマネジメント研修	県社会福祉会館	須藤
3月1日	神療協看護職研修会	足柄療護園	加藤

[表2-4] 外部会議、ケア会議など

実施日	内容	場所	出席者
4月7日	平塚市社会福祉協議会施設部会総会	平塚市福祉会館	施設長
4月21日	身体障害施設協会総会	県社会福祉会館	施設長
4月26日	障害福祉施設・事業所団体説明会	県民ホール	施設長
4月28日	平塚市認定調査	ソーレ平塚	勝山
6月13日	身障協関東・甲信越地区ブロック施設長会(他、14日)	オークラフロンテホテルつくば	施設長
6月15日	秦野市認定調査	ソーレ平塚	勝山
6月18日	防災検討会(寺田縄自治会)	ソーレ平塚	施設長、勝山
6月22日	身障協体育委員会①	県社会福祉会館	施設長、青木、大平
6月29日	秦野市認定調査②	ソーレ平塚	勝山
7月5日	身障協文化委員会	県社会福祉会館	福井
7月12日	三浦市認定調査	ソーレ平塚	勝山
7月21日	平塚市障害施設連絡協議会施設長会	ソーレ平塚	施設長
7月26日	ネットワーク強化事業(あんしんネット)県域会議	県子ども自立生活支援センター	施設長、勝山、小原
7月31日	藤沢市認定調査	ソーレ平塚	勝山
8月4日	身障協体育委員会②	県社会福祉会館	施設長、青木、大平
8月30日	喀痰吸引等制度説明会	県総合医療会館	勝山、加藤
9月5日	大磯町認定調査	ソーレ平塚	勝山
9月6日	藤沢市認定調査②	ソーレ平塚	勝山
9月8日	身障協文化委員会②	太陽の家	福井
9月14日	湘南西部圏域重心・医療的ケアネットワーク会議	平塚養護学校	小原
10月4日	不在者投票説明会	教育会館	勝山
10月5日	身障協施設長会	県社会福祉会館	施設長
10月13日	伊勢原市認定調査	ソーレ平塚	勝山
10月27日	身障協文化委員会③	太陽の家	福井
10月21日	身障協体育委員会③	県社会福祉会館	施設長、青木、大平
11月8日	神奈川県社会福祉大会授賞式	県立音楽堂	勝山
11月17日	身障協文化委員会④	太陽の家	福井
11月27日	平塚市認定調査②	ソーレ平塚	勝山
11月28日	身障協関東・甲信越地区ブロック施設長会	全国社会福祉協議会	施設長
12月1日	平塚市認定調査③	ソーレ平塚	勝山
12月6日	平塚市認定調査④	ソーレ平塚	勝山
12月7日	重心及び医療的ケアを必要とする方を支援する懇談会	神奈川病院	小原
12月7日	平塚市社協役員会	平塚市福祉会館	施設長
12月7日	金田小学校創立140周年を祝う会	金田小学校	施設長
12月11日	平塚市認定調査⑤	ソーレ平塚	勝山
1月12日	平塚市認定調査⑥	ソーレ平塚	勝山
1月12日	重心・医療的ケアネットワーク事業所連絡会	ソーレ平塚	勝山・小原・加藤・星野・松田
1月22日	平塚市認定調査⑦	ソーレ平塚	勝山
1月26日	平塚市認定調査⑧	ソーレ平塚	勝山
1月31日	平塚市認定調査⑨	ソーレ平塚	勝山
2月6日	身障協文化委員会⑤	太陽の家	福井
2月8日	あんしんネット協議会	平塚市役所	施設長、勝山、小原
2月9日	平塚市認定調査⑩	ソーレ平塚	勝山
2月21日	真鶴町認定調査	ソーレ平塚	勝山
2月22日	身障協関東・甲信越地区ブロック施設長会	ホテル国際21	施設長
3月7日	茅ヶ崎市認定調査	ソーレ平塚	勝山
3月8日	障害福祉サービス地域ネットワーク強化事業に係る県域会議	県庁	小原
3月8日	身障協文化委員会⑥	太陽の家	福井

[表2-5]見学、交流、一般開放など

実施日	見学、交流、一般開放	人数
6月9日	伊勢原市相談支援部会見学	22 名
6月13日	金旭中PTA厚生委員会見学	4 名
6月18日	ホール開放 (寺田縄地区防災検討会)	30 名
6月19日	神奈川社会福祉専門学校1年生見学	24 名
8月4日	小田原養護学校教員見学	4 名
8月18日	平塚市障がい福祉課見学	2 名
8月29日	ホール開放 (JSYネット職員研修会)	40 名
9月8日	金田小3年生との交流会①	名
9月15日	金田小3年生との交流会②	名
9月22日	金田小3年生との交流会③	名
10月19日	ホール・会議室開放 (県肢体不自由養護学校PTA連合会)	40 名
3月18日	ホール・会議室開放 (寺田縄の歴史に関する講演会)	40 名

[表2-7]実習生の受け入れ

学校名等	期間	日数	人数	受け入れ先
神奈川社会福祉専門学校2年生	5月8日 ~ 6月9日	23 日	2 人	1F 2F
神奈川社会福祉専門学校2年生	8月28日 ~ 9月29日	23 月	2 人	1F 2F
東海大学健康科学部3年生	2月5日 ~ 3月5日	23 火	1 人	1F

資料 1-5

平成 29 年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会

ソーレ平塚地域支援センター

I 生活介護事業『ソーレ平塚ケアセンター』

1. 概況

(1) 利用者の動向

平成 29 年 4 月は登録 40 名で始まり、平成 30 年 3 月末日の登録者は 35 名でした。解約者は 6 名で、内訳は 3 名が介護保険サービスへの移行に伴う解約、残り 3 名は体調不良等による長期欠席を経ての解約となっています。新規利用者は 1 名でした。延べ利用者人数は平成 28 年度は 3,752 名でしたが、平成 29 年度は 3,716 名で 36 名減となっています。出席率は 83.7%で、昨年度より低くなっています。

今年度も個々の事情に応じて通常の通所予定日以外の利用や短期入所中の同日利用を可能な限り受け入れました。今後も生活支援センター（相談支援事業）及び入所（ソーレ平塚）と連携を図りながら通所者の受け入れを検討して行きます。【資料 7】

(2) デイサービスの役割

個別支援計画を中心に本人、家族から具体的なニーズを聞き取り、職員全体で統一した関わりを持つようにしました。また、提供したサービスにより生活の満足度が向上・変化するのかを意識し、計画的に支援を実践するようにしました。必要に応じて、生活支援センターと連携をとり、在宅生活を支援しました。

(3) 活動の展開

活動では、達成感や向上心を感じて頂けるよう、職員は利用者一人一人の個性に目を向け、各々のペースに合わせて活動を提供しました。【資料 8】

(4) その他の課題

利用者と家族の高齢化が進む中、介助度が高くなっている事が大きな課題となっています。介助時間の増加、トイレの数や静養スペースの不足、送迎車における車椅子固定の増加、自宅における送り出し、迎え入れに伴うヘルパー利用の必要性等がその例です。そのため、相談支援事業所やヘルパー事業所、訪問看護ステーション等と連携する機会が増えました。今後も、関係機関が一体となったサービス展開が求められます。

2. 運営課題

(1) 活動の更なる充実と地域展開

- ① ローリングバレーボールの活動では神奈川交流大会（6 月）、県ローリングバレーボール大会（9 月）、ぱっする杯（3 月）に参加しました。県ローリングバレーボール大会では A ブロックで 4 位と健闘しました。【表 8 - 1、4】
- ② 書道教室やパソコン教室では、入所と協力して職員を配置し、利用者からの細かな要望に応えることができました。【表 8 - 4】
- ③ 七宝、コーラス、華茶道、陶芸、囲碁のアクティビティでは、ボランティアの先生の指導のもと、利用者はアクティビティを楽しむとともに、発表や展示に向けて、技術向上に励みました。【表 8 - 4】

④ 小グループでの日帰り外出は、幾つかのコースから選択ができるよう、本人とご家族にアンケートを取り実施しました。「アサヒビール足柄工場」、「ズーラシア動物園」、「ららぽーと湘南平塚」、「伊勢原こども科学館」等に行っています。計 33 名の利用者が参加されました。【表 8 - 3】

⑤ 4 月に開催されたフライングディスク競技会、陸上競技会に参加しました。練習の成果を発揮し、メダルを獲得した利用者もあり、好成績を残しました。フライングディスクやピーンバッグなどは、普段の活動にも取り入れ、大会に向けて年間を通して練習をしました。【表 8 - 5】

(2) グループ活動の充実

① 風（知的障がい）グループではカレンダー作りや、季節に合った制作を行い、ご家族にも好評でした。また、地域行事の「かっぱ祭り」や「公民館まつり」などの作品展に向けて、計画的に制作に取り組みました。体を動かす機会も意識して作り、楽しみながら体が動かせる活動を提供しました。【表 8 - 2】

② 空（中途障がい）グループでは、利用者からの要望をもとに身体を動かす活動を多く取り入れ、身体機能の維持を図りました。喫茶店やカラオケも人気のある活動です。午前中はグループでの活動ですが、午後は、ちぎり絵、麻雀、パソコン、運動等、個々のニーズに合わせて活動を行ないました。【表 8 - 3】

(3) 可能な限りのニーズ対応

① 入浴サービスを一日通して提供する事により、ゆっくりと入浴時間を持てるようにしています。さらに入浴を希望されている方を一人でも多く受け入れられるように職員配置の工夫を行いました。入浴時間を臨機応変に設定したことで、活動を充実させることが出来ました。

② 職員配置が可能な範囲で、土曜日、日曜日に各種イベント参加や個別のニーズに合わせた少人数での活動を行いました。地域のお祭りへの参加、陶芸、七宝焼き活動などを実施しました。

(4) 専門職との連携とスーパーバイズの充実

① リハビリについては、本人と家族のニーズを確認し、整形外科の医師による診察のもと、リハビリ実施計画を作成しました。リハビリ実施計画書に基づいて、セラピストと支援員、看護師が連携して個別のプログラムを実施しました。

② 理学療法士や作業療法士と連携し、介助の困難な方への介助方法を検討し、職員間で介助方法の統一を図りました。また、リハビリ委員を通して日頃から各セラピストと情報交換を行いました。

③ リハビリニーズに応えるため、理学療法士や作業療法士による個別のリハビリ時間を設け、1日7名程度の利用者に対し、個別リハビリを提供しました。

④ 食事形態について、言語聴覚士に評価を依頼し、利用者に合わせてものを提供できるように取り組みました。

(5) ソーレ愛の12か条の実践

毎月テーマを変え、朝の打ち合わせ時に全員で復唱しています。意識して利用者に関わることで、より具体的なサービスの提供を行いました。

(6) 個別支援計画

- ① 利用者の希望をもとに個別支援計画を作成し、日々の支援に活かしました。また、各グループに1名の個別支援計画担当者を設け、サービス内容の確認を行いました。グループ会議で検討し、計画と支援方法を職員間で共有することで、適切なサービスの提供に努めました。
- ② 自己選択、自己決定の困難な利用者においては、家族を含めた話し合いの中で、本人が望むもの、好きなことを探し、個別支援に盛り込んで実践しました。

(7) 在宅生活の支援、相談サービスの充実、関係機関との連携

複数のサービスを利用している方に関しては、ソーレ平塚生活支援センター（相談支援事業）と連携して他機関からの情報収集を行い、支援の統一を図り、サービスの向上に努めています。

(8) 事故報告・ヒヤリハット

- ① 事故報告が4件発生しました。内容は、物の破損や送迎時間の間違い等です。また「ヒヤリハット報告」は17件あり、利用者の行動の把握不足や忘れ物等が主な内容となっています。
- ② 転倒報告が5件ありました。内容は、椅子に浅く座っていたこと(1件)やブレーキの掛け忘れによる転倒(1件)、歩行時の転倒(1件)、浴室内の移動時の転倒が(2件)などです。幸いにして怪我等には至りませんでした。介助方法の見直しや環境設定の見直しを行って事故防止に努めています。
- ③ 事故・ヒヤリハットが発生した場合は、当日中に職員間で発生した原因や課題を検討し、同じミスが発生させない様に情報を共有しながら改善策を立てました。

(9) 苦情・その他

- ① 苦情の受付はありませんでした。
- ② 1月に積雪による道路状況の悪化が懸念された為、1時間の早帰りを実施し、翌日は開所時間を1時間遅らせて対応しました。

3. 防災・防犯対策

4月、消防設備説明と消火訓練の実施。平塚市消防署による救命救急講習。6月、平塚警察署の協力を得て、防犯訓練を行いました。7月には地震想定訓練を行い、9月には防災設備点検、10月には防災倉庫の点検を行いました。11月に緊急連絡網を活用した連絡訓練、2月に火災想定をした通報訓練を実施しました。

4. 委員会・会議

(1) 運営会議

毎月 1 回、役職者により、課題の整理・検討、外部研修参加の調整、センター会議に向けた内容の検討等を行いました。

(2) サービス推進会議

毎月 1 回、常勤職員により、利用者調整、課題の具体的な検討、行事の実施計画の打合せ等を行いました。

(3) センター会議

毎月 1 回、職員全体で個別支援計画及びモニタリングの検討、課題の検討、身体拘束・行動制限の検討、研修報告等を行いました。当日は利用者の送り時間を 2 時間早めて実施しました。

(4) グループ会議

センター会議の前半では各グループで、個別支援計画及びモニタリングの検討と共有、当月の活動の反省と翌月の予定の打合せ等を行い、充実した支援を目指しました。

(5) その他

ソーレ平塚と合同で行っている委員会、係等について、定期的に課題検討を行いました。(防火管理委員会、食事委員会、編集図書委員会、ヒヤリはっと委員会、安全衛生委員会、「アモーレを楽しむ会」係、フロアー連携会議。)

(6) 外部会議等

神奈川県身体障害施設協会日中活動支援委員会、平塚市障がい者自立支援協議会(身障分科会、企画運営部会、こども部会)、相談支援ネットワーク会議等の施設外部の会議に委員として参加しました。 【表 5-3】

Ⅱ 児童発達支援事業・生活介護事業 『ソーレ平塚療育園』

1. 概況

(1) 利用者の動向

「児童発達支援事業」は、4月に新規の年少児1名が利用を開始し、登録は2名となりました。継続利用の年中児1名は、前年度12月より長期入院していましたが、7月より通所が再開となりました。退院後身体面では大きな変化があり、胃瘻からの栄養や頻回な吸引など、医療ケアが必要となりましたが、児童発達支援専任の看護師を配置していたことで、スムーズに受け入れることが出来ました。

「生活介護事業」の登録者数は10名です。総延べ利用者数は995名で、出席率は89.6%でした。前年度に比べると、施設入所への移行による解約や、ソーレ平塚ケアセンター（生活介護）への登録変更により、利用者数は減少しましたが、出席率は変わらず高い水準を保っています。 【資料12】

(2) 活動の展開

他グループとの活動やそれに伴う会議を合同で行う機会が増えたことで、さまざまな活動や利用者個人に対して、これまで以上に多くの職員が関わるようになりました。今後も、小さな変化や個々の反応を職員間で共有する機会を持ち、より良い支援につなげていきます。

「個別支援計画」は、本人の楽しみを実現する為に、意欲的に取り組める内容を盛り込むようにしました。家族からの聴き取りでも、より具体的な希望が上がるようになってきました。工夫をしながら個別の支援や外出の機会を作り、継続的な関りの中で様々な反応や可能性を引き出しています。 【資料13, 14, 15】

2. 運営課題

(1) 幼児に対する療育の充実（児童発達支援事業）

- ① 一人ひとりの発達状況や個性に合わせた療育を展開しました。療育日は月曜日と木曜日の週2回で、療育時間は9時20分から13時30分です。個別支援に基づき、日々の療育や関わりに目的と目標を持って取り組みました。
- ② 登録者が2名となりました。子どもの発達状況や反応の違いを受け止めながら、ふれ合いの中で成長を促すことが可能になりました。お互いの存在を意識する中で、自己主張や我慢などの社会経験も出来るようになりました。
- ③ 近隣保育園との交流を1年ぶりに再開しました。保育園への訪問は、回数を重ねる毎に期待が高まり、園児たちとの関わりを嬉しそうな表情で楽しんでいました。保育園での出来事を振り返り、楽しかった出来事を繰り返し話して報告する様子も見られました。
- ④ ハロウィンやクリスマスにちなんだお楽しみ会では、大勢の方々と、楽しくプログラムに参加しました。普段の療育と違う雰囲気の中で、興味の広がりを見ることが出来ました。

- ⑤ リフレッシュデーは 2 月に実施しました。幼稚園就園を視野に入れ、母親を対象とした家族支援を兼ねて、通常より 1 時間延長してのお預かりを実施しました。
- ⑥ 整形外科医の指示を基に、定期的に理学療法士が身体機能の評価や立位、歩行の訓練を実施しました。また、評価内容を他機関にも情報伝達して連携を意識した支援が出来ました。

(2) 成人に対するサービスの充実（生活介護事業）

- ① 一人ひとりの身体状況を確認しながら、環境づくりやプログラムを立案しました。また、健康状態の変化に迅速に対応し、排痰やリラックスを目的とした関わりを行いました。
- ② 個別支援計画は、本人と家族の意向や要望を確認しながら作成し、日々の生活に活かし、それぞれが掲げた目標に沿った取り組みをしています。
- ③ 季節感を大切にしたい取り組みとして、カレンダー制作を行いました。年間を通して取り組みを行い、それぞれの個性豊かな作品が出来上がりました。
- ④ 加齢や身体状況の変化に伴い、食事姿勢や食事形態の見直しが必要なケースに関して、セラピストや栄養士との連携のもと、検討を実施しました。今後も慎重かつ迅速に、検討を重ねていきます。

Ⅲ 平塚市地域活動支援センター事業『ソーレ平塚地域活動支援センター』

1. 概況

(1) 利用者の動向

重度重複障がい児の放課後支援であるタイムケア事業は、4月当初5名であった登録者数は小学部卒業に伴い2名が解約となり、3月末日で3名となりました。地域に放課後等デイサービスの事業所が増えたことにより、タイムケア事業に対する新たに利用希望もなく、登録者数は減少傾向にあります。平成28年度の総利用者数104名に比べ、平成29年度は欠席者が少なく、155名の利用と51名の増加となりました。

一方、地域活動支援センター利用者延べ人数は、6名でした。今後も生活支援センター（相談支援事業所）と連携し、受け入れ先の無い方々に対応していきます。また、受け入れは年間を通して、入所部門と通所部門が協力して行い、細かな要望に応じて行きます。 【資料16】

(2) 事業の展開

学齢児の放課後支援（タイムケア事業）については、専属の看護師と支援職員を配置して対応しています。タイムケア登録者は全員が重症児であり、今年度の登録者5名のうち4名は医療的ケアが必要な児童でした。今後も本人と家族のニーズに応え、利用児が地域で安心した生活が送れるようサポートします。

当施設の地域活動支援センターは、活動を目的とした定期利用と、土日の家族の外出による一時預かり、家族の就労支援、また、家族の通院、手術、慶弔行事、外出等によるデイサービス終了後の平日の受け入れが主な理由となっています。

2. 運営課題

(1) 新しい福祉サービスのニーズ

平塚養護学校卒業生の受け入れ先として生活介護事業が該当しますが、現在、生活介護事業の終了時間は午後4時で、午後5時までには利用者を自宅に送迎しています。しかし、平塚養護学校の殆どの生徒が「家族の就労支援」、「レスパイト」、「サービスに慣れる」等の目的で、学校終了後に午後6時までの放課後支援サービスを利用しています。一方、特別支援学校を卒業し、生活介護事業所に通所し始めると、帰宅時間が早まることに関して話題になることがあり、卒業後すぐに通所利用を開始する際には、学校、相談支援事業所等を含めて本人、ご家族とよく相談をすることが重要です。

(2) 関係機関との連携

タイムケア事業では、担当者が「放課後等支援事業所連絡会」、「学齢児サービス提供事業所情報交換会」に参加し、各施設の情報共有と今後の課題について検討しました。

Ⅳ 平塚市障がい児者相談支援事業『ソーレ平塚生活支援センター』

1. 概況

平塚市から事業を委託された平成 19 年度の相談件数は年間で 1,201 件でしたが、平成 29 年度の相談件数は 5,800 件と、年々増加しています。平成 29 年度はモニタリングも含むサービス等利用計画作成の延べ件数は 612 件でした。新規での利用計画作成者が 17 名増えた一方で、生活状況の安定化によるモニタリングの期間延長、介護保険サービスへの移行、死去によるサービス終了等で件数が減り、平成 28 年度と同じ件数となりました。

平成 29 年度より相談支援課長（副センター長兼務）が配置され、常勤職員 2 名、パート職員 1 名、兼務職員 1 名と組織体制を強化し、新規相談ケースへの対応や事務処理が迅速に行われるようになりました。

サービスの調整依頼が主たる相談内容ですが、サービスを利用することで、本人の自立を損ねることのないよう、意向と生活の実態を見極め、適切な支援体系と環境作りを心がけました。

2. 支援の状況

(1) 相談支援事業実績

平成 29 年度の相談の利用状況は、実人員 237 名、延べ件数 5,800 件でした。電話相談が最も多く、全体の 78% を占めています。相談者は、医療・福祉関係者が 45%、本人が 24%、家族が 18% となり、行政からの相談が 12% です。平成 25 年度は本人からの相談が多く割合を占めていましたが、平成 26 年度以降は医療・福祉関係者からの相談が多く、関係機関との連携や相談が増えています。内容は、利用調整が 50%、次いで保険・医療・健康管理関係が 13%、施設関係が 6.6% となっています。

一方、新規相談者は 83 名で、平成 29 年度から新たにサービス等利用計画を作成し、関わりを持ちだした方と作成予定の方は合計 21 名でした。他 62 名の方は、電話や来所での相談で、(就労先・利用出来るサービス内容・入所先・集いの場探し等)、相談を受け、制度の案内や紹介、情報収集と情報提供、他機関への紹介で終了となっています。その他には、他相談事業所とのカンファレンス、平塚市障がい福祉課からの重度障がい者宅への同行訪問依頼で、支給量の調整確認、他市からの転居後の利用計画作成の相談依頼などもありました。

3. 運営課題

(1) 相談員の質の確保と向上

平成 28 年度は常勤 2 名、パート 1 名、ケアセンターとの兼任（常勤）1 名の 4 名体制でしたが、今年度からは、相談支援課長（副センター長兼務）が配置され、相談員は 5 名体制となりました。新規の相談における初回の家庭訪問や困難ケースへの関わりには、複数の相談員で対応することを心掛けました。また、すこやか園生活支援セ

ンターと毎月 1 回、相談員全員が集まり『相談員の集い』を開きました。情報交換と事例共有を行うことで、至泉会における相談支援体制の確立と相談支援事業を展開するうえでの人材育成を目指しています。併せて、毎月 1 回の入所施設（ソーレ平塚）と通所施設（ソーレ平塚ケアセンター・療育園）の『相談連絡会』は継続しています。

(2) 一般的な相談と利用計画のバランスに配慮した業務の推進

計画相談による継続的な支援に加えて、新規の相談にも毎月対応しました。初回面接時には複数の職員で関わり、広い視野と状況に応じた相談を心掛けて役割分担をして、相談員の業務量に偏りが出ないように配慮しました。

(3) 地域ネットワーク化の推進

「ネットワーク会議」、「特別支援学校との業務連絡会」、「虐待防止ネットワーク」等に参加しました。また、訪問看護事業所から研修の依頼を受け、制度の概要説明と情報提供の場を持つことが出来ました。

学齢児から高齢者まで幅広く関係者・当事者と意見を交換し、ネットワーク化の推進に結び付けました。地域包括支援センター、特別支援学校や民生委員、地域の自治会等との連携はこれからの地域福祉を作っていく上で欠かすことのできない要素です。会議等に複数の職員で参加することにより、組織内に置いて会議の意味や役割を職員間で共通認識できるように取り組みました。その結果として、職員一人一人が地域におけるソーレ平塚生活支援センターの位置づけを理解し、役割と業務内容の明確化を課題としてとらえています。

(4) 平塚市障がい者自立支援協議会の運営

自立支援協議会が 2 回、企画運営部会が 3 回、身障分科会が 2 回、こども部会に 1 回、計画相談支援分科会に 6 回、当事者参加検討会に 10 回出席しました。

(5) 当事者の声を反映させる支援の模索

福祉制度やサービスの展開だけで、障がい者やその家族の生活を支えるのは不十分です。少しでも障がい者が生きやすい社会に近づけるには、まずは、障がい者のことを地域の人たちに知ってもらう必要があります。平塚市自立支援協議会の中の身障分科会では当事者が中心になり学校、企業、福祉村等に向けて啓発活動を継続的に実施していくことを検討しました。普及啓発の方法や対象者、手段について課題はありますが、まずはできることから企画し、実施していくことを考えています。

(6) 認定調査の実施

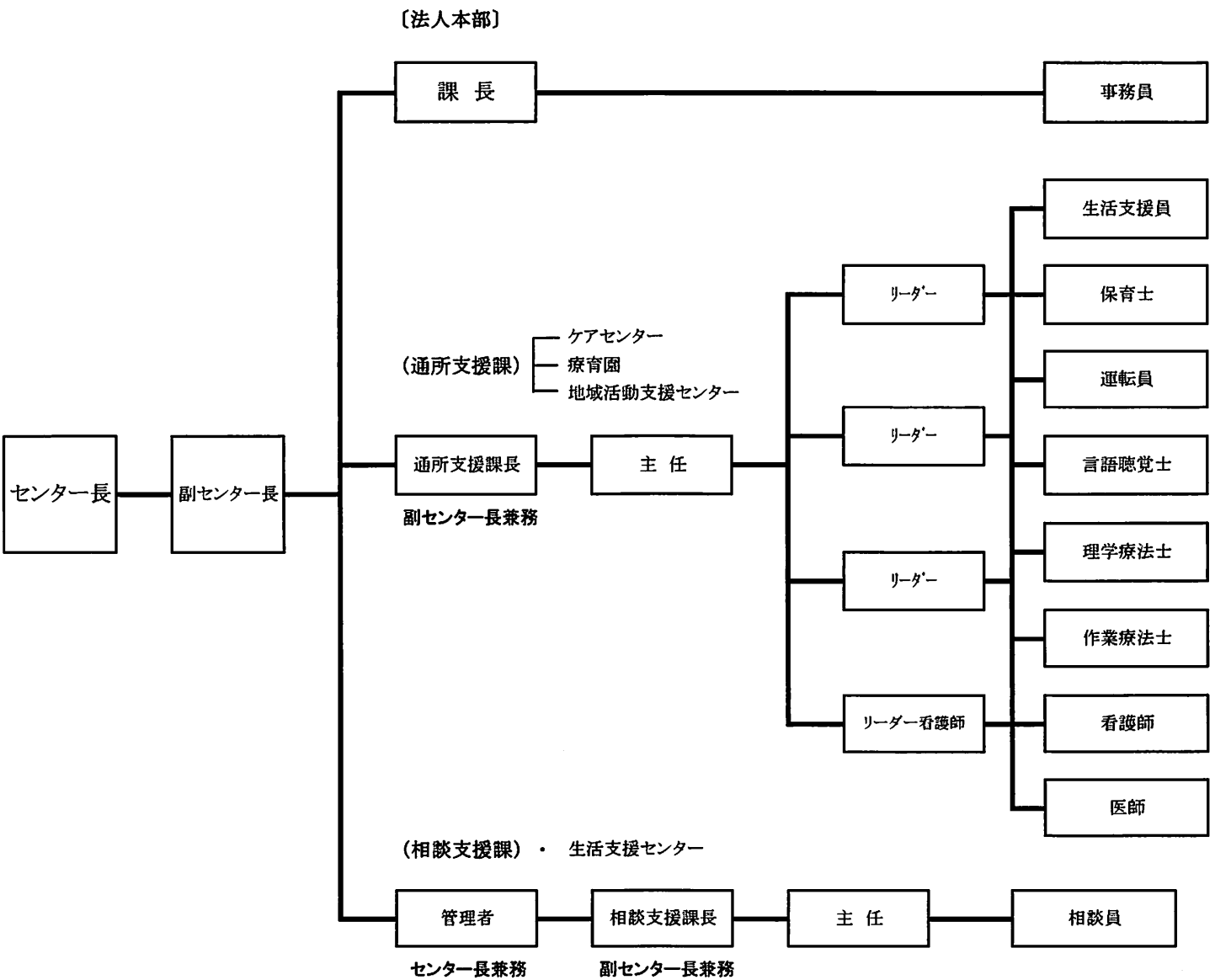
知的・精神・身体障がいと多様な障がい者の方の障害支援区分の認定調査を合計 31 件行いました。

【資料 17】

(資料1) 平成29年度 ソーレ平塚地域支援センター 職員構成図

	常勤	準職員	パート	アルバイト	業務委託	合計
ソーレ平塚ケアセンター	8(兼務3)	0	6(兼務1)	1	5(兼務1)	20
ソーレ平塚療育園	2	0	0	2	3(兼務1)	7
ソーレ平塚地域活動支援センター	1(兼務)	0	1(兼務)	0	0	2
ソーレ平塚生活支援センター	4(兼務2)	0	1	0	0	5
法人事務局	1	0	0	0	0	1
合計	16	0	8	3	8	35

(資料2) 平成29年度 ソーレ平塚地域支援センター 組織図



(資料3)

ソーレ平塚ケアセンター・療育園・地域活動支援センター

平成29年度 通所カレンダー (実績)

【2017~2018年】

4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

23

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

24

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

24

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

22

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

19

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

23

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

22

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

23

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

21

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

19

2月


日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			



21

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

24

 → 会議・大掃除(12月)の為14:00早送りです。

 → お盆・お正月休みです。  → 休業日です。

*月～金曜日の祝日は営業いたします。

(資料4) 組織、施設の運営状況

職員採用、退職職員(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	法人内異動	採用						退職					
		転入	転出	常勤	準職員	パート	アルバイト	委託	常勤	準職員	パート	アルバイト	委託
ケア	センター長												
	サービス管理												
	生活支援員	1	1			3							
	看護師	2	1										
	理学療法士												
	作業療法士												
	言語聴覚士												
	運転手												
療育	嘱託医												
	児童発達支援管理												
	保育士												
	看護師		3										
	理学療法士							1					
	作業療法士												
	言語聴覚士												
地活 支援	生活支援員												
	相談員												
兼務	管理栄養士												
兼務	事務員												
合計		3	5	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0

(資料5) 施設内・外部研修及び外部会議・業務連絡会

表5-1 施設内部研修

実施日	内容	講師	対象者
4月24日	全体職員会議(他26、28)	施設長、センター長等	全職員(運転手を除く)
6月21日	6～9年目研修	辻センター長	奥田
7月19日	10～16年目研修	清水施設長・佐藤主任	向井、寺澤
10月30日	摂食研修	大塚Dr	向井・奥田・庄司・星野・小池
11月10日	2～5年目研修	清水施設長・島田副センター長・佐藤主任	庄司・星野
11月29日	リーダー研修	島田副センター長・佐藤主任	中島・小池・荻野・田島

表5-2 外部研修

実施日	研修内容	場所	出席者
7月6日, 7日	全国身体障害者施設協議会 研究大会	高知県立県民文化センター	佐藤、奥田
7月8日	全国重症心身障害日中活動支援協議会	東京八重洲ホール	星野
7月10日	第15回世界音楽療法大会（日本音楽療法学会）	つくば国際会議場	中島
7月13日	障害者の個人情報とプライバシー	神奈川県社会福祉会館	佐藤（智）
8月26日	高次機能障害セミナー理解編 高次機能障害とともに暮らす	神奈川総合医療会館	庄司
10月5日	からだにやさしいポジショニング入門	神奈川リハビリテーション病院	向井
9月14日	介護事業・新規事業労務管理者セミナー	神奈川労務安全衛生協会	佐藤（智）
10月12日	第21回全国重症心身障害日中活動支援協議会	ホテルグランヴィア広島	副センター長
10月30日, 31日 11月21日	神奈川県相談支援従事者現任研修	県立保健福祉大学実践教育センター	中島
10月18日, 19日	児童発達支援管理責任研修	平塚商工会議所	佐藤智
10月30日, 31日	相談支援従事者現任研修	県立保健福祉大学実践教育センター	中島
11月1日	安全運転管理者講習会	平塚中央公民館	佐藤智
11月14日	平塚市災害リスクを学ぶ	平塚市勤労会館	副センター長
11月20日	日本音楽療法学会 講習・研修会	東邦音楽大学川越キャンパス	中島
11月21日	相談支援従事者現任研修	神奈川県立保健福祉大学	中島
12月8日	かながわ共同会体験交流セミナー	厚木精華園	佐藤（智）
2月12日	福祉事業所合同説明会・見学会に関する説明会	湘南養護学校	佐藤（智）
3月6日, 7日	サービス管理責任者初任者研修	神奈川県社会福祉会館	田島

表5-3-1 外部会議及び業務連絡会

実施日	内容	場所	出席者
4月4日	法人永年勤続表彰	ソーレ平塚	田島・奥田
4月11日	法人経営会議	あけぼの園	センター長
4月11日	平塚養護学校進路打ち合わせ	ソーレ平塚	佐藤智
4月19日	相談連絡会	ソーレ平塚	副センター長・佐藤智・田島
4月20日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
4月21日	YES, 愛, DO! 音楽祭 実行委員会	平塚なでしこライオンズクラブ	中島
4月24日 26日, 28日	全体職員会議	ソーレ平塚	全職員
4月27日	障害福祉施設・事業所団体説明会	神奈川県民ホール	副センター長
5月2日	法人施設運営会議	精陽学園	センター長
5月8日	YES, 愛, DO! 音楽祭 実行委員会	平塚なでしこライオンズクラブ	荻野
5月17日	平塚市福祉事業所合同説明会	平塚市総合体育館	副センター長・佐藤智・寺澤
5月19日	YES, 愛, DO! 音楽祭 実行委員会	平塚なでしこライオンズクラブ	中島
5月22日	相談連絡会	ソーレ平塚	副センター長・佐藤智・田島
5月26日	児童発達支援事業所情報交換会	こども通園センター	副センター長
5月29日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
6月2日	法人理事会	ソーレ平塚	センター長・副センター長・佐藤智
6月5日	YES, 愛, DO! 音楽祭 実行委員会	平塚なでしこライオンズクラブ	中島
6月6日	法人施設運営会議	ソーレ平塚	センター長・副センター長
6月8日	卓上競技委員会	翔の会研修センター	中島
6月15日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
6月23日	身障協体育委員会	神奈川県社会福祉会館	星野
6月26日	相談連絡会	ソーレ平塚	副センター長・佐藤智・田島
6月29日	湘南西部重心・医療的ケアネットワーク会議	平塚市役所	副センター長
7月4日	法人施設運営会議	すこやか園	センター長
7月5日	法人機関紙委員会	ソーレ平塚	中島
7月13日	平塚市自立支援協議会こども部会	平塚市勤労会館	中島
7月17日	相談連絡会	ソーレ平塚	副センター長・佐藤智・田島
7月20日	経営会議	ソーレ平塚	センター長
8月1日	法人施設運営会議	あけぼの園	センター長
8月4日	身障協体育委員会	神奈川県社会福祉会館	星野
8月24日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
8月24日	平塚市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク協議会	平塚市勤労会館	副センター長
8月29日	J S Y ネット定例会	ソーレ平塚	センター長・副センター長・佐藤智
9月4日	法人総括安全衛生委員会	ソーレ平塚	センター長・副センター長
9月5日	法人施設運営会議	精陽学園	センター長
9月14日	身障協卓上競技委員会	太陽の家	中島
9月21日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
9月22日	身障協体育委員会	神奈川県社会福祉会館	星野
9月28日	障害者事業所基本研修会	県社会福祉館	副センター長
10月3日	法人施設運営会議	ソーレ平塚	センター長
10月11日	法人「職員採用・人材育成についての意見を聴く会」	ソーレ平塚	副センター長
10月16日	相談連絡会	ソーレ平塚	副センター長・佐藤智・田島
10月27日	身障協体育委員会	神奈川県社会福祉会館	星野
10月30日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
11月2日	相談連絡会	ソーレ平塚	副センター長・佐藤智・田島

表5-3-2 外部会議及び業務連絡会

実施日	内容	場所	出席者
11月7日	法人施設運営会議	すこやか園	センター長
11月16日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
11月29日	肢体不自由教育部門生徒の進路に関わる連絡会	平塚養護学校	副センター長
12月1日	身障協 卓上競技実行委員会	太陽の家	中島
12月5日	法人施設運営会議	あけぼの園	センター長
12月21日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
1月9日	法人施設運営会議	精陽学園	センター長
1月9日	公民館祭り実行委員会	金田公民館	荻野
1月18日	法人表彰・懲戒委員会	ソーレ平塚	センター長、副センター長
1月18日	虐待防止ネットワーク会議	平塚市勤労会館	副センター長
1月19日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
2月2日	湘南西部重心・医療的ケアネットワーク会議	平塚養護学校	副センター長
2月6日	法人施設運営会議	ソーレ平塚	センター長・副センター長
2月16日	YES.愛.D.O実行委員会	ライオンズクラブ	中島
2月21日	児童発達支援事業所情報交換会	ソーレ平塚	副センター長・中島
2月26日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
3月7日	J S Y ネット定例会	ソーレ平塚	センター長・佐藤智
3月6日	法人施設運営会議	すこやか園	センター長
3月9日	横浜保護観察打合せ	ソーレ平塚	副センター長
3月16日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
3月22日	法人総括安全衛生委員会	精陽学園	センター長・副センター長

(資料6) 見学・実習生の受け入れ

表6-1 見学等

実施日	見学、交流	人数
6月18日	神奈川社会福祉専門学校1年生施設見学	26名
8月4日	小田原養護学校教員見学	3名
8月21日	カメラ桜ヶ丘職員見学	3名

表6-2 実習生の受け入れ

学校名等	期間	日数	人数	受け入れ先
聖ヶ丘教育福祉専門学校	6月5日～6月19日	11日	1人	ケアセンター
鶴見女子短期大学	7月31日～8月21日	11日	1人	ケアセンター
鎌倉女子短期大学	8月29日～9月12日	11日	2人	ケアセンター
YMCA健康福祉専門学校	8月28日～9月1日	5日	2人	ケアセンター
YMCA健康福祉専門学校	9月4日～9月8日	5日	2人	ケアセンター
神奈川福祉専門学校	11月28日～12月5日	5日	2人	ケアセンター
関東学院大学	3月1日～3月16日	12日	1人	ケアセンター

(資料7) ソーレ平塚ケアセンター
支援の状況

表7-1 利用者の状況

	登録者	新規	終了	予定数	延べ人員	一般浴	特殊浴	給食	実習生	延べ人数
4月	40	0	0	381	308	21	104	272	0	0
5月	40	0	0	440	373	26	125	315	0	0
6月	40	0	0	410	353	27	131	308	4	4
7月	40	0	0	392	330	23	122	296	0	0
8月	40	0	0	331	277	17	100	248	0	0
9月	40	0	1	395	328	24	126	298	0	0
10月	39	0	1	379	310	17	123	280	1	1
11月	38	0	0	373	313	16	121	283	0	0
12月	38	0	1	335	281	15	107	253	0	0
1月	37	0	2	310	260	7	102	238	0	0
2月	35	0	1	325	273	8	107	246	1	1
3月	35	1	0	367	310	9	122	281	0	0
合計		1	6	4438	3716	210	1390	3318	6	6
平成28年度実績				4341	3752	282	1377			
平成27年度実績				4480	3806	317	1337			
平成26年度実績				5029	4479	344	1718			
平成25年度実績				5294	4285	304	1791			

表7-2 市町村別人数

	平塚市	藤沢市	伊勢原市	二宮町	大磯町	合計
男	21	0	0	1	0	22
女	11	0	1	1	0	13
合計	32	0	1	2	0	35

表7-3 障害種別人数

性別／障害	脳性麻痺	脳血管障害	頸椎損傷	頭部外傷	筋ジス	その他	合計
男	8	2	3	4	2	3	22
女	4	2	0	2	0	5	13
合計	12	4	3	6	2	8	35

表7-4 身体障害者手帳等級別人数

性別／等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
男	14	7	0	0	0	0	21
女	7	2	1	1	0	1	12
合計	21	9	1	1	0	1	33

表7-5 療育手帳障害程度別人数

性別／療育手帳	A1	A2	B1	B2	合計
男	6	1	0	0	7
女	3	2	0	0	5
合計	9	3	0	0	12

表7-6 精神障害者保健福祉手帳障害等級別人数

性別／等級	1級	2級	3級	合計
男	1	1	0	2
女	1	1	0	2
合計	2	2	0	4

表7-7 障害支援区分別人数

性別／障害支援区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0	0	3	3	4	12	22
女	0	1	2	2	3	5	13
合計	0	1	5	5	7	17	35

表7-8 年齢別人数

性別／年齢	18～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65～	合計
男	1	2	5	6	7	1	0	22
女	0	0	0	8	4	1	0	13
合計	1	2	5	14	11	2	0	35

(資料8) 日中活動

表8-1 行事

	内 容
4月	花見外出、ソーレ周辺散歩、春の展示即売会 フライングディスク大会、日帰り外出①
5月	菖蒲湯入浴、YES, 愛DO!、ドッグヒーリング 陸上競技大会、日帰り外出②③④ 喫茶ア・モーレイイベント①
6月	防災訓練、ローリングバレー神奈川交流大会、七夕飾りつけ 日帰り外出⑤⑥⑦ 喫茶ア・モーレイイベント②
7月	防災訓練、施設内卓上交流会、夏の展示即売会 喫茶ア・モーレイイベント③
8月	日帰り外出⑧⑨⑩ かつぱ祭り展示会、 ローリングバレー審判講習会
9月	日帰り外出⑪⑫、神奈川県ローリングバレーボール大会 喫茶ア・モーレイイベント③
10月	日帰り外出⑬、秋の展示即売会 ドッグヒーリング ふじみ園展示会、喫茶ア・モーレイイベント⑤
11月	日帰り外出⑭⑮、喫茶ア・モーレイイベント⑥ 身障協ステージ発表、施設内卓上競技大会、防災訓練
12月	地域支援センターお楽しみ会、茶道クリスマス会 日帰り外出⑯、ゆず湯、社会福祉展、冬の展示即売会 卓上競技大会、喫茶ア・モーレイイベント⑦
1月	日帰り外出⑰⑱、餅つき
2月	節分豆まき、喫茶アモーレイイベント⑧ 通報訓練、市民プラザ障がい者作品展示即売会 喫茶ア・モーレイイベント⑧
3月	ローリングバレーボールぱっする杯、コーラス公民館祭り発表会 地域支援センター懇談会①②、身障協作品展示、喫茶ア・モーレイイベント⑨

表8-2 創作的活動

	グループ活動	自主活動
知的障がいグループ	ショットdeビンゴ、玉入れ、ポッチャ ボール運動、紙すき、風船バレーボール 絵本読み聞かせ、季節にあわせた制作、散歩 壁面制作、音楽活動、カレンダー制作、カルタ 水活動、カラオケ、ゴロ卓球、ボーリング	折り紙、音楽活動、検食簿のお届け ジグソーパズル、ストレッチ体操 日記、学習ドリル、歩行練習、カルタ 塗り絵、似顔絵、お花摘み、読書 ショットdeビンゴ、トランプ、ジェンガ、ドミノ
中途障がいグループ	七宝焼き、ちぎり絵、フライングディスク、販売会準備 パソコン、手工芸、折り紙、コース、紙すき、避難訓練 ショットdeビンゴ、ボーリング、ポッチャ、ゴロ卓球、散歩 風船バレーボール、卓上ゲーム、季節にあわせた制作 華道、茶道、陶芸、書道、言語訓練、壁面制作	アイロニズ、折り紙、クラフト制作、ポッチャ ジグソーパズル、紙芝居制作、連想ゲーム、模写 ショットdeビンゴ、コース練習、大人の塗り絵 麻雀、トランプ、ウリ、ジェンガ、坊主めくり 将棋、連珠、将棋、連珠、囲碁、読書、陶芸

表8-3 主な外出先一覧

日帰り旅行等	アサヒビール足柄工場、ズーラシア、日産テクニカルセンター フレスポ小田原シティーモール、ららぽーと湘南平塚、 伊勢原こども科学館
その他	ソーレ周辺散歩、花菜ガーデン 平塚市役所等の展示即売会

表8-4 趣味活動、ボランティアとの関わり

活動種目	活動内容	回数	ボラ	1回の参加者
書道教室	書道の指導	週1	二宮	5~7名
パソコン教室	基本的な使用方法の指導	週1	白井	2~3名
陶芸教室	基本的な作り方の指導	週1	2名	8名
華道・茶道教室	お花、お抹茶の指導	月1	4名	6~8名
囲碁教室	囲碁の指導	月2	1名	1名
ボーリングバレーボールクラブ	大会への参加、練習	週1	1名	5名
七宝焼きクラブ	基本的な作り方の指導	月3	1名	3~5名
ポッチャ	基本的なポッチャの練習	週1	0名	10名
J-POP・ピアノフェスティバル	歌の発声、ピアノの伴奏、指導	週1	2名	9名
美容	美容（有償）	適宜	1名	希望
喫茶アモーレ	喫茶店のアルバイト	隔週1	14名	希望
オセロ・将棋	オセロ・将棋の指導	適宜	1名	希望
麻雀	マージャンの指導	週1	1名	3~4名

表8-5 スポーツ大会等への参加者

日 時	内 容	参加者人数	会 場
4/16 (日)	県FD競技会	4名	厚木及川球場
5/28 (日)	YES, 愛 DO	7名	トッケイセキュリティー平塚 総合体育館
4/30 (日)	県陸上競技大会	6名	厚木市萩野運動公園 陸上競 技場
6/24 (土)	ローリングバレーボール大会	6名	藤沢市秋葉台体育館
9/24 (土)	ローリングバレーボール大会	6名	座間市立体育館
11/18 (土)	身障協ステージ発表	4名	藤沢市太陽の家体育館
12/2 (土)	身障協卓上競技大会	3名	藤沢市太陽の家体育館
3/3 (土)	金田公民館まつり	5名	金田公民館
3/11 (土)	ローリングバレーボール大会	5名	座間市立体育館

表8-6 医師の診察

(整形外科/リハビリに伴う診察、歯科、皮膚科)

診察科目	人数	回数
整形外科	33人	10回
歯科	0人	0回
皮膚科	0人	0回

(資料9) 年間行事予定表

4月	花見	9月	お月見	1月	県身障協作品展示
	県卓球・フライングディスク大会		県ローリングバレーボール大会	2月	節分
5月	菖蒲湯				県身障協卓上競技大会
	ファミリーコンサートYes, 愛, do	11月	平塚市福祉まつり	3月	懇談会
	県陸上競技大会		県身障協ステージ発表		ボランティア懇談会
6月	卓上競技ソーレ杯		卓上競技ソーレ杯		ひな祭り
	県ローリングバレーボール大会	12月	クリスマス会		県ローリングバレーボール大会
8月	コーラス部コンサート		餅つき大会		金田公民館祭り
			柚子湯	(通年)	日帰り旅行

(資料10) 週間行事予定表

	午前	頻度	午後	頻度
月	書道	1/週	卓上競技	2/月
	パソコン	1/週	ローリングバレーボール	4/月
	理容	1/月	歯科医往診	2/月
	鍼灸マッサージ師	1/週	コーラス	1/月
	作業療法士	1/週	将棋・オセロ	2/月
	言語聴覚士	1/週		
火	七宝焼き	4/月	囲碁	2/月
	理学療法士	1/月	将棋・オセロ	2/月
水	喫茶アモーレ	1/隔週	喫茶アモーレ	1/隔週
	パソコン	1/週	コーラス	1/週
	七宝焼き	1/月		
	作業療法士	2/月		
	コーラス	1/週		
木	鍼灸マッサージ師	1/週	前田産業医	1/月
	整形外科医	2/月		
	理学療法士	1/週		
金	陶芸	1/週	スポーツ	1/月
	華道・茶道	1/月	創作	1/月
	理学療法士	1/週	料理	1/月
			カラオケ	1/月
			絵画	2/月
他	美容	適宜		

(資料11) 日課表 (ソーレ平塚ケアセンター)

時間	活動内容	時間	活動内容
8:30	職員打合せ	13:00	バイタルチェック
8:50	お迎え出発		入浴、リハビリ、活動
9:50	利用者到着	15:30	利用者帰りの会
10:10	利用者朝の会	16:00	送り出発
	活動、リハビリ、入浴		
11:30	昼食準備	17:00	送迎終了、職員打合せ
12:00	昼食	17:30	業務終了

(資料12)

表12-1 機関別人数

機関名		神奈川県中央児童相談所			厚木児童相談所		合計
市町村名		平塚市	大磯町	二宮町	伊勢原市	秦野市	
成人	男	3	2	0	0	0	5
	女	4	0	0	1	0	5
幼児	男	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	0	1	1
合計		7	2	0	1	2	12

表12-2 利用状況・成人

	登録者	新規	終了	予定数	延べ人数	一般浴	特殊浴	給食	実習生	延べ人数
4月	10	0	0	88	80	0	51	85	0	0
5月	10	0	0	100	91	0	56	93	0	0
6月	10	0	0	101	94	0	61	95	0	0
7月	10	0	0	94	85	0	54	89	0	0
8月	10	0	0	80	68	0	43	71	0	0
9月	10	0	0	95	85	0	50	87	0	0
10月	10	0	0	97	86	0	57	89	0	0
11月	10	0	0	95	83	0	57	92	0	0
12月	10	0	0	88	80	0	51	83	0	0
1月	10	0	0	84	71	0	45	77	0	0
2月	10	0	0	89	82	0	54	85	0	0
3月	10	0	0	99	90	0	60	95	0	0
合計		0	0	1110	995	0	639	1041	0	0
平成28年度実績				1346	1182	0	711	1036		
平成27年度実績				1383	1272	0	793	1076		
平成26年度実績				702	624	0	361	528		

表12-3 利用状況・幼児

	登録者	新規	終了	予定数	延べ人数	給食
4月	1	1	0	13	5	6
5月	2	0	0	18	8	8
6月	2	0	0	15	8	8
7月	2	0	0	11	9	8
8月	2	0	0	14	10	6
9月	2	0	0	16	8	7
10月	2	0	0	18	10	8
11月	2	0	0	17	15	9
12月	2	0	0	16	14	8
1月	2	0	0	14	7	6
2月	2	0	0	16	10	7
3月	2	0	0	18	16	8
合計		1	0	186	120	89
平成28年度実績				100	40	42
平成27年度実績				100	32	30
平成26年度実績				255	88	88

表12-4 欠席理由

	SS	入院	通院	体調	その他	合計
成人	5.7	10.9	16.9	44.3	22.2	100
幼児	0	44.9	2.8	7.6	44.7	100

(表示は%)

表12-5 障害種別人数

性別/種別	脳性マヒ	小頭症	てんかん	その他	合計
男	3	0	2	2	7
女	2	0	2	1	5
合計	5	0	4	3	12

表12-6 身体障害者手帳等級別人数

性別/等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
男	5	1	0	0	0	0	6
女	5	1	0	0	0	0	6
合計	10	2	0	0	0	0	12

表12-7 療育手帳障害程度別人数

性別/療育手帳	A1	A2	B1	B2	合計
男	7	0	0	0	7
女	5	0	0	0	5
合計	12	0	0	0	12

表12-8 年齢別人数

性別/年齢	0~2	年少	年中	年長	18~19	20~29	30~39	40~49	合計
男	0	0	0	1	0	2	2	1	6
女	0	0	1	0	0	1	4	0	6
合計	0	0	1	1	0	3	6	1	12

表12-9 大島分類

21	22	23	24	25	80 (10)
20	13	14	15	16	70
19	12	7	8	9	50
18	11	6	3	4	35
17	10		2 (1名)	1 (11名)	25
走れる	歩ける	歩行障害	すわれる	ねたきり	0

(資料13) 療育活動

表13-1 活動内容

感覚	外気浴、スヌーズレン、感触
音楽	リトミック、楽器演奏、歌
お話し	パネルシアター、紙芝居、ブラックシアター、絵本
制作	カレンダー・壁面（海、千支の酉）、クリスマスカード
運動	バルーン、散歩、ストレッチ、トランポリン
その他	水遊び、風船遊び、ペープサート

表13-2 行事

	成人	幼児
4月	花見外出、春の展示即売会	入園式
5月	菖蒲湯、YES、愛DO!、ドッグヒーリング、日帰り外出①・②、喫茶ア・モーレイベント①	交流保育
6月	防災訓練、七夕飾りつけ、ローリングバレー神奈川交流大会、日帰り外出③、④、喫茶ア・モーレイベント②	交流保育
7月	防災訓練、夏の展示即売会、日帰り外出⑤、喫茶ア・モーレイベント③	水遊び
8月	かっぱ祭り展示会、日帰り外出⑥、プール外出	水遊び
9月	神奈川県ローリングバレーボール大会、日帰り外出⑦、⑧、喫茶ア・モーレイベント④	交流保育
10月	ドッグヒーリング、秋の展示即売会、ふじみ園展示会、喫茶ア・モーレイベント⑤、日帰り外出⑨	ハロウィン
11月	喫茶ア・モーレイベント⑥、身障協ステージ発表、社会福祉展、日帰り外出⑩、防災訓練	交流保育、合同避難訓練
12月	お楽しみ会、餅つき、ゆず湯 冬の展示即売会、社会福祉展、喫茶ア・モーレイベント⑦	お楽しみ会
1月	餅つき	交流保育
2月	節分豆まき、防災訓練、喫茶ア・モーレイベント⑧市民プラザ障がい者作品展示即売会、通報訓練	
3月	ローリングバレーボールばっする杯、地域支援センター懇談会①・②、身障協作品展示、喫茶ア・モーレイベント⑨	

表13-3 主な外出先一覧

日帰り外出等	ズーラシア・ららぽーと湘南平塚・日産テクニカルセンター・伊勢原科学館・茅ヶ崎伊勢屋
その他の外出	花菜ガーデン・ソーレ周辺・金田小学校

表13-4 関係機関との連携

月日		目的・内容	対応職員
5月26日	児童発達支援事業所情報交換会①	情報交換会	副センター長
10月31日	児童発達支援事業所情報交換会②	情報交換会	副センター長
2月21日	児童発達支援事業所情報交換会③	情報交換会	副センター長 中島

表13-5 養護学校実習生の受け入れ

実施日	利用者	日数	学校名 学年
2月6～8		3日間	平塚養護高等部2年

(資料14) 年間行事予定表 (ソーレ平塚療育園)

4月	入園・進級式	12月	クリスマス発表会
5月	菖蒲湯		餅つき
	遠足		柚子湯
6月	保育参観	1月	書初め
7月	プール	2月	節分
	卒園生との交流会	3月	遠足・卒園式
8月	プール		懇談会・ボランティア懇談会
9月	保育参観	(通年) 日帰り旅行	
10月	運動会	金田保育園との交流会	

(資料15) 日課表 (ソーレ平塚療育園)

時間	活動内容(幼児)	時間	活動内容(成人)
8:30	職員打合せ	8:30	職員打合せ
8:50	活動準備	8:50	お迎え出発
9:20	登園(母子)、相談	9:50	利用者到着
10:00	バイタルチェック、リハビリ	10:10	利用者朝の会
10:30	朝の会		活動、リハビリ、入浴
	療育活動	11:30	昼食準備
11:30	昼食	12:00	昼食
12:30	自由保育	13:00	バイタルチェック
13:20	帰りの会		入浴、リハビリ、活動
13:30	降園	15:30	利用者帰りの会
		16:00	送り出発
		17:00	送迎終了、職員打合せ
		17:30	業務終了

(資料16) ソーレ平塚地域活動支援センター

支援の状況

表16-1 利用件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ソーレ平塚	男性1F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性2F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域支援センター	男性	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	女性	1	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	5
タイムケア	男性	6	6	11	8	2	9	7	7	10	7	6	4	83
	女性	3	8	12	8	0	6	10	6	3	6	8	2	72
生活支援センター	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		10	1	1	16	0	1	17	14	14	0	14	6	161

表16-2 利用時間

		2h	3h	4h	5h	6h	7h	8h	9h	10h	11h	合計
ソーレ平塚	男性1F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性2F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域支援センター	男性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女性	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
タイムケア	男性	4	65	14	0	0	0	0	0	0	0	83
	女性	13	18	41	0	0	0	0	0	0	0	72
生活支援センター	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		22	84	55	0	0	0	0	0	0	0	161

※h=時間

表16-3 利用の理由

		タイムケア	デイサービス	放課後支援	一時預かり	アクティビティ	その他	合計
	男性	83	0	0	1	0	0	84
	女性	72	0	0	5	0	0	77
合計		155	0	0	6	0	0	161

(資料17)ソーレ平塚生活支援センター

表17-1 施設内部研修会

実施日	内容	講師	対象者
4月24日	平成28年度全体職員会議(他26日、28日)	施設長、センター長他	加藤、寺澤、水越

表17-2 外部研修

実施日	内容	場所	出席者
5月25日	認定調査員研修	県総合医療会館	寺澤
8月16日 (他4日間)	相談支援従事者初任者研修	県立保健福祉大学 実践教育センター	寺澤
10月13日	計画相談支援分科会スキルアップ研修	平塚市役所	加藤、寺澤
10月30日 (他2日間)	相談支援従事者現任研修	県立保健福祉大学 実践教育センター	加藤
11月14日	平塚市障がい者自立支援協議会こども部会研修会(平塚市の防災リスクを学ぶ)	平塚市勤労会館	副センター長
12月21日	相談支援専門員研修会	平塚市役所	副センター長他相談員
3月9日	権利擁護研修	平塚保健センター	副センター長、寺澤

表17-3 外部会議など①

実施日	内容	場所	出席者
4月6日	第1回当事者参加検討会	サンシティ平塚	加藤
4月18日	第1回計画相談支援分科会	サンシティ平塚	加藤、寺澤
4月24日	第2回当事者参加検討会	サンシティ平塚	加藤
4月26日	相談員の集い	すこやか園	副センター長他相談員
5月10日	第3回当事者参加検討会	サンシティ平塚	加藤
5月18日	平塚養護学校合同説明会	平塚養護学校	副センター長、寺澤
5月24日	相談員の集い	ソーレ平塚生活支援センター	副センター長他相談員
6月20日	第2回計画相談支援分科会	サンシティ平塚	加藤、寺澤
6月21日	第4回当事者参加検討会	平塚市役所 本館	加藤
6月23日	相談員の集い	すこやか園	副センター長他相談員
6月29日	第1回相談支援ネットワーク会議	平塚市役所 本館	副センター長他相談員
7月5日	成年後見支援ネットワーク会議	保健センター	加藤
7月10日	第5回当事者参加検討会	サンシティ平塚	加藤
7月18日	平塚養護学校情報交換会	平塚養護学校	加藤、寺澤、水越
7月21日	相談員の集い	すこやか園	副センター長他相談員
8月7日	第6回当事者参加検討会	サンシティ平塚	加藤
8月8日	第3回計画相談支援分科会	平塚市役所 本館	加藤、寺澤
8月22日	第4回計画相談支援分科会	平塚市役所 本館	加藤、寺澤
8月24日	虐待防止ネットワーク実務検討会議	平塚市役所 本館	副センター長、加藤
8月31日	相談員の集い	ソーレ平塚生活支援センター	副センター長他相談員
8月31日	第1回企画運営部会	平塚市役所 本館	加藤、寺澤
9月6日	第2回相談支援ネットワーク会議	二宮町民センター	加藤、寺澤
9月15日	第1回自立支援協議会	平塚市役所 本館	加藤、寺澤

表17-4 外部会議など②

実施日	内容	場所	出席者
10月4日	第2回企画運営部会	平塚市役所 本館	加藤、寺澤
10月5日	相談員の集い	ソーレ平塚生活支援センター	副センター長他相談員
10月6日	第7回当事者参加検討会	サンシティ平塚	加藤
10月24日	第5回計画相談支援分委会	サンシティ平塚	加藤、寺澤
11月6日	第8回当事者参加検討会	伊勢原市役所	加藤
11月21日	こども部会 第1回学齢児サービス提供事業所情報交換会	くれよん	寺澤
11月22日	相談員の集い	すこやか園	副センター長他相談員
11月29日	平塚養護学校肢体不自由教育部門生徒の進路に関わる連絡会	平塚養護学校	副センター長他相談員
12月6日	第9回当事者参加検討会	サンシティ平塚	加藤
12月19日	第6回計画相談支援分科会	サンシティ平塚	加藤、寺澤
12月21日	第1回身障分科会	平塚市役所 本館	加藤、寺澤
12月21日	第3回企画運営部会	平塚市役所 本館	加藤、寺澤
1月10日	第10回当事者参加検討会	サンシティ平塚	加藤
1月12日	相談員の集い	ソーレ平塚生活支援センター	副センター長他相談員
1月18日	第10回平塚市高齢者及び障がい者虐待防止ネットワーク	平塚市勤労会館	副センター長
1月19日	第3回相談支援ネットワーク会議	ぱれっと秦野	副センター長、加藤、寺澤
1月30日	第2回身障分科会	平塚市役所 本館	加藤、寺澤
2月8日	平塚養護学校移行支援会議	平塚養護学校	加藤
2月9日	平塚養護学校移行支援会議	平塚養護学校	加藤
2月14日	第11回当事者参加検討会	サンシティ平塚	加藤
2月20日	第7回計画相談支援分委会	サンシティ平塚	加藤、寺澤
2月22日	平塚市成年後見連絡会	平塚保健センター	副センター長
3月14日	第11回当事者参加検討会	サンシティ平塚	加藤
3月19日	第4回企画運営部会	平塚市役所 本館	加藤、寺澤
3月23日	利用者ケースカンファレンス	平塚養護学校	加藤
3月28日	事業所との情報交換会	(株)へいあん	副センター長他相談員

1 対応方法 (延べ件数)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別対応	電 話 相 談	312	444	382	330	328	363	358	445	378	427	357	396	4520
	来 所 相 談	7	10	9	5	5	2	5	11	2	7	9	8	80
	訪 問 相 談	62	84	79	73	75	53	81	77	84	77	88	81	914
	同行 (病院・施設等)	8	2	2	0	2	2	4	5	3	3	2	7	40
	そ の 他	17	19	16	37	19	22	24	27	20	14	13	18	246
合 計		406	559	488	445	429	442	472	565	487	528	469	510	5800

2 年齢 (延べ件数及び実人員件数)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ件数	0～17歳まで	27	20	10	43	13	37	20	51	19	34	33	38	345
	18～39歳まで	94	174	126	155	94	111	148	100	130	127	114	115	1488
	40～64歳まで	277	358	328	223	312	291	298	408	322	345	316	341	3819
	65歳以上	8	7	22	23	10	3	6	6	16	22	6	16	145
	そ の 他	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合 計		406	559	488	445	429	442	472	565	487	528	469	510	5800
実人員	0～17歳まで	7	1	0	3	1	3	0	2	0	1	0	0	18
	18～39歳まで	26	11	7	3	1	1	2	3	2	0	2	4	62
	40～64歳まで	60	18	10	14	4	3	7	5	4	12	2	2	141
	65歳以上	5	1	3	0	1	1	0	1	1	1	0	2	16
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		98	31	20	20	7	8	9	11	7	14	4	8	237

3 新規・継続相談 (実人員)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新 規	12	7	8	9	4	7	6	8	5	8	4	5	83
継 続	86	24	12	11	3	1	3	3	2	6	0	3	154
合 計	98	31	20	20	7	8	9	11	7	14	4	8	237

4 障害種別 (実人数)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
身体障害	肢 体	86	21	17	10	6	4	7	6	4	12	3	2	178
	そ の 他	12	3	1	5	1	1	1	2	0	3	0	4	33
知的	14	2	1	3	2	1	1	1	1	0	2	0	27	
発達障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
精 神	4	4	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	12	
高次脳機能障害	4	2	2	0	1	0	0	0	1	0	1	0	11	
重 心	13	6	2	6	0	1	0	1	0	1	0	2	32	
そ の 他	1	1	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	7	
合 計	134	39	24	24	10	8	10	12	8	19	4	8	300	

(注) 一人で複数の障害を重複している場合は、それぞれ算定。

5 個別相談の相談事由（延べ件数）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
福祉制度・障害福祉サービスの問い合わせ	33	44	21	25	31	32	23	35	19	33	17	34	347
雇用・就労関係	23	36	28	9	9	9	15	24	17	21	23	10	224
住居・住宅関係	5	23	13	6	1	8	35	6	16	5	7	31	156
教育・発達関係	0	3	0	3	0	1	0	5	0	2	2	0	16
保健・医療・健康管理関係	95	120	104	51	42	85	66	84	52	74	25	78	876
家族関係	9	15	21	20	15	23	10	17	13	13	13	12	181
対人間関係	3	2	1	0	2	0	1	1	2	3	2	1	18
経済・年金関係	2	8	1	4	3	7	1	1	0	13	8	1	49
放課後支援	0	2	0	2	0	0	2	7	4	3	3	0	23
施設関係	21	38	42	29	50	35	23	42	31	51	34	35	431
引きこもり	2	3	2	0	6	2	2	0	3	2	0	1	23
不安感傾聴	23	9	15	10	19	15	22	21	22	25	18	22	221
利用調整	192	304	239	263	273	235	260	343	304	303	314	322	3352
福祉用具	10	13	49	55	14	31	32	26	33	37	20	46	366
支給決定	23	18	17	6	12	23	23	13	21	22	24	17	219
障がいの理解	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
苦情対応	0	0	1	3	2	0	0	1	1	3	2	2	15
権利擁護	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
虐待	8	3	0	0	1	0	9	0	7	1	2	2	33
その他（区分不可能）	1	10	0	4	1	1	1	14	1	1	0	1	35
合 計	450	651	556	491	481	508	526	640	546	612	514	615	6590

（注） 1件の相談で複数の内容について相談を受けたものは、重複して算定。

5-2 （参考）サービス等利用計画作成に係る相談件数（延べ件数）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	348	519	444	393	335	390	396	458	419	447	411	447	5007

6 個別相談の相談者区分（延べ件数）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
本人	104	126	99	93	123	90	118	146	120	119	127	132	1397
家族	75	117	107	73	65	79	75	83	69	92	98	97	1030
行政・教育関係	26	71	69	51	62	61	50	75	63	95	35	43	701
医療・福祉関係	201	242	211	228	179	210	224	256	225	220	206	235	2637
その他	0	3	2	0	0	2	5	5	10	2	3	3	35
合 計	406	559	488	445	429	442	472	565	487	528	469	510	5800

7 その他の要素

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ケア会議	4	0	0	1	0	0	4	5	4	5	3	10	36
障害支援区分認定調査	1	5	4	2	1	2	3	3	4	4	1	1	31
サービス利用計画作成	5	10	9	6	17	6	3	12	4	7	11	27	117
モニタリング	36	39	32	40	43	43	31	44	42	36	48	61	495
講演・研修会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

資料 1-6

平成 29 年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会

すこやか園

I すこやか園

1 概況

平成 29 年度は、伊勢原市障害福祉センター指定管理者の運営受託（H27. 4. 1～H32. 3. 31）3 年目（通算 14 年目の運営受託）を迎えました。職員体制としては、4 月の人事異動で地域支援課の課長代理が転出し、代わりに副主任が転入しました。さらに、医療的ケアが必要な利用者へのサービスの充実を図るために、非常勤の看護師を 1 名常勤として雇用しました。5 月には、相談支援事業の強化を図るため、1 名の常勤職員が転入しました。また、6 月には非常勤の入浴支援員を 1 名採用し、1 日の入浴支援員を常時 2 名配置出来るよう、支援体制を整えました。児童療育課では、11 月に保育士が退職したため、1 名欠員となっています。

その他、全体的な取り組みとして、次のとおり報告いたします。

(1) 防犯対策

防犯に関する具体策を示した「すこやか園防犯対策(平成 29 年 4 月版)」の掲示を行い、利用者にも発信するなど、安全・安心な施設運営に努めました。また、9 月に伊勢原市と連携し、防犯カメラを新規設置しました。さらに、3 月に 1 階通路に侵入防止柵を設置しました。

(2) 防災対策

6 月に伊勢原市消防本部職員を講師に招き、消火訓練を実施しました。また、11 月に総合防災訓練を行い、避難誘導の際のトランシーバーの活用が有効であったため、導入しました。その他、消防計画における自主消防隊の役割分担について確認しました。

【表 1-5】

見えにくくなっていた消火器の案内表示を分かりやすく掲示しました。

(3) 事故防止対策

事故防止の一環で、引き続き「ヒヤリ・ハット報告書」の活性化に取り組みました。

平成 29 年度のヒヤリ・ハット報告の件数は、165 件でした。ヒヤリ・ハット報告を職員が意識することで、事故を未然に防ぐ意識が年々高まり事故防止に繋がりました。

【表 1-9】

(4) ストレスチェック

産業医による、ストレスチェックとそれに伴う面談を実施しました。職員が自らの心身の状態を知るきっかけとなり、日々の健康状態を振り返る機会にもなりました。

(5) 特殊浴槽の更新

旧式の特殊浴槽が、設置から 10 年経過したため、9 月に新たな座位浴タイプの特殊浴槽を設置しました。詳細は、「IV地域活動支援センター」参照。

2 平成 29 年度の施設運営目標に対する評価

(1) 利用児者を中心とした療育・支援へ向けた職員間や関係機関との連携について

利用児者を中心とした療育・支援を実践するために、毎月「日常点検チェックリスト」と「虐待防止セルフチェックリスト」にて、安全面、衛生面の振り返りを職員個々が行い、各課の職員会議でその気づきを共有しました。また、運営会議や安全衛生委員会にて各部署間の現状を共有しました。

当園の利用希望者に対しては、利用決定における透明性と公平性を図るために、新たに利用調整会議を設置し、決定することにしました。

なお、9 月に設置から 10 年を経過した特殊浴槽（座位浴タイプ）の更新の際には、業者や伊勢原市障がい福祉課と連携しながら、浴槽の選定について対応しました。

(2) 重症心身障がい児者および医療的ケア児者への安心・安全な支援体制について

4 月より常勤看護師を配置し、新規利用希望の重症心身障がい児者増に備えました。「医療的ケア実施要領」の見直しを行いました。これまで各部署ごとに分かれていた医療的ケアの実施要領を、当園利用児者全体に対応する内容として整理し、医療的ケアを必要とする利用児者が安全かつ適切な医療的ケアを受けられるように、職員間で確認しました。また、看護師間で定期的にミーティングの機会を持ち、利用児者の医療的ケアに関することや感染症の状況に関する情報の共有と予防対策等について検討しました。

支援環境については、新規利用児者の増加と障がいの重度化により活動スペース及び静養スペースの確保が課題となっています。部署間の連携や利用児者の療育・支援方法について意見交換をしながら、対応しました。また、作業室にあるテーブルを整理し、体を動かすスペースを作るなど、限られた療育・支援スペースを工夫し、「安心と安全」を提供できる支援環境の整備に取り組みました。

(3) 職員一人ひとりが心身ともに健康で、やりがいを持って仕事ができる職場環境について

業務への取り組みとしては、時間外勤務の原因を考察し、業務内容やスケジュールについて、非効率的な部分を見直しています。短時間で効率の良い業務となるように、書式や業務スケジュールを見直して、事務時間の短縮を図りました。

9 月に産業医による、ストレスチェックとそれに伴う面談希望の職員との面談を行いました。また、11 月には健康診断の結果をもとに、面談希望職員と面談を行い、健

康に関するアドバイスをいただきました。

3 事業内容

(1) 各事業内容

- ① 児童発達支援事業…「Ⅱ児童発達支援事業報告参照」
- ② 保育所等訪問支援事業…「Ⅲ保育所等訪問支援事業報告参照」
- ③ 地域活動支援センター事業…「Ⅳ地域活動支援センター事業報告参照」
- ④ 相談支援事業…「Ⅴ相談支援事業（生活支援センター）報告参照」
- ⑤ 日中一時支援事業…「Ⅵ日中一時支援事業報告参照」

(2) 伊勢原市指定管理施設運営受託事業

- ① 施設、駐車場の管理
- ② 集会室・作業室・録音室利用承認および利用者への対応

4 その他

(1) 事故 (0 件)

(2) 苦情 (0 件)

運営委員会を年 2 回 (7/25・2/9) 開催し、療育や支援の見学や各事業の報告を行いました。委員の方からは、「実際に見学したことで事業内容がよりイメージできてよかった。」等の感想をいただきました。また、ヒヤリ・ハットの分析等の報告を行い、取り組みなどについて、良い評価をしていただきました。

Ⅱ 児童発達支援事業

1 概況

今年度のグループ療育は、スタート時から利用可能枠がいっぱいな状況となりました。利用児数は、新規児 20 名を含めた 59 名となり、年明け（1 月・2 月）に 3 名が退園、その枠に 1 名が利用開始し、年度末には 57 名となりました。年度初めから利用枠がいっぱいになった理由としては、前年度に見学対応の日数を増やし、年度の初めから新規利用児の利用を開始することが出来たためです。（H29 年度の見学者延べ人数は 32 名）

今年度のグループ療育は、週 3 回のグループが一つと週 1 回のグループが八つの編成となりました。週 1 回のグループは、部屋の使用の工夫により昨年度より一つ増やし、同年齢児でのグループを編成しました。その中で、年長児のグループも二つ作り、今までは個別療育の利用のみだった年長児に対しても、グループ療育を利用することが出来る様になりました。

個別療育は、4 月からの新規児 3 名を含む 17 名でスタートし、年度末まで変動はありませんでした。個別療育は、昨年度までは年長児をすべて受け入れていたため、専門職（臨床発達心理士・言語聴覚士）の 2 名の職員で対応することはオーバーワークな状況となっていました。今年度は、2 名の専門職が余力を持ちつつより良い支援を展開をさせていくために、受け入れ人数をセーブしました。その中で発達検査の実施や、年長児の支援についての園内研修を行いました。

作業療法士は、重症心身障がい児のグループ療育を担当していますが、その他の全グループの療育に入り利用児を支援する機会を作りました。

利用者・保護者支援では、療育支援方針会議を充実させ、支援の方向性を確認し、支援内容を深めてきました。また、グループ療育の個別支援計画書の様式を変更し、保護者と目標を共有しやすくしました。その他、保護者懇談会を行い、必要な情報提供や話し合いの場を設けました。さらに、保護者対象の講演会を実施し、我が子の理解を深める機会を作りました。

職員相互の連携としては、月一回の療育課会議で、一ヶ月の運営や業務についての共有や検討事項などの話し合い、“日常点検チェックリスト”“虐待防止セルフチェックリスト”を通して、職員自身の勤務の姿勢を振り返る機会を作りました。さらに、毎日の業務終了前に行う振り返りの時間に、課全員でその日に必要な情報をタイムリーに共有し、職員の安全や連携への意識を高めました。

職員の外部研修としては、新しい思春期精神科セミナーの参加、福祉サービス第三者評価に関する説明会、障がい者虐待防止・権利擁護、苦情対応等の研修に参加しました。外

部研修に参加した職員が研修で得た内容を課員に伝える園内研修も実施し、内容を共有する機会を作りました。また、職員が他事業所を訪問し運営や支援内容について知る機会を作りました。【表 2-1】

体制に関することでは、4月に神奈川県に届け出る体制について、職員間で確認作業をした際に平成 27・28 年度の過誤請求すべき事由に気付きました。神奈川県と伊勢原市に報告し、対象となる利用者、関係する他事業所に連絡し、適正に対応しました。

また、6月に神奈川県からの通達で、児童発達支援管理責任者の配置条件が変更となりました。しかし、職員1名が所定の研修を終えて資格を得たため、支援の内容を変更することなく届出をすることが出来ました。

11月末に保育士1名が退職したことで加算の1つが該当しない状況になりましたが、届出の条件を確認し再届出を行い、職員配置の体制を整えました。

地域支援としては、伊勢原市や秦野市の他事業所職員の見学や説明の依頼を受け対応しました。また、すこやか園を併行通園する子どもが通う幼稚園の教諭や保育園の保育士を対象とした講演会を行いました。

2 平成 29 年度の運営目標に対しての評価

(1) 子どもにとって、より良い支援を行うために、新たな編成で療育を実施していきます。

- ・週1回グループは同年齢児での編成としました。
- ・年長児のグループは、併行通園先を休むことなく療育の利用が出来るように午後の時間帯で実施し、月に1度は個別課題の時間を作りました。保護者のニーズを踏まえて、母子分離での活動とし、保護者は必要に応じて、マジックミラーから観てもらおう形にしました。
- ・低年齢の2歳児グループは、前期はお弁当無しの半日での降園。体力もつき、通うことに慣れた後期はお弁当を食べてから降園とするなど、無理なく登園出来る形にしました。
- ・個別療育については、子どもの状況を踏まえて、利用する頻度を精査しました。

(2) チーム（組織）で対応する体制をつくり、職員一人ひとりがケースを通して実践的に学び、職員としての資質の向上を図ります。

- ・個別支援計画の作成、支援の方向性を確認する際は、療育支援方針会議を実施し、必要な職員が参加し支援の状況の確認と意見交換をし、支援内容や方向性を共有しました。
- ・初めて試みる年長児のグループ療育の支援内容について、担当する職員と年

長児の支援に経験が豊富な専門職の職員が園内研修を実施し、資質の向上を図る機会を作り実施しました。

- ・作業療法士が、グループの職員と一緒に一日の療育に入り、運動面のアドバイスや見解を伝える機会を作りました。子どもの理解を深め、活動内容や必要な支援を考えました。

3 事業の実施状況

(1) 利用児の状況

- ・グループ療育 57 名、個別療育 17 名、合計 74 名の在籍でした。
- ・年齢構成では、年長児 24 名、年中児 20 名、年少児 18 名、2 歳児 11 名、1 歳児 1 名でした。
- ・グループ療育の出席状況はグループによって差がありましたが、比較的に安定していました。欠席理由としては、体調不良による入院、夏期休暇中の帰省や兄弟児の預け先が無い、併行通園先の行事等があげられます。
- ・年間の開所日数は 233 日、延べ利用人数は 2,932 名でした。昨年度と比べ、330 名増えています。増えた理由としては、年度初めから利用可能枠いっぱいスタートしていることが考えられます。 【表 2-2、2-3】

(2) 事業内容

①利用者・保護者支援

(療育)

- ・療育支援方針会議で方向性を確認し、子どもの状態にあった適切な支援を行いました。
- ・必要に応じて保育所等訪問支援事業と連携し、必要な支援を行いました。

(交流保育)

- ・週 3 回グループ児を対象とし、近隣の保育園への交流を 3 回行い、子どもの現状理解や進路について、保護者に考えてもらう機会としました。

(家族参加日)

- ・週 3 回グループを対象とし 8 月の土曜日の午前中に登園日を 1 日設け、父親を主にご家族の方に療育の様子を知っていただく機会としました。

(囑託医による相談)

- ・月 1 回囑託医が来園して、保護者の相談に応えました。(11 回)

(併行通園先〔幼稚園・保育園〕への訪問)

- ・職員が、集団における利用児の様子を知るために、利用児が通う併行通園先に訪問し話し合いを実施しました。

- ・保護者に訪問時や話し合いの内容について報告し、利用児の様子を共有しました。

(就学支援)

- ・新入学する子どもの中で、必要なケースについては小学校への引継ぎを行いました。
- ・就学相談を利用した子どもについて、教育センターへの情報提供を行いました。

(保護者面談)

- ・個別支援計画作成やご家族からの相談等の面談を実施しました。

(保護者講演会)

- ・保護者を対象にした講演会を実施しました。
講師：栗原まな囑託医
テーマ：「発達障害の概要と子どもを理解する視点や関わり方について」
- ・利用児や兄弟児の託児を行い、保護者が参加しやすい環境を整えました。

②関係機関との連携について

- ・幼稚園・保育園、行政等へ必要に応じて訪問、電話連絡等の連携を図りました。
(対応については、個人情報管理マニュアルに基づき行いました。)
- ・利用希望児に対して、マジックミラーからの見学と説明を行いました。利用枠がいっぱいの時も、伊勢原市子ども家庭相談課からの依頼を受け、見学の対応は行いました。(年間の見学者は延べ32人)
- ・伊勢原市要保護児童対策地域協議会の代表者会議と実務者会議に出席しました。
- ・伊勢原市や他事業所等からの依頼を受けて、見学の対応をしました。
- ・伊勢原市相談支援援助チームに参加をしました。
- ・1月に、併行通園先の幼稚園教諭や保育園保育士を対象とした講演会を、栗原囑託医を講師として実施しました。
- ・伊勢原市内の通級指導教室の教諭からの依頼を受け、すこやか園の療育について説明をしました。

VI 保育所等訪問支援事業

1 概況

今年度は職員を2名体制にし、開所頻度も月4回（第1、2火曜日、第2、3木曜日）に増やし必要な支援をタイムリーに実施できるようにスタートをしました。今年度は、新規児3名（年長児2名、年中児1名）の登録があり、年長児4名、年中児2名の計6名の利用となりました。

2 平成29年度の運営目標に対する評価

(1) 職員体制について

- ・子どもや訪問支援先にとって必要な支援をタイムリーに実施できるよう、児童発達支援事業の療育職員の兼務を増やすことで訪問支援員を2名体制とし、開所日を月4回に増やしました。

(2) 児童発達支援事業と連携について

- ・児童発達支援事業で行っている年1回の園訪問を踏まえ、支援が必要な子どもに対しては、より頻度の高い園訪問が可能な保育所等訪問支援を提案し、適切な支援に繋がりました。
- ・訪問支援先に対しては、児童発達支援事業の療育場面でみられる発達の特徴を踏まえ、対象児の発達の見通しや関わりの工夫について伝えることができました。さらに、年長児については、就学を見据えて持てるとよい視点を共有しました。
- ・保護者に対しては、訪問支援先の様子を個別療育時に保護者と共有することで、対象児の理解がより深まりました。また、年長児については、就学を考える上での一助とすることに繋がりました。

3 事業内容

(1) 事業実績

登録児：6名（年中2名、年長4名）

訪問支援先：6園（保育園3園、幼稚園3園）

実施月：4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月

（8月は訪問支援先との都合が合わず実施できず）

(2) 事業内容

支援頻度：平成28年度からの継続児3名は三ヶ月に1回、平成29年度の新規児3名については対象児と訪問支援先の状況把握のための期間は月1回とし、その

後は対象児の状況に合わせた頻度で支援を行いました。

支援の方法：対象児の課題となる集団場面を観察し、その後に訪問支援先と話し合いをしました。

Ⅳ 地域活動支援センター

1 概況

平成 30 年 3 月 31 日現在の利用登録者数は、19 名でした。利用実績は、延べ利用者数が 1,965 名で、通所予定数の 88%の利用率となり、昨年度と比べると 132 名の増加でした。この理由は、新規利用者が 2 名増加したことによるものです。なお、家庭の事情により、1 名の方が 3 月に利用を終了されました。【表 3-1-1】

支援の環境面に関しては、設置から 10 年を経過した特殊浴槽（座位浴タイプ）を 9 月に更新しました。浴槽の選定においては、市障害福祉課と連携を図りながら、対応しました。その他、職員体制では 4 月に人事異動で副主任 1 名が転入、常勤看護師 1 名を採用、6 月には入浴支援員 1 名を採用しました。

11 月には平塚養護学校の生徒 1 名と座間養護学校（伊勢原市在住）の生徒 1 名の体験利用を受け入れ、地域の福祉サービスを知っていただく機会としました。また、多くの利用者の意見をうかがう機会として年末に利用者アンケート、2 月には懇談会を行いました。

2 平成 29 年度の施設運営目標に対する評価

(1) 活動支援について

「創作活動」、「スヌーズレン活動」、「サークル活動」の三つの活動を柱として、各活動とも年間計画に基づき実施しました。内容については、利用者が主体となり取り組める活動になるよう心掛けました。「創作活動」の草木染めでは、藍の栽培から利用者が参加し、日々の成長観察を行ない、完成した作品（T シャツ等）は、夏祭りの行事で使用しました。その他、クリスマスリース作りや節分の鬼のお面作り、オリンピック観戦用の旗を作り、皆でテレビを囲み応援をするなど、季節感を感じられるような創作活動を行いました。「スヌーズレン活動」では、ライティングや選曲、アロマ等、活動空間を工夫し五感への刺激を意識して関わりました。その他、音楽や絵本読み、マッサージやストレッチ体操を取り入れ、リラックスできるように取り組みました。創作活動では、各作業工程（型取り・色付け・ニス塗り・袋入れ等）を各自の得意分野を活かし、積極的に参加することができました。完成した作品は平塚市役所で開催された「展示即売会」へ出品しました。また、「伊勢原市民文化祭」や「ふれあい福祉まつり」の出展に向け、個々が目標を持ち、活動に取り組むことができました。その他、秋の日帰り旅行では、買い物や食事、ゲー

ムセンター利用などを通じ、社会経験をひろげる機会としました。その他、毎週水曜日の午後に書道ボランティア1名が来園し、四季折々の事柄をテーマに活動を行いました。【表 3-1-9】

(2) 活動環境と支援体制について

2名の方の新規利用に伴い静養スペースの環境を変更しました。活動室における安全面の観点から畳と書庫の配置変更を行い、プライバシー保護と排泄介助の利便性を考慮しカーテンの可動方法を変更するとともに、衛生面の配慮から流し回りの整理整頓を行いました。また、常勤看護師1名を配置することで安定した医療処置と迅速な看護師間の連携（看護ミーティング）を図ることができるようになり、より安全で安心した支援サポートを実施しました。その他、脳血管障がいや体温調整の難しい方々に対し、産業医から温度設定に注意が必要との助言を受け、2月に地活活動室のエアコン設備を更新しました。

(3) 支援の質と職員間の連携について

9月に支援員と運転員を対象とした、「安全で安心できる送迎とは何か」を考える内容で内部研修を実施しました。車椅子での乗車体験、車椅子の固定方法をはじめ日々の業務で感じている事の意見交換を行いました。

10月に県立総合療育相談センター主催の看護研修に1名、3月の神奈川県身体障害者療護施設協議会主催の看護研修に2名の看護師が参加しました。また、AEDの取り扱い訓練については全職員が参加することができました。その他、神奈川県身体障害者施設協議会が主催した研修に支援員1名が参加し、各施設における活動の取り組みについて学び、支援技術の向上に努めました。【表 3-2-3】

3 支援の状況

(1) 理学療法士によるリハビリテーション支援

- ① 理学療法士1名が月3回（水・木曜中心）来園しました。嘱託医の整形外科医の指示のもと、リハビリテーションを実施し、幅広い利用者のニーズに応えることができました。また、職員へ指導とアドバイスを頂くことにより、日々の活動の中で機能訓練やストレッチ、マッサージ等を提供することができました。
- ② 車椅子の新規作成依頼が1件、修理依頼が1件あり、利用者、家族、理学療法士、業者と連携し対応しています。

(2) 関係機関との連携

- ① 利用者の通園日の増加希望に対し、当園の相談支援専門員と連携を図り、利用調整会議を開き検討を行ないました。
- ② ソーレ平塚と合同で4月、7月、10月に平塚市役所で開催された「展示即売会」

に作品を出品しました。出品に際しては、地域作業所の職員と相談しつつ、展示方法を工夫しました。

(3) 防災対策

6月に伊勢原市消防本部職員を講師に招き、消火訓練を実施しました。また、11月に総合防災訓練に利用者が参加して、避難路の確認や消火設備などの設置場所の確認を行なうとともに、消防計画における自主消防隊の役割分担について学びました。

(4) 実習生の受け入れ

9月に東海大学医学部2年生1名を4日間受け入れました。障がい者支援を通じ、人とのコミュニケーションの取り方を学ぶという実習の目的を確認し、それに沿った実習指導を行うことができました。

4 事業の実施状況

(1) 事業の名称

地域活動支援センター

利用者の状況（利用人数）

表 3-1-1～表 3-1-8 参照。

(2) 活動内容および支援方法

表 3-1-9～表 3-1-12 参照。

(3) 各関係機関との連絡連携

表 3-2-1～表 3-2-4 参照。

V 相談支援事業（生活支援センター）

1 概況

伊勢原市では、平成 29 年度より、通所受給者証の更新時期が大きく変わりました。それまでは年度末の更新でしたが、平成 29 年度からは誕生月の更新へと変更になりました。それに伴い、受給者証更新におけるサービス等利用計画の作成時期も変わりました。年度末に集中していたものから、誕生月へと分散されました。そのことにより、利用者一人ひとりに対して、より丁寧に面接を行うことができるようになりました。

職員体制として、相談支援専門員を 1 名増やし、多様な相談に対応できる体制作りに取り組みました。伊勢原市内だけではなく、他市の児童発達支援事業、放課後等デイサービスの利用に関する相談も受ける機会が増えました。

平成 29 年 9 月より、相談支援専門員 1 名があげぼの園相談支援事業と兼務となりました。

平成 30 年 3 月 31 日現在のすこやか園生活支援センターの計画相談支援実施状況は、特定相談支援事業契約者数が 73 名、障害児相談支援事業契約者数が 123 名でした。

2 平成 29 年度の運営目標に対する評価

(1) 法人内の相談支援事業所間での情報交換について

平成 29 年度より、月に一度、法人内の相談支援事業所（ソーレ平塚生活支援センター、すこやか園生活支援センター）の相談支援専門員が集まり、情報交換を行いました。始めに、それぞれの事業所が使用している書式や統計の取り方などを確認しました。さらに、情報の管理方法について話し合い、クラウドサービスを活用して情報管理を行うことにしました。平成 29 年 10 月より、あげぼの園相談支援事業で導入しています。

また、法人内相談支援事業の一本化に向けた話し合いを行い、メリットや懸案事項について確認をしました。平成 30 年度は、より具体的に内容を詰めていく予定です。

(2) 相談支援専門員のスキルアップについて

平成 29 年度の職員体制は、5 月に常勤職員 1 名が加わり、常勤職員 3 名、非常勤職員 1 名体制となりました。そのことで、相談支援専門員 2 名で面談や家庭訪問を行うことができるようになりました。職員間で、面接後に振り返りを行うようにし、話の聞き方や情報提供の仕方などを確認し合い、面接技術の向上に努めました。

また、新規に開設されたサービス提供事業所の見学を行い、地域の社会資源の情報収集を行いました。

3 事業の実施状況

(1) 事業の名称

指定特定相談支援事業（伊勢原市指定）

指定障害児相談支援事業（伊勢原市指定）

(2) 相談者の状況（相談件数）

表 4-1-1 参照。

(3) 相談内容および支援方法

表 4-1-2 参照。

(4) サービス等利用計画作成数及びモニタリング実施件数

表 4-1-3 参照。

VI 日中一時支援事業

1 概況

今年度より、初めて月1回の土曜日開催を試行的に実施しています。また、一月あたり5回の利用回数の上限を撤廃したことにより、事前の利用希望申し込みでは常に5人定員一杯の利用希望があり、家族から感謝されました。

今年度は6月に新規登録が1名あり、また、3月に卒業に伴い、1名が利用終了となりました。3月31日現在の延べ利用数は318名で1日あたり、平均3.3名の利用がありました。登録人数は、学齢児12名と幼児3名、また、人工呼吸器を使用しており、それを設置出来ないなどの環境上の理由から、地域活動支援センターでの受け入れが困難な利用者(19歳)1名を受け入れたため、16名となっています。そのうち医療的ケアを必要とする利用児(重心加算医療ケア対象)が11名でした。

2 平成29年度の施設運営目標に対する評価

(1) 利用児一人ひとりが気持ち良く過ごせる環境の整備について

子どもの目線に合わせた装飾などを用いて、季節感を感じられる環境作りを行いました。支援においては、地域活動支援センターと連携し、エアーマットを使用しての感覚刺激やライトやアロマを使用したりラクゼーション活動を行い、また、楽器を使った音楽活動なども少しずつ取り入れており、地域活動支援センターの利用者と一緒に楽しみました。

(2) 家族との日々の体調面の変化などについての、情報の共有について

当園で把握している利用児に関する「診療情報」の見直しを行いました。特に「医療情報」、「緊急時の対応」、「緊急時連絡先」の確認のため、家族と連携しました。また、年度途中で人工呼吸器を使用することになった利用児について、相談を通じて保護者と連携し、利用児の現状把握に努め、対応について検討し、利用再開へ向け、準備を行いました。

(3) 職員間で日々の支援を振り返り、より良い支援を目指して

医療的ケアの必要な利用児が増え、現状の支援方法が適切か、医療情報が利用児の現状に即した内容であるかを確認しました。家族からの情報と主治医からの診療情報を支援のベースとすることを職員間で確認し、介助方法や支援内容が成長する利用児

の現状や年齢にあった支援となっているのかを確認しました。対応の一覧をまとめ、会議や振り返りの中で共有しました。

3 事業の実施状況

(1) 利用児支援

移乗介助については、二人介助を基本とし、安全面を考慮しました。また、クッション性のあるマットやジョイントマットを活用して、褥瘡予防やより安楽な姿勢が保てるように配慮しました。定期的に作業療法士が入り、マッサージの施行や姿勢の評価を行いました。移乗時は、介助者の腰への負担を軽減するために、利用児を段差のある場所まで移動した上で抱え、なるべく車椅子までの移乗距離を短くするよう工夫しました。環境面では、天井や窓ガラスなどに季節に応じた装飾を行い、臥床時でも、目で楽しめ、リラックスできるような空間を作りました。

(2) 家族支援

定期的な利用と併せて、急な利用希望や空きが生じた際の追加利用など、できる限り柔軟に対応しました。

昨年度、利用者アンケートの中で開催日増の希望が多かったことと利用促進のため、4月より一月あたり5回の利用回数の上限を撤廃しました。また、新たに土曜日開催を月1回試行的に実施しました。上半期は5月、6月とわずか2回の開催でしたが、土曜日開催の平均利用数は4名と大変多くの利用がありました。また、事前の希望申し込みでも、定員を上回る希望がありましたが、利用理由や公平性を考慮し調整しました。その一方で下半期に入ると、利用希望は減少し、10月・1月・2月の3回の開催にとどまりました。土曜日開催については、利用者の兄弟児の学校行事などとも重なり、「土曜日開催を利用できてよかった。」との意見を多くいただく一方で、利用希望に波があり、希望者0人という月もあるなど、保護者のニーズに対応できているのか検証する必要があると、試行を継続することとしています。

(3) サービスの質の向上

利用児の個別支援目標を通じて、一人ひとりの興味・関心、身体状況など職員間で共通認識しアプローチすることで、より一層利用児の過ごしを深めることができました。また、職員会議にてヒヤリ・ハット報告及び事故報告の内容を共有し、事故を未

然に防ぐ改善策の検討を行いました。

(4) 関係機関との連携

6月と2月に平塚養護学校主催の放課後支援事業所連絡会に出席し、利用児の状況、懸案事項の確認や各事業所からの情報収集に努めました。また、5月に重症心身障がい児の利用希望が1名と、3月に人工呼吸器をつけ重症心身障がい児の利用再開の希望があり、当園の相談支援専門員や児童療育課職員と連携し、利用調整会議を開催し、対応の検討を行いました。

その他、学校の研修で養護学校の教員が来園し、利用児の情報交換を行いました。

4 事業の実施状況

(1) 事業の名称

日中一時支援事業

(2) 利用者の状況（利用人数）

表 5-1-1～表 5-1-4 参照。

(3) 各関係機関との連絡連携

表 5-1-5～表 5-1-6 参照。

関係資料1 すこやか園の状況（全体に関わるもの）

表1-1 全体等に関わる会議・説明会・式典等

説明会	内 容	場 所	出席者
4/3	辞令交付式・法人新採用オリエンテーション	ソーレ平塚	園長・福田
4/4	法人永年勤続表彰授与式	ソーレ平塚	石川・大豆生田・小俣
4/26	平成29年度神奈川県予算説明会	県民ホール	園長
5/10	法人機関誌編集委員会①	ソーレ平塚	小俣
5/13	法人就職説明会	ソーレ平塚	楢原
5/30	法人監事監査	ソーレ平塚	園長・石川・春木・佐藤
6/2	法人理事会	ソーレ平塚	園長・石川・春木
6/13	災害時支援部会	伊勢原市役所	春木
6/17	評議員会	すこやか園	園長・石川・春木
7/4	施設運営会議	すこやか園	園長・矢野・石川・春木・大豆生田
7/5	法人機関誌編集委員会②	ソーレ平塚	小俣
7/6	職員健康診断	すこやか園	対象職員
7/6	山北第三地区福祉協議会役員研修会	すこやか園	園長
7/13	伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会	伊勢原市役所	園長・矢野
7/21	利用団体連絡会	すこやか園	園長・春木
7/21	法人職員交流会	伊勢原ボウル	
7/25	すこやか園運営委員会①	すこやか園	園長・矢野・石川・大豆生田・春木
8/29	JSYネット定例会	ソーレ平塚	園長・石川
9/4	総括安全衛生委員会	ソーレ平塚	園長・春木
9/13	災害時支援部会	伊勢原市役所	春木
10/10	赤い羽根街頭募金	伊勢原駅前	関・重田
10/19	災害時支援部会	伊勢原市役所	春木
11/1	虐待防止オレンジリボン街頭キャンペーン	伊勢原駅前	大豆生田
11/14	インフルエンザ予防接種	すこやか園	対象職員
11/30	法人内部監査	あけぼの園	佐藤
11/30	法人施設事務員会議	あけぼの園	佐藤
12/3	障害者週間街頭キャンペーン	伊勢原駅前	小川
12/11	年末たすけあい街頭募金	伊勢原駅前	石川
12/18	災害時支援部会	伊勢原市役所	春木
1/17	表彰懲戒委員会	ソーレ平塚	園長
2/2	伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会	伊勢原市役所	園長・矢野
2/8	社会福祉協議会施設部会	社会福祉会館	春木
2/9	すこやか園運営委員会②	すこやか園	園長・矢野・石川・大豆生田・春木
2/14	神奈川県内公立障害児者通園施設、通園事業連絡協議会定例会	寒川町	園長

2/16	伊勢原市要保護児童対策地域協議会 実務者会議	青少年センター	石川
3/2	法人理事会	ソーレ平塚	園長
3/12	平成30年度障害福祉サービス報酬改定の概要についての説明会	横浜かながわ県民センターホール	石川・佐藤
3/7	JSYネット定例会	ソーレ平塚	園長・石川・春木
3/17	評議員会	秦野北公民館	園長・石川・春木
3/23	総括安全衛生委員会	精陽学園	園長・春木
3/23	あけぼの園卒園式	あけぼの園	園長

※法人経営会議は毎月園長が出席。

表1-2 内部会議

会議内容	参加者	回数
運営会議	園長、石川、大豆生田、矢野、佐藤、福田、春木	13
全体職員会議	各事業の定例会議出席職員	1
児童療育課会議	園長、児童療育課職員	11
ひなたぼっこ会議	園長、日中一時支援事業職員、春木	8
利用調整会議	園長、石川、大豆生田、矢野、佐藤、福田、春木	4
センター会議	園長、地域活動支援センター職員	12

表1-3 全体等に関わる研修

実施日	内 容	場 所	参加者
8/29	JSYネット研修会	ソーレ平塚	園長
10/5	安全運転管理者法定講習会	伊勢原市民文化会館	福田
11/28	福祉施設のための苦情対応セミナー	損保ジャパン	石川・春木
12/6	障がい者虐待防止に関する研修	みどり園	関根・南川
12/8、18	神奈川県障害者虐待防止・権利擁護研修	平塚合同庁舎	石川
1/25	施設職員災害対応研修	パシフィコ横浜	春木
3/12	第4回事務研修部会	かながわ県民センター	石川・佐藤

表1-4 ふれあい福祉まつり関係

内 容	実施日
主管打ち合わせ	7/28
実施委員会	9/5、10/3、11/7、12/19
日産（株）への挨拶・打ち合わせ	9/19
ふれあい福祉まつり（当日）	12/9

表1-5 防災訓練

実施日	内 容	実施者	備 考
7/12	消火器訓練	伊勢原市消防署職員	当日の出勤職員
11/15	地震・火災想定 of 総合防災訓練	防災訓練係	職員及び館内利用児者
12/6	総合訓練実施後の振り返り	防災訓練係	当日の出勤職員
1/31	応急救護訓練	伊勢原市消防署職員	当日の出勤職員

表1-6 工事・修繕関係

期 間	内 容	場 所
7/21	送迎車レジアス冷却水漏れ修理	
9/25	送迎車レジアス固定スイッチ修理	
9/26	防犯カメラの設置	正門付近、正面玄関、2階作業室前バルコニー、2階活動室裏の非常口自動ドア付近
9/26	入浴設備の更新(座位浴)	1階浴室
9/30	誘導灯予備電池の交換	1階事務室前
2/24	東側外壁窓枠シーリング修繕	2階プレイルーム4
3/19	小便器自動フラッシュバルブ交換修繕	2階男子トイレ
3/24	蛍光灯老朽化に伴う不具合の為の部品交換	1階7レベル-41、1階7レベル-45、1階更衣室、1階録音室
3/28	侵入防止柵の取り付け	1階談話室前廊下

表1-7 ボランティア利用人数

(単位：人)

	録音奉仕団	点訳奉仕団	拡大写本奉仕団	手話サークル	ことばの教室	その他
4月	147	78	34	81	2	0
5月	75	89	55	61	153	0
6月	104	101	54	100	201	0
7月	89	65	41	72	90	0
8月	44	21	13	112	11	0
9月	54	64	53	64	160	0
10月	92	72	51	88	189	0
11月	83	120	54	62	178	0
12月	66	92	39	60	108	0
1月	91	81	55	63	129	0
2月	97	91	42	65	165	0
3月	92	54	56	82	102	0
計	1,034	928	547	910	1,488	0
利用者総数	4,907					

表1-8 職員の現状・動向

(単位:人)

職 員					内 訳 等								その他		
					法人内異動		平成29年度採用				平成29年度末および平成29年度途中退職				
職 種	常勤	準職員	正職員 766名	委託	転入	転出	常勤	準職員	正職員 766名	委託	常勤	準職員	正職員 766名	委託	
園 長		1													
事務	1		1						1				1		
児童療育課	課長	(1)												園長兼務	
	保育士	5									1				
	児童指導員	2													
	臨床発達心理士	1													
	言語聴覚士			1											
	作業療法士			1											
	医師				1										
	看護師			(2)											地域支援課看護師兼務
	添乗員			1											
職 種	常勤	準職員	正職員 766名	委託	転入	転出	常勤	準職員	正職員 766名	委託	常勤	準職員	正職員 766名	委託	
地域支援課	課長	(1)												園長兼務	
	主任	1													
	副主任	1			1										
	相談員	3		1	1									常勤職員1名 あけびの園兼務	
	支援員	1	1	5		1							1		
	看護師	1		3									1		
	理学療法士				1										
	医師				1										
	入浴介助員			4					1						
	運転員			3 (1)											入浴介助員兼務
清掃員			2												
合 計	16 (2)	2	22 (3)	3	2	1			2		1		3		

※ () はカウント人数に入らない兼務職員の数

平成29年度 ヒヤリハット・事故報告のまとめ (児童療育課)

【表1-9】

日課	種別	負傷・怪我	子ども同士のトラブル	器物破損	送迎バス	情報伝達	物品管理	運営管理	個人情報関係	その他	計内()事故
08:30	バス迎え～				○ ●送迎バス自損						2(1)
09:50	バス帰園										0
09:50	登園	●ロッカーに衝突し裂傷						○20		◇	22(1)
	おしたく 自由遊び							○32		■実績表サイン漏 ●契約支給量の記入ミス	34(2)
10:30	朝のあいさつ 運動遊び 中休み・おあつまり					ほとんどが朝の自由遊びの10時過ぎに集中!		●教材(小豆)を食 ○24			25(1)
11:30	活動～							○13			13
12:00	昼食 はみがき										
13:00	自由遊び 活動					ほとんどが午後の自由遊びの13時頃に集中!		○28	○		29
13:20	帰りのあつまり							○○○○○○○ ○			7
13:30	降園										0
13:30	バス送り～							△	■現本に黒塗		2(1)
14:30	バス帰園										0
14:30	療育等						○	○26			27
17:30	～										0
	発生時間不明等									▲自負担金請求漏 ▲領収書誤送付	2(2)
	計内()事故	1(1)	0	0	2(1)	0	1	152(1)	2(1)	5(4)	○153△1◇1 ●4■2▲2 合計 163(8)

○；グループヒヤリハット □；個別ヒヤリハット △；事務ヒヤリハット ◇；保訪ヒヤリハット ●；G事故報告 ■；個別事故報告 ▲；事務

平成29年度 ヒヤリハット・事故報告のまとめ（地域支援課）

日課	種別	負傷怪我	送迎関係	器物破損	トラブル	誤薬関係	食物関係	感染症関係	情報伝達	物品管理	運営管理	個人情報関係	その他	計内()事故
08:35 迎え出発～									●●送迎時間変更伝達ミス ●送迎変更確認ミス				△面談時間調整不良	4(3)
10:00 送迎車到着									○		○利用者の把握ミス		●職員の基本行動ミス	3(1)
10:00 朝の会、体操、水分補給、バイタルチェック					○○									2
10:30 午前の活動、入浴											○○			2
11:30 午前の活動終了、昼食準備														0
11:45 昼食、歯磨き 休息							●弁当刻に使用したゴム手袋の先が混入							1(1)
13:00 午後の活動、入浴					○				○	●私物ボットの破損	●現金をシュレッダー	●利用者待せ ●胃ろうカテーテル抜け ●介助時のシャツ破損	7(5)	
15:40 帰りの会														0
16:00 送り出発～			○ ●ドアの不具合										●記載ミス	3(2)
17:00 送迎車帰園													▲駐車間違	1(1)
17:30 振り返り等														0
17:30 ~														0
発生時間不明等														0
計内()事故	0	2(1)	0	0	3	1(1)	0	0	4(3)	1	4(1)	1(1)	7(6)	09△1●12▲ 1 23(13) 合計

○；地活ヒヤリハット □；日中ヒヤリハット △；相談ヒヤリハット ●；地活事故報告 ■；日中事故報告 ▲；相談事故報告

関係資料2 児童療育課

表2-1 職員外部研修

実施月	内 容	参加者
6月	サービス管理責任者 補足研修	関根
6月	乳幼児期の発達障害のアセスメントと支援	橋原・本間
6月	放課後等デイサービスつくしんぼ施設見学	小保・勅使河原
7月	放課後等デイサービスアクアパーク施設見学	勅使河原
7月	児童発達支援事業 なのはな施設見学	石川
7月	放課後等デイサービス／保育所等訪問支援 なのはな栄町施設見学	大豆生田・勅使河原
7月	福祉サービス第三者評価に関する事業者説明会	石川
7月	児童発達支援事業こども教室あん施設見学	石川・大豆生田
8月	児童思春期精神科セミナー「子どもの心への様々なアプローチ」	勅使河原
8月	児童発達管理責任者研修（8月・9月 全3回）	関根
9月	インクルージョン保育の実態と課題（1）保育所等訪問制度の中の発達支援の進め方	大豆生田
10月	WISC-IV知能検査技術講習会	勅使河原
11月	WISC-IV知能検査技術講習会	大豆生田
2月	全国児童発達支援協議会研修会	園長

表2-2 利用児状況（単位：人）

月名	登録数	全登園日数	延べ利用人数	出席率	開所日
4月	75	265	234	88.3	17
5月	76	306	254	83.0	20
6月	76	351	293	83.5	22
7月	76	310	258	83.2	20
8月	76	292	215	73.6	18
9月	76	324	258	79.6	20
10月	76	329	261	79.3	21
11月	76	323	263	81.4	20
12月	76	285	224	78.6	18
1月	76	269	219	81.4	18
2月	75	308	237	76.9	20
3月	74	275	216	78.5	19
合計	908	3637	2932	80.6	233

表2-3 併行通園状況（単位：人）

	幼稚園	保育園	合計
グループ	30	4	34
個別	10	7	17
計	40	11	51

関係資料3 地域活動支援センター 利用者の状況

表3-1-1 登録者、利用実績状況

	新規	終了	登録者	前年実績	予定数	延べ人員	入浴
4月	2	0	20	154	171	152	105
5月	0	0	20	149	186	159	112
6月	0	0	20	160	201	183	129
7月	0	0	20	156	194	169	122
8月	0	0	20	147	165	149	103
9月	0	0	20	156	184	162	116
10月	0	0	20	168	203	172	115
11月	0	0	20	171	202	182	127
12月	0	0	20	130	167	158	110
1月	0	0	20	148	184	152	109
2月	0	0	20	139	184	159	105
3月	0	0	20	154	201	177	127
合計	2	0	20	1,832	2,242	1,974	1,380

表3-1-2

曜日別契約者、入浴者

曜日	契約者数	入浴
月曜日	10	7
火曜日	9	6
水曜日	10	6
木曜日	8	6
金曜日	9	7
合計	46	32

表3-1-3 障がい別利用者数

	脳性麻痺	脳血管障害	特定疾患	脳外傷	その他	合計
男	5	2	0	2	2	11
女	4	2	1	0	1	8
合計	9	4	1	2	3	19

表3-1-4 身障手帳等級別

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
男	9	2	0	0	0	0	11
女	3	4	1	0	0	0	8
合計	12	6	1	0	0	0	19

表3-1-5 療育手帳等級別

	A1	A2	B1	B2	合計
男	3	1	1	1	6
女	4	0	0	0	4
合計	7	1	1	1	10

表3-1-6 障害程度区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0	0	1	1	2	7	11
女	0	0	0	3	3	2	8
合計	0	0	1	4	5	9	19

表3-1-7 年齢層別

	18~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~	合計
男	1	4	1	4	0	0	0	10
女	1	1	3	2	2	0	0	9
合計	2	5	4	6	2	0	0	19

表3-1-8 日常生活動作状況

項目		食事			排泄			オムツ				更衣			入浴		
性別	項目	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	あり	なし	夜間のみ	導尿	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
		男	5	1	4	4	0	6	5	5				3	1	6	2
女		4	3	2	1	2	5	5	2			1	2	5	0	2	6
合計		9	4	6	5	2	11	10	7	0	0	4	3	11	2	4	12

項目		車椅子				歩行			椅座			立位			寝返り		
性別	項目	不要	自立	一部介助	全部介助	独歩	一部介助	できない	自立	一部介助	できない	自立	一部介助	できない	自立	一部介助	全部介助
		男		3	1	1	5	3	2	5	4	2	4	4	3	3	4
女		0	2	1	1	0	4	4	3	3	2	1	4	3	3	1	4
合計		3	3	2	9	3	6	9	7	5	6	5	7	6	7	3	8

表3-1-9 行事

日付	行事名	場所
4/2~4/15	バースデーカード作り	すこやか園
4/14, 15	平塚市春のてんそく (ソーレ平塚と共同出品)	平塚市役所
4月~5月	創作企画 (みかん染め・椿染め・桜染め)	すこやか園
6月~7月	創作企画 (藍染 Tシャツ作り)	すこやか園
5/8~6月中旬	利用者・家族面談	すこやか園
7/6, 7	夏のてんそく (ソーレ平塚と共同出品)	平塚市役所
7/17, 18	夏祭り	すこやか園
7/17, 18	夏祭り企画 (藍染Tシャツファッションショー)	すこやか園
10/24, 26, 27 11/6, 8, 16	日帰り旅行	ららぽーと平塚
10/5, 6	平塚市秋のてんそく (ソーレ平塚と共同出品)	平塚市役所
11/3~5	伊勢原市民文化祭	伊勢原市中央公民館
11/14	インフルエンザ予防接種	すこやか園
11/15	避難訓練 (利用者参加)	すこやか園
12/9	ふれあい福祉まつり (フェルトせっけんデコスweets販売出品)	すこやか園
12/13, 14	クリスマス会	すこやか園
1/4, 5	新年会	すこやか園
1/17~19	伊勢原市福祉展	伊勢原市中央公民館
2/1, 2	節分豆まき	すこやか園
2/23	利用者・家族懇談会	すこやか園
3月	創作 (藍染 のれん作り)	すこやか園

その他、定例活動：創作 (フェルト手芸) (茶々のデコスweets)、プラ板製作、スヌーズレン、書道、各種活動ミーティング

表3-1-10 活動

活動内容	活動日
フェルト手芸	火 (AM) ・木 (AM)
プラ版製作	火 (AM)
スヌーズレン	月 (PM) ・木 (AM)
バルーンストレッチ	火 (AM)
書道	水 (PM)
エアクッション	金 (AM)
体操	金 (AM)
茶々のデコスイーツ	水 (AM) 金 (PM)
個別活動：散歩、パソコン、絵本の読み聞かせ、言語訓練、歩行訓練、車椅子自走訓練、ペグさし、卓上競技、ドリル、楽器演奏、彫金、園芸、塗り絵等	

表3-1-11 PTによるリハビリテーション

内 容	対象人数
ストレッチ (拘縮予防)	14名
歩行訓練 (運動)	3名

表3-1-12 ボランティアの受け入れ

内 容	人数	活動日
書道	1名	水曜日

表3-2-1 関係機関との連携

機 関 名	内 容
JA訪問看護ステーション	利用者の健康状態の情報交換
ハーモニーケア訪問看護ステーション	利用者の健康状態の情報交換
いせはら訪問看護ステーション	利用者の健康状態の情報交換
居宅介護支援事業所きずな	利用者の情報交換
STサービス	利用者の情報交換
ソーレ平塚	作品展関係
地域作業所ドリーム	作品展関係
伊勢原協同病院	利用者の情報交換
木村義肢製作所	車椅子作製・修理
天本ブレース	補装具修理
ヘルスケア	入浴物品関係
いわしや西方医科器械	医療物品関係
宅配クック123	利用者のお弁当
伊勢原市社会福祉協議会	ボランティア募集依頼
伊勢原市障害福祉課	利用者の情報交換、相談、報告

表3-2-2 施設外部会議等

実施日	内 容	場 所	出席者
9/15 1/12	重心及び医療ケア支援NW会議	平塚養護学校	春木
11/29	進路に関わる連絡会	平塚養護学校	春木
2/3	事業所情報交換会	ソーレ平塚	勝山・春木

表3-2-3 施設外部研修等

実施日	内 容	場 所	出席者
9/28	身障協研究研修	リエゾン笠間	小川
10/25	心身障害児療育普及研修	総合療育相談センター	重田
12/6	障がい者虐待防止に関する研修	みどり園	南川
1/25	施設職員災害対応研修	パシフィコ横浜	春木
2/8	神奈川県社会福祉協議会 施設部会研修会	神奈川県社会福祉会館	春木
3/8	身体障害者療護施設協議会 看護職研修	神奈川県社会福祉会館	重田・西原

表3-2-4 実習生の受け入れ

実施日	学校	人数
9/26～10/1	東海大学 医学部	1名

関係資料4 生活支援センターの状況

表4-1-1 平成29年度 相談件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談者	本人	30	24	24	31	32	28	35	25	22	37	51	51	390
	家族	97	68	84	84	99	96	82	68	74	107	141	145	1,145
	関係機関	69	79	63	106	88	106	136	79	103	112	169	179	1,289
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	196	171	171	221	219	230	253	172	199	256	361	375	2,824
性別	男性	120	88	106	144	134	154	144	110	123	170	231	211	1,735
	女性	63	70	54	60	63	62	81	48	59	60	90	121	831
	合計	183	158	160	204	197	216	225	158	182	230	321	332	2,566
年齢	幼稚園・保育園	52	20	42	55	76	75	57	40	58	69	114	110	768
	未就学(その他)	35	36	26	26	32	23	60	13	41	59	89	99	539
	小学校	5	6	17	39	18	13	11	4	19	12	21	17	182
	中学校	1	0	4	11	9	1	3	2	1	0	2	8	42
	高等学校	0	0	3	2	2	4	0	9	9	4	11	17	61
	18歳以上	44	42	22	28	20	39	44	53	33	42	31	20	418
	40歳以上	29	35	29	28	33	56	37	32	21	39	40	56	435
	65歳以上	17	19	17	15	7	5	13	5	0	5	13	5	121
	不明		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	183	158	160	204	197	216	225	158	182	230	321	332	2,566
障がい別	身体障がい	79	86	64	78	63	89	85	76	48	87	83	69	907
	知的障がい	35	26	27	33	19	34	26	37	29	33	43	26	368
	重症心身障がい	12	8	14	25	20	9	8	14	13	27	41	55	246
	精神障がい	3	8	3	10	2	9	4	1	2	6	4	1	53
	発達障がい	16	14	18	29	18	22	13	7	15	23	27	7	209
	高次脳障がい	5	6	2	0	8	23	11	7	14	11	17	12	116
	その他	64	49	50	60	91	87	97	57	100	86	155	193	1,089
	合計	214	197	178	235	221	273	244	199	221	273	370	363	2,988

表4-1-2 平成29年度 相談内容・対応方法

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談内容	福祉サービス	160	136	135	187	180	212	212	145	176	201	302	315	2,361
	障がい・病状	28	22	11	13	14	6	19	11	8	18	18	15	183
	健康・医療	2	7	21	24	17	17	29	14	11	45	34	26	247
	不安・情緒不安定	3	2	4	0	0	0	0	0	0	0	3	3	15
	保育・教育	10	10	24	17	36	20	30	12	23	18	23	38	261
	家族・人間関係	12	13	11	5	13	8	14	10	7	16	19	15	143
	家計・経済	8	3	2	1	1	0	2	3	1	4	1	0	26
	生活技術	1	1	2	2	3	5	2	0	1	0	0	0	17
	就労	3	1	2	1	3	1	2	2	1	4	1	1	22
	社会参加・余暇	1	4	0	2	0	0	3	0	1	2	1	0	14
	権利擁護	5	3	0	3	1	0	2	16	5	4	2	2	43
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	合計	233	202	212	255	268	269	315	213	236	312	404	415	3,334
支援方法	訪問	15	22	32	33	19	19	19	19	16	18	41	43	296
	来所	74	39	37	38	45	42	45	23	19	41	50	52	505
	同行	0	0	0	1	1	4	0	0	1	2	1	2	12
	電話・FAX	31	27	33	29	46	46	31	43	47	64	73	71	541
	メール	2	0	2	2	4	3	3	0	1	1	2	6	26
	会議	2	4	0	0	1	0	2	0	2	2	5	3	21
	関係機関	59	66	56	101	81	102	125	73	96	102	149	155	1,165
	合計	183	158	160	204	197	216	225	158	182	230	321	332	2,566

表4-1-3 平成29年度 サービス等利用計画作成数及びモニタリング実施件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス等利用計画	112	3	4	3	13	11	18	16	12	14	8	16	230	
モニタリング	14	25	28	38	45	38	34	24	28	29	42	35	380	
合計	126	28	32	41	58	49	52	40	40	43	50	51	610	

表4-2-1 会議等

実施日	内 容	場 所	出席者
4/21	相談支援部会	伊勢原市役所	矢野・津野
4/26	相談員の集い	すこやか園	矢野・津野・関
4/28	相談支援事業検討ワーキング	伊勢原市役所	矢野
5/16	相談支援部会	伊勢原市役所	矢野
5/19	こども支援部会	伊勢原市役所	津野・関
5/24	相談員の集い	ソーレ平塚生活支援センター	矢野・津野・関
6/9	相談支援部会（事業所見学会）	ソーレ平塚 ソーレ平塚地域支援センター つくし クロスワーク伊勢原	矢野・津野・関
6/14	障害児相談支援事業所打ち合わせ	伊勢原市役所	矢野・津野
6/23	相談員の集い	すこやか園	矢野・津野・関
6/28	企画運営会議	伊勢原市役所	矢野
6/28	成年後見・権利擁護サポート連絡会	シティプラザ	関
6/29	相談支援ネットワーク会議	平塚市役所	矢野・関
7/13	伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会	伊勢原市役所	藤原・矢野
7/14	平塚養護学校市町別情報連絡会	平塚養護学校	矢野
7/18	相談支援部会	伊勢原市役所	矢野・津野・関
7/19	虐待防止ネットワーク実務担当者会議	伊勢原市青少年センター	矢野
7/21	相談員の集い	すこやか園	矢野・津野・関
8/4	こども支援部会	伊勢原市役所	津野・関
8/31	相談員の集い	ソーレ平塚生活支援センター	矢野・津野・関
9/8	相談支援事業検討ワーキング	伊勢原市役所	矢野
9/15	重心・医療的ケア支援ネットワーク会議	平塚養護学校	矢野
9/19	相談支援部会	伊勢原市役所	矢野・関
9/26	企画運営会議	伊勢原市役所	矢野
10/5	相談員の集い	ソーレ平塚生活支援センター	矢野・津野・関
10/11	こども支援部会（事業所見学会）	県立子ども自立生活支援センター クリエイティブ ジョイフルジョイフル	矢野・津野・関
10/12	企画運営会議	伊勢原市役所	矢野
10/23	湘南西部圏域自立支援協議会	平塚保健福祉事務所	矢野
10/24	成年後見・権利擁護サポート連絡会	シティプラザ	関
10/27	相談支援部会	伊勢原市役所	矢野・関
11/17	企画運営会議	伊勢原市役所	矢野
11/22	相談員の集い	すこやか園	矢野・津野・関
11/29	肢体不自由教育部門生徒の進路に関わる連絡会	平塚養護学校	矢野
11/30	相談支援部会（事業所見学会）	ぱれっと・はだの ひまわり せいかわ あとり	矢野・津野・関
12/21	こども支援部会	伊勢原市役所	津野・関
1/12	相談員の集い	ソーレ平塚生活支援センター	矢野・津野・関
1/16	相談支援部会	伊勢原市役所	矢野・関
1/26	企画運営会議	伊勢原市役所	矢野
2/2	伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会	伊勢原市役所	藤原・矢野
2/2	重心・医療的ケア支援ネットワーク会議	平塚養護学校	矢野
2/9	相談支援部会	伊勢原市役所	矢野・関
2/15	虐待防止ネットワーク実務担当者会議	伊勢原市青少年センター	矢野
3/13	相談員の集い	すこやか園	矢野・津野・関 大野
3/14	相談支援部会	伊勢原市役所	矢野・津野・関

表4-2-2 施設外部研修等

実施日	内 容	場 所	出席者
6/26	神奈川県発達支援センター支援者向け研修	ひらつか市民活動センター	津野・関
7/27	相談支援従事者初任者研修①	戸塚公会堂	関
7/28	相談支援従事者初任者研修②	戸塚公会堂	関
9/7	相談支援従事者初任者研修③	神奈川県立公文書館	関
9/8	相談支援従事者初任者研修④	神奈川県立公文書館	関
10/30	相談支援従事者現任研修①	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	津野
10/31	相談支援従事者現任研修②	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	津野
11/7	相談支援従事者初任者研修⑤	神奈川県社会福祉会館	関
11/8	相談支援従事者初任者研修⑥	神奈川県社会福祉会館	関
11/9	相談支援従事者初任者研修⑦	神奈川県社会福祉会館	関
11/21	相談支援従事者現任研修③	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	津野

関係資料5 日中一時支援事業 利用者の状況

表5-1-1 登録者、利用実績状況

	登録者	予定数	延べ人員	平均	開催数
4月	16	34	28	3.5	8
5月	16	30	27	3.9	7
6月	17	44	38	3.5	11
7月	17	30	27	3.4	8
8月	17	29	23	3.3	7
9月	17	33	25	2.8	9
10月	17	37	31	3.4	9
11月	17	27	22	3.1	7
12月	17	28	22	3.6	6
1月	17	28	25	3.5	7
2月	17	28	25	2.8	9
3月	17	27	25	3.1	8
合計		375	318	3.3	96

表5-1-2 障がい別利用者数

	脳性麻痺	水頭症	脳炎	低酸素脳症	白質形成不全	ダウン症	AD-症候群	四肢麻痺	ウェスト症候群	四肢麻痺	ヒトヘルペス脳炎	合計
男	1	0	0	4	0	2	1	1	1	0	0	10
女	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	6
合計	1	1	1	5	1	2	1	1	1	1	1	16

表5-1-3 医療状況 H30.3.31現在

	吸引	酸素吸入	経管栄養	気管切開	人工呼吸器	発作
男	4	1	6	3	0	5
女	4	1	4	2	1	6
合計	8	2	9	2	1	11

※一人当たり複数該当あり

表5-1-4 学齢

	幼児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	19歳	合計
男	3	2	0	0	0	1	0	1	3	0	1	0	0	0	11
女	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	6
合計	3	2	0	0	0	1	1	2	3	0	1	1	1	1	17

表5-1-5 研修・見学

実施日	内容	場所	出席者
10/24	学校へ行こう週間	平塚養護学校	米満・服部・行田・武田・春木

表5-1-6 関係機関との連携・会議

実施日	内容	場所	出席者
6/19	放課後支援事業所連絡会	平塚養護学校	春木
11/29	平塚養護学校肢体不自由教育部門生徒の進路に関わる連絡会	平塚養護学校	春木
2/12	放課後支援事業所連絡会	平塚養護学校	春木